

法学部 法律学科 (2019年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■社会法科目	社会法の現代的展開		3	2	
	LAW343M 未開講	3年			
■商事法科目	企業法の現代的展開		3	2	
	LAW372M 未開講	3年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀 康士	2学期	1	2	1
	1年				
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	2
	1年				
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	3
	1年				
	人文地理学 GEO110F 外柙保 大介	2学期	1	2	4
	1年				
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	5
	1年				
	地誌学 GEO112F 外柙保 大介	2学期	1	2	6
	1年				
	教育とコンピューター 未開講	2学期	2	2	
	2年				
■地域科目	地域特講A (現代社会と新聞ジャーナリズム) SPL101F 稲月 正	1学期	1	2	7
	1年				
	地域特講B SPL201F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	8
	1年				
	地域の社会と経済 ECN170F 柳 永珍	1学期	1	2	9
	1年				
	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	10
	1年				
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	1	2	11
1年					
地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	1	2	12	
1年					
地域と国際 RDE003F 吉村 英俊	1学期	1	2	13	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■地域科目	地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	14
		1年			
	北九州市の都市政策 PLC270F 未開講	1学期	2	2	
		2年			
まなびと企業研究I CAR270F 未開講	2学期	2	2		
	2年				
まなびと企業研究II CAR370F 未開講	1学期	3	2		
	3年				
■環境科目	環境特講A SPL102F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	環境特講B (現代社会とエシカル消費) SPL202F 大平 剛	2学期	1	2	15
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	16
		1年			
	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	17
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	18
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	19
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	20
	1年				
動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	21	
	1年				
自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	22	
	1年				
生命科学入門 BIO200F 日高 京子	2学期	1	2	23	
	1年				
環境ESD入門 ENV102F 石川 敬之	2学期	1	2	24	
	1年				

法学部 法律学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界(地球)科目	世界(地球)特講A(テロリズム論) SPL103F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	25
		1年			
	世界(地球)特講B SPL203F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期	1	2	26
		1年			
	国際学入門 IRL110F 伊野 憲治	2学期	1	2	27
		1年			
	安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	28
		1年			
	現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期	1	2	29
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	30
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 田中 淳平 他	1学期	1	2	31
		1年			
	近代史入門 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	32
		1年			
	Japanese Culture and Society ARE221F 未開講	2学期	2	2	
	2年				
English Speaking Cultures and Societies ARE231F 未開講	2学期	2	2		
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 未開講	2学期	2	2		
	2年				
可能性としての歴史 HIS200F 未開講	2学期	2	2		
	2年				
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	33
		律 1 - 1			
	アカデミック・スキルズI GES101F 日高 京子	1学期	1	2	34
		律 1 - 2			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 伊野 憲治 他	1学期	1	2	35
		律 1 - 3			
	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	36
		律 1 - 4			
	アカデミック・スキルズI GES101F 浅羽 修丈	2学期	1	2	37
		1 学期未修得者再履			
	アカデミック・スキルズI GES101F 中尾 泰士	2学期	1	2	38
		1 学期未修得者再履			
	アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) GES102F 中尾 泰士	2学期	1	2	39
		1 年			
	アカデミック・スキルズII GES102F 浅羽 修丈	2学期	1	2	40
		1 年			
	アカデミック・スキルズII GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	41
		1 年			
	アカデミック・スキルズII GES102F 戸蔭 仁司	2学期	1	2	42
		1 年			
アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) GES102F 永末 康介	2学期	1	2	43	
	1 年				
アカデミック・スキルズII (教養を磨く『新聞のちから』) GES102F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介、稲月正	2学期	1	2	44	
	1 年				
知の技法特講A SPL104F 休講	1学期	1	2		
	1 年				
知の技法特講B SPL204F 休講	2学期	1	2		
	1 年				
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	45	
	1 年				
法への誘い LAW001F 小野 憲昭	2学期	1	2	46	
	1 年				
コンピューターリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	47	
	1 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	データ分析 INF201F 未開講	2学期	2	2	
	2年				
■知の創造科目	知の創造特講A SPL105F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	知の創造特講B (戦後の日本経済) SPL205F 土井 徹平	2学期	1	2	48
	1年				
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	49
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	50
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	51
	1年				
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	52
	1年				
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	53
	1年				
	社会哲学入門 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	54
	1年				
	文化を読む LIT001F 生住 昌大 他	1学期	1	2	55
1年					
芸術と人間 PHR006F 真武 真喜子	2学期	1	2	56	
1年					
現代正義論 PHR003F 重松 博之	1学期	1	2	57	
1年					
情報表現 INF230F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	58	
1年					
倫理思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	59	
1年					
言語・認知・コミュニケーション LIN210F 未開講	2学期	2	2		
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	戦争論 PLS210F 未開講	2学期	2	2	
	2年				
■共生と協働科目	共生と協働特講A SPL106F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	共生と協働特講B SPL206F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	60
	1年				
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	61
	1年				
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	62
	1年				
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	63
	1年				
サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	64	
1年					
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	65	
1年					
地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	66	
1年					
障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	67	
1年					
共生社会論 SOW200F 未開講	2学期	2	2		
2年					
基盤演習I GES201F 未開講	1学期	2	2		
2年					
基盤演習II GES202F 未開講	2学期	2	2		
2年					
基盤力応用 GES301F 未開講	2学期	3	2		
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	ライフ・デザイン特講A SPL107F 休講	1学期	1	2	1年	
	ライフ・デザイン特講B SPL207F 休講	2学期	1	2		
	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	1年	68
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2		
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	1年	70
	メンタル・ヘルス PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2		
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	1年	72
	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2		
	フィジカル・ヘルス HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	1年	74
	フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2		
	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	1年	76
	フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2		
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	1年	78
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1		
	フィジカル・エクササイズI (テニス) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	1年	80

法学部 法律学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	81
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	82
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	83
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	84
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	85
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	86
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バレーボール) HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	87
		1年			
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	88	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	89	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	90	
	1年				
世界での学び方 CAR001F 二宮 正人 他	1学期	1	2	91	
	1年				
世界での学び方 CAR001F 二宮 正人 他	2学期	1	2	92	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 CAR210F 未開講	1学期	2	2		
	2年				
企業・団体の課題解決 CAR211F 未開講	2学期	2	2		
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I (律政群 1 - A) ENG101F 伊藤 晃	1学期	1	1	93
		律政群 1 - A			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I (律政群 1-B) ENG101F 葛西 宏信	1学期	1	1	94
		律政群 1 - B			
	Communicative English I (律政群 1-C) ENG101F 永末 康介	1学期	1	1	95
		律政群 1 - C			
	Communicative English I (律政群 1-D) ENG101F 船方 浩子	1学期	1	1	96
		律政群 1 - D			
	Communicative English I (律政群 1-E) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	97
		律政群 1 - E			
	Communicative English I (律政群 1-F) ENG101F 相原 信彦	1学期	1	1	98
		律政群 1 - F			
	Communicative English I (律政群 1-G) ENG101F 伊藤 晃	1学期	1	1	99
		律政群 1 - G			
	Communicative English I (律政 1-H) ENG101F 下條 かおり	1学期	1	1	100
		律政 1 - H			
	Communicative English I (律政群 1-I) ENG101F 酒井 秀子	1学期	1	1	101
		律政群 1 - I			
	Communicative English II (律政群 1-A) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	102
		律政群 1 - A			
Communicative English II (律政群 1-B) ENG111F 永末 康介	2学期	1	1	103	
	律政群 1 - B				
Communicative English II (律政群 1-C) ENG111F 葛西 宏信	2学期	1	1	104	
	律政群 1 - C				
Communicative English II (律政群 1-D) ENG111F 伊藤 晃	2学期	1	1	105	
	律政群 1 - D				
Communicative English II (律政群 1-E) ENG111F 伊藤 晃	2学期	1	1	106	
	律政群 1 - E				
Communicative English II (律政群 1-F) ENG111F 下條 かおり	2学期	1	1	107	
	律政群 1 - F				
Communicative English II (律政群 1-G) ENG111F 酒井 秀子	2学期	1	1	108	
	律政群 1 - G				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English II (律政 1-H) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	109
		律政 1 - H			
	Communicative English II (律政群 1-I) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	110
		律政群 1 - I			
	Communicative English III (律政群 1-E) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	111
		律政群 1 - E			
	Communicative English III (律政群 1-F) ENG102F マイケル・バーグ	1学期	1	1	112
		律政群 1 - F			
	Communicative English III (律政群 1-G) ENG102F デール・スティー爾	1学期	1	1	113
		律政群 1 - G			
	Communicative English III (律政 1-H) ENG102F ジェイムズ・ヒックス	1学期	1	1	114
		律政 1 - H			
	Communicative English III (律政群 1-I) ENG102F 安丸 雅子	1学期	1	1	115
		律政群 1 - I			
	Communicative English III (律政群 1-A) ENG102F デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	116
		律政群 1 - A			
Communicative English III (律政群 1-B) ENG102F デビッド・ニール・マクレラン	1学期	1	1	117	
	律政群 1 - B				
Communicative English III (律政群 1-C) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	118	
	律政群 1 - C				
Communicative English III (律政群 1-D) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	119	
	律政群 1 - D				
Communicative English IV (律政群 1-E) ENG112F クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	120	
	律政群 1 - E				
Communicative English IV (律政群 1-F) ENG112F デール・スティー爾	2学期	1	1	121	
	律政群 1 - F				
Communicative English IV (律政群 1-G) ENG112F ジェイムズ・ヒックス	2学期	1	1	122	
	律政群 1 - G				
Communicative English IV (律政 1-H) ENG112F マイケル・バーグ	2学期	1	1	123	
	律政 1 - H				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English IV (律政群 1-I) ENG112F 木梨 安子	2学期	1	1	124
		律政群 1 - I			
	Communicative English IV (律政群 1-A) ENG112F デビット・ ニール・ マクレラン	2学期	1	1	125
		律政群 1 - A			
	Communicative English IV (律政群 1-B) ENG112F クリステイン・ マイスター	2学期	1	1	126
		律政群 1 - B			
	Communicative English IV (律政群 1-C) ENG112F シェーン・ ドイル	2学期	1	1	127
		律政群 1 - C			
	Communicative English IV (律政群 1-D) ENG112F アルバート・ オスカー・ モウ	2学期	1	1	128
		律政群 1 - D			
	Communicative English V (律政群) ENG201F 未開講	1学期	2	1	
		律政群 2 年			
	Communicative English VI (律政群) ENG211F 未開講	2学期	2	1	
		律政群 2 年			
	Communicative English VII (律政群) ENG202F 未開講	1学期	2	1	
		律政群 2 年			
	Communicative English VIII (律政群) ENG212F 未開講	2学期	2	1	
		律政群 2 年			
Intermediate English I ((律政 2 I - A)) ENG301F 未開講	1学期	2	2		
	律政 2 I - A				
Intermediate English I (律政 2 I - B) ENG301F 未開講	1学期	2	2		
	律政 2 I - B				
Intermediate English I (律政 2 I - C) ENG301F 未開講	1学期	2	2		
	律政 2 I - C				
Intermediate English II (律政 2 I - A) ENG311F 未開講	2学期	2	2		
	律政 2 I - A				
Intermediate English II (律政 2 I - B) ENG311F 未開講	2学期	2	2		
	律政 2 I - B				
Intermediate English II (律政 2 I - C) ENG311F 未開講	2学期	2	2		
	律政 2 I - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Higher English I	1学期	2	2	
	ENG302F 未開講	中国済営比人律政			
	Higher English II	2学期	2	2	
	ENG312F 未開講	中国済営比人律政			
■第二外国語	中国語I	1学期	1	1	129
	CHN101F 有働 彰子	済営人律政群 1年			
	中国語II	2学期	1	1	130
	CHN111F 有働 彰子	済営人律政群 1年			
	中国語III	1学期	1	1	131
	CHN102F ホウ ラメイ (彭腊梅)	済営律政群 1年			
	中国語IV	2学期	1	1	132
	CHN112F ホウ ラメイ (彭腊梅)	済営律政群 1年			
	中国語V	1学期	2	1	
	CHN201F 未開講	済営人律政群 2年			
	中国語VI	2学期	2	1	
	CHN211F 未開講	済営人律政群 2年			
	中国語VII	1学期	2	1	
	CHN202F 未開講	済営人律政群 2年			
	中国語VIII	2学期	2	1	
	CHN212F 未開講	済営人律政群 2年			
朝鮮語I	1学期	1	1	133	
KRN101F 金 貞淑	済営律政群 1年				
朝鮮語II	2学期	1	1	134	
KRN111F 金 貞淑	済営律政群 1年				
朝鮮語III	1学期	1	1	135	
KRN102F チャン ユンヒャン	済営律政群 1年				
朝鮮語IV	2学期	1	1	136	
KRN112F チャン ユンヒャン	済営律政群 1年				
朝鮮語V	1学期	2	1		
KRN201F 未開講	済営人律政群 2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語VI KRN211F 未開講	2学期	2	1	137
		済営人律政群 2年			
	朝鮮語VII KRN202F 未開講	1学期	2	1	138
		済営人律政群 2年			
	朝鮮語VIII KRN212F 未開講	2学期	2	1	139
		済営人律政群 2年			
	ドイツ語I GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	140
		済営人律政 1年			
	ドイツ語II GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	141
		済営人律政 1年			
	ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	142
		済営人律政 1年			
	ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	143
		済営人律政 1年			
	ドイツ語V GRM201F 未開講	1学期	2	1	144
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI GRM211F 未開講	2学期	2	1	145
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VII GRM202F 未開講	1学期	2	1	146
		英中国済営比人律政 2年			
ドイツ語VIII GRM212F 未開講	2学期	2	1	147	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	148	
	済営人律政 1年				
フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	149	
	済営人律政 1年				
フランス語III FRN102F 中川 裕二	1学期	1	1	150	
	済営人律政 1年				
フランス語IV FRN112F 中川 裕二	2学期	1	1	151	
	済営人律政 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語V FRN201F 未開講	1学期	2	1	
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VI FRN211F 未開講	2学期	2	1	
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VII FRN202F 未開講	1学期	2	1	
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VIII FRN212F 未開講	2学期	2	1	
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語I SPN101F 岡住 正秀	1学期	1	1	145
		中国済営人律政1年			
	スペイン語II SPN111F 岡住 正秀	2学期	1	1	146
		中国済営人律政1年			
	スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	147
		中国済営人律政1年			
	スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	148
		中国済営人律政1年			
スペイン語V SPN201F 未開講	1学期	2	1		
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VI SPN211F 未開講	2学期	2	1		
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VII SPN202F 未開講	1学期	2	1		
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VIII SPN212F 未開講	2学期	2	1		
	英中国済営比人律政2年				
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	149
		留学生1年			
	日本語II JSL102F 則松 智子	1学期	1	1	150
		留学生1年			
	日本語III JSL103F 徐 曉輝	1学期	1	1	151
		留学生1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	152
		留学生 1年			
	日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	153
		留学生 1年			
	日本語VI JSL113F 吉嶺 加奈子	2学期	1	1	154
		留学生 1年			
	日本語VII JSL104F 未開講	1学期	2	1	
		留学生 2年			
	日本語VIII JSL114F 未開講	2学期	2	1	
		留学生 2年			
	日本事情(人文)A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	155
		留学生 1年			
日本事情(人文)B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	156	
	留学生 1年				
日本事情(社会)A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	157	
	留学生 1年				
日本事情(社会)B JPS104F 小林 浩明	2学期	1	2	158	
	留学生 1年				
■専門教育科目 ■総合科目	現代法曹論I LAW200M 川上 修	2学期	1	2	159
		1年			
	現代法曹論II LAW201M 未開講		2	2	
		2年			
	現代法曹論II LAW201M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	法律実務論I LAW390M 未開講	1学期	3	2	
	3年				
法律実務論II LAW391M 未開講	2学期	3	2		
	3年				
法学基礎演習I SEM101M 今泉 恵子	1学期	1	2	160	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習I	1学期	1	2	161
	SEM101M 石塚 壮太郎	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	162
	SEM101M 小野 憲昭	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	163
	SEM101M 小池 順一	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	164
	SEM101M 近藤 卓也	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	
	SEM101M 休講	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	165
	SEM101M 清水 裕一郎	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	166
	SEM101M 高橋 衛	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	167
	SEM101M 津田 小百合	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	168
	SEM101M 中村 英樹	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	169
	SEM101M 林田 幸広	1年			
法学基礎演習I	1学期	1	2	170	
SEM101M 堀澤 明生	1年				
法学基礎演習I	1学期	1	2	171	
SEM101M 福本 忍	1年				
法学基礎演習I	1学期	1	2	172	
SEM101M 水野 陽一	1年				
法学基礎演習I	1学期	1	2	173	
SEM101M 藤田 尚	1年				
法学基礎演習I	1学期	1	2	174	
SEM101M 土井 和重	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習II SEM102M 今泉 恵子	2学期	1	2	175
		1年			
	法学基礎演習II SEM102M 石塚 壮太郎	2学期	1	2	176
		1年			
	法学基礎演習II SEM102M 小野 憲昭	2学期	1	2	177
		1年			
	法学基礎演習II SEM102M 小池 順一	2学期	1	2	178
		1年			
	法学基礎演習II SEM102M 近藤 卓也	2学期	1	2	179
		1年			
	法学基礎演習II SEM102M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	法学基礎演習II SEM102M 清水 裕一郎	2学期	1	2	180
		1年			
	法学基礎演習II SEM102M 高橋 衛	2学期	1	2	181
		1年			
	法学基礎演習II SEM102M 津田 小百合	2学期	1	2	182
		1年			
	法学基礎演習II SEM102M 中村 英樹	2学期	1	2	183
		1年			
法学基礎演習II SEM102M 林田 幸広	2学期	1	2	184	
	1年				
法学基礎演習II SEM102M 堀澤 明生	2学期	1	2	185	
	1年				
法学基礎演習II SEM102M 福本 忍	2学期	1	2	186	
	1年				
法学基礎演習II SEM102M 休講		1	2		
	1年				
法学基礎演習II SEM102M 水野 陽一	2学期	1	2	187	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習II SEM102M 藤田 尚	2学期	1	2	188
		1年			
	法学基礎演習II SEM102M 土井 和重	2学期	1	2	189
		1年			
	法哲学専門演習I SEM301M 未開講	1学期	3	2	
		3年			
	法哲学専門演習II SEM302M 未開講	2学期	3	2	
		3年			
	法哲学専門演習III SEM401M 未開講	1学期	4	2	
		4年			
	法哲学専門演習IV SEM402M 未開講	2学期	4	2	
		4年			
	法社会学専門演習I SEM301M 未開講	1学期	3	2	
		3年			
	法社会学専門演習II SEM302M 未開講	2学期	3	2	
		3年			
	法社会学専門演習III SEM401M 未開講	1学期	4	2	
		4年			
	法社会学専門演習IV SEM402M 未開講	2学期	4	2	
		4年			
憲法専門演習I SEM301M 未開講	1学期	3	2		
	3年				
憲法専門演習I SEM301M 未開講	1学期	3	2		
	3年				
憲法専門演習II SEM302M 未開講	2学期	3	2		
	3年				
憲法専門演習II SEM302M 未開講	2学期	3	2		
	3年				
憲法専門演習III SEM401M 未開講	1学期	4	2		
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	憲法専門演習III	1学期	4	2	4年
	SEM401M 未開講				
	憲法専門演習IV	2学期	4	2	4年
	SEM402M 未開講				
	憲法専門演習IV	2学期	4	2	4年
	SEM402M 未開講				
	行政法専門演習I	1学期	3	2	3年
	SEM301M 未開講				
	行政法専門演習I	1学期	3	2	3年
	SEM301M 未開講				
	行政法専門演習II	2学期	3	2	3年
	SEM302M 未開講				
	行政法専門演習II	2学期	3	2	3年
	SEM302M 未開講				
	行政法専門演習III	1学期	4	2	4年
	SEM401M 未開講				
	行政法専門演習III	1学期	4	2	4年
	SEM401M 未開講				
	行政法専門演習IV	2学期	4	2	4年
	SEM402M 未開講				
行政法専門演習IV	2学期	4	2	4年	
SEM402M 未開講					
刑法専門演習I	1学期	3	2	3年	
SEM301M 未開講					
刑法専門演習I	2学期	3	2	3年	
SEM301M 未開講					
刑法専門演習II	2学期	3	2	3年	
SEM302M 未開講					
刑法専門演習II	2学期	3	2	3年	
SEM302M 未開講					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	刑法専門演習Ⅲ SEM401M 未開講	1学期	4	2	4年
	刑法専門演習Ⅲ SEM401M 未開講		4	2	4年
	刑法専門演習Ⅳ SEM402M 未開講	2学期	4	2	4年
	刑法専門演習Ⅳ SEM402M 未開講		4	2	4年
	刑事訴訟法専門演習Ⅰ SEM301M 未開講	1学期	3	2	3年
	刑事訴訟法専門演習Ⅱ SEM302M 未開講	2学期	3	2	3年
	刑事訴訟法専門演習Ⅲ SEM401M 未開講	1学期	4	2	4年
	刑事訴訟法専門演習Ⅳ SEM402M 未開講	2学期	4	2	4年
	刑事学専門演習Ⅰ SEM301M 未開講	1学期	3	2	3年
	刑事学専門演習Ⅱ SEM302M 未開講	2学期	3	2	3年
刑事学専門演習Ⅲ SEM401M 未開講		4	2	4年	
刑事学専門演習Ⅳ SEM402M 未開講		4	2	4年	
社会保障法専門演習Ⅰ SEM301M 未開講	1学期	3	2	3年	
社会保障法専門演習Ⅱ SEM302M 未開講	2学期	3	2	3年	
社会保障法専門演習Ⅲ SEM401M 未開講	1学期	4	2	4年	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	社会保障法専門演習IV SEM402M 未開講	2学期	4	2	4年
	国際法専門演習I SEM301M 未開講	1学期	3	2	3年
	国際法専門演習II SEM302M 未開講	2学期	3	2	3年
	国際法専門演習III SEM401M 未開講	1学期	4	2	4年
	国際法専門演習IV SEM402M 未開講	2学期	4	2	4年
	民法専門演習I SEM301M 未開講	1学期	3	2	3年
	民法専門演習I SEM301M 未開講	1学期	3	2	3年
	民法専門演習I SEM301M 未開講		3	2	3年
	民法専門演習I SEM301M 未開講	1学期	3	2	3年
	民法専門演習II SEM302M 未開講	2学期	3	2	3年
民法専門演習II SEM302M 未開講	2学期	3	2	3年	
民法専門演習II SEM302M 未開講		3	2	3年	
民法専門演習II SEM302M 未開講	2学期	3	2	3年	
民法専門演習III SEM401M 未開講	1学期	4	2	4年	
民法専門演習III SEM401M 未開講	1学期	4	2	4年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	民法専門演習Ⅲ		4	2	4年
	SEM401M 未開講				
	民法専門演習Ⅲ	1学期	4	2	4年
	SEM401M 未開講				
	民法専門演習Ⅳ	2学期	4	2	4年
	SEM402M 未開講				
	民法専門演習Ⅳ	2学期	4	2	4年
	SEM402M 未開講				
	民法専門演習Ⅳ		4	2	4年
	SEM402M 未開講				
	民法専門演習Ⅳ	2学期	4	2	4年
	SEM402M 未開講				
	民事訴訟法専門演習Ⅰ	1学期	3	2	3年
	SEM301M 未開講				
	民事訴訟法専門演習Ⅱ	2学期	3	2	3年
	SEM302M 未開講				
	民事訴訟法専門演習Ⅲ	1学期	4	2	4年
	SEM401M 未開講				
	民事訴訟法専門演習Ⅳ	2学期	4	2	4年
	SEM402M 未開講				
企業法専門演習Ⅰ	1学期	3	2	3年	
SEM301M 未開講					
企業法専門演習Ⅰ	1学期	3	2	3年	
SEM301M 未開講					
企業法専門演習Ⅱ	2学期	3	2	3年	
SEM302M 未開講					
企業法専門演習Ⅱ	2学期	3	2	3年	
SEM302M 未開講					
企業法専門演習Ⅲ	1学期	4	2	4年	
SEM401M 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■総合科目	企業法専門演習Ⅲ	1学期	4	2		
	SEM401M 未開講	4年				
	企業法専門演習Ⅳ	2学期	4	2		
	SEM402M 未開講	4年				
	企業法専門演習Ⅳ	2学期	4	2		
	SEM402M 未開講	4年				
	現代法曹論0	1学期	1	2	190	
	LAW101M 高橋 衛他	1年				
	■理論法学科目	法思想史		2	2	
		LAW210M 未開講	2年			
外国法			2	2		
LAW212M 未開講		2年				
法社会学			2	2		
LAW211M 未開講		2年				
法哲学			2	2		
LAW213M 未開講		2年				
紛争処理論			2	2		
LAW214M 未開講		2年				
法史学		1学期	3	2		
LAW310M 未開講		3年				
法史学		1学期	3	2		
LAW310M 未開講		3年				
■公法科目	憲法人権論	2学期	1	2	191	
	LAW220M 石塚 壮太郎	1年				
	憲法機構論		2	2		
	LAW221M 未開講	2年				
	憲法訴訟論		2	2		
	LAW320M 未開講	2年				
行政法総論	1学期 (ヘア)	2	2			
LAW222M 未開講	2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■公法科目	行政争訟法		2	2	
	LAW223M 未開講	2年			
	国家補償法	1学期	3	2	
	LAW224M 未開講	3年			
	地方自治法	2学期	3	2	
	LAW321M 未開講	3年			
■刑事法科目	刑法総論	2学期(ヘア)	1	4	192
	LAW230M 大杉 一之	1年			
	刑法各論I	1学期	2	2	
	LAW231M 未開講	2年			
	刑法各論I	1学期	2	2	
	LAW231M 未開講	2年			
	刑法各論II	2学期	2	2	
	LAW232M 未開講	2年			
	刑法各論II	2学期	2	2	
	LAW232M 未開講	2年			
	刑事訴訟法I	1学期	2	2	
	LAW233M 未開講	2年			
	刑事訴訟法II	2学期	2	2	
	LAW234M 未開講	2年			
	刑事訴訟法II	2学期	2	2	
	LAW234M 未開講	2年			
	犯罪学	1学期(ヘア)	3	4	
	LAW330M 未開講	3年			
刑事司法政策I	1学期	2	2		
LAW235M 未開講	2年				
刑事司法政策II	2学期	2	2		
LAW236M 未開講	2年				
■社会法科目	社会法総論	2学期	1	2	193
	LAW140M 柴田 滋	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■社会法科目	社会サービス法	2学期	2	2	2年
	LAW242M 未開講				
	社会サービス法	2学期	2	2	2年
	LAW242M 未開講				
	所得保障法		2	2	2年
	LAW243M 未開講				
	雇用関係法	1学期	2	2	2年
	LAW240M 未開講				
	労使関係法		2	2	2年
	LAW241M 未開講				
	独占禁止法	集中	3	2	3年
	LAW340M 未開講				
知的財産法	集中	3	2	3年	
LAW341M 未開講					
環境法	集中	3	2	3年	
LAW342M 未開講					
社会法の現代的展開	2学期	3	2	3年	
LAW343M 未開講					
■国際関係法科目	国際法I	1学期	2	2	2年
	LAW250M 未開講				
	国際法II	2学期	2	2	2年
	LAW251M 未開講				
	国際私法	集中	3	2	3年
	LAW252M 未開講				
	国際取引法	集中	3	2	3年
	LAW350M 未開講				
	現代国際関係法	集中	3	2	3年
	LAW351M 未開講				
	現代国際関係法 (英語)	集中	3	2	3年 (英語)
	LAW351M 未開講				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■国際関係法科目	現代国際関係法 LAW351M 未開講		3	2	
		3年			
■民事法科目	比較法文化論 LAW311M 未開講	集中	3	2	
		3年			
	民法総則 LAW161M 小野 憲昭	2学期(ペア)	1	4	194
		1年			
	物権法 LAW260M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	物権法 LAW260M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	担保物権法 LAW261M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	担保物権法 LAW261M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	債権総論 LAW262M 未開講		2	2	
		2年			
	親族法 LAW265M 小野 憲昭	2学期	1	2	195
		1年			
	相続法 LAW266M 未開講		2	2	
		2年			
	民事訴訟法I LAW267M 未開講		2	2	
		2年			
	民事訴訟法II LAW268M 未開講		2	2	
		2年			
	倒産処理法 LAW269M 未開講	1学期	3	2	
		3年			
	債権各論I LAW263M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	債権各論II LAW264M 未開講	1学期	3	2	
		3年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■商事法科目	企業法総論 LAW270M 未開講		2	2	2年	
	企業取引法I LAW272M 未開講		2	2		
	企業取引法II LAW370M 未開講	1学期	3	2	3年	
	金融商品取引法 LAW371M 未開講	1学期	3	2		
	企業法の現代的展開 LAW372M 未開講	集中	3	2	3年	
	会社法 LAW271M 未開講	2学期(ペア)	2	4		
	■関連科目A	政治学 PLS100M 秦 正樹	2学期	1	2	196
		都市環境論 PLC111M 三宅 博之	1学期	1	2	
		政治文化論 PLS110M 秦 正樹	2学期	1	2	198
		行政学 PAD100M 森 裕亮	2学期	1	2	
NPO論 PLC114M 榎原 真二 他		1学期	1	2	200	
政策規範論 PLC110M 大澤 津		1学期	1	2		
政治過程論 PLS210M 秦 正樹		2学期	1	2	202	
福祉国家論 PLC112M 狭間 直樹		2学期	1	2		
西洋政治史 PLS111M 西 貴倫		1学期	1	2	204	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	都市経済論	2学期	1	2	205
	PLC113M 田代 洋久	1年			
	公共政策論	1学期	2	2	
	PLC211M 未開講				
	政策理論特講	集中	2	2	
	PLS213M 未開講				
	政策過程論	1学期	2	2	
	PLC212M 未開講				
	現代政治思想	1学期	2	2	
	PLS212M 未開講				
	地方自治論	1学期	2	2	
	PAD211M 未開講				
	都市マネジメント論	2学期	2	2	
	PAD213M 未開講				
	途上国開発論	1学期	2	2	
	PLC215M 未開講				
	政策評価論	2学期	2	2	
	PLC310M 未開講				
	政策評価論	2学期	2	2	
	PLC310M 未開講				
政党政治論	1学期	2	2		
PLS211M 未開講					
都市政策論	1学期	2	2		
PLC219M 未開講					
福祉政策論	1学期	2	2		
PLC217M 未開講					
環境政策論	2学期	2	2		
PLC216M 未開講					
アジア地域社会論	2学期	2	2		
PLC222M 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	地域統合論	2学期	2	2	
	PLS214M 未開講				
	自治体政策研究	2学期	2	2	
	PLC214M 未開講				
	公共経営論	2学期	2	2	
	PAD212M 未開講				
	政治思想史	2学期	2	2	
	PLS215M 未開講				
	地方行政改革論	2学期	2	2	
	PAD310M 未開講				
	応用政策特講	集中	2	2	
	PAD214M 未開講				
	行政組織論	1学期	2	2	
	PAD210M 未開講				
	対外政策論	2学期	2	2	
	PLC213M 未開講				
	比較政策論	1学期	2	2	
	PLC210M 未開講				
	国際機構論I	1学期	2	2	
	IRL215M 未開講				
国際機構論II	2学期	2	2		
IRL216M 未開講					
国際開発協力論	1学期	3	2		
IRL211M 未開講	3年				
平和研究	2学期	3	2		
IRL212M 未開講	3年				
国際人権研究	2学期	3	2		
IRL314M 未開講	3年				
国際紛争論	1学期	3	2		
IRL214M 未開講	3年				

法学部 法律学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	倫理学	2学期	2	2	
	PHR210M 未開講				
	外国文献研究B	2学期	3	2	3年
	SEM392M 未開講				
	外国文献研究B(英語)	1学期	3	2	
	SEM392M 未開講				
アジアのエスニシティ政策	2学期	2	2		
PLC224M 未開講					
障がいのある人の人権と地域共生社会	1学期	2	2	2年	
SOW220M 未開講					
■関連科目B	ミクロ経済学I	2学期	1	2	
	ECN113M 休講				
	ミクロ経済学II	1学期	2	2	
	ECN210M 未開講				
	マクロ経済学I	2学期	1	2	
	ECN114M 休講				
	マクロ経済学II	1学期	2	2	
	ECN211M 未開講				
	公共経済学	1学期	2	2	
	ECN226M 未開講				
	国際経済論	1学期	2	2	
	ECN224M 未開講				
	国際経済論特講	2学期	2	2	
	ECN225M 未開講				
経済地理学	1学期	2	2	2年	
ECN230M 未開講					
経済地理学特講	2学期	2	2	2年	
ECN231M 未開講					
金融論	1学期	2	2	2年	
ECN222M 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	金融論特講	2学期	2	2	2年
	ECN223M 未開講				
	経営組織論	1学期	2	2	
	BUS210M 未開講				
	企業ファイナンスI	1学期	2	2	
	BUS212M 未開講				
	企業ファイナンスII	2学期	2	2	
	BUS213M 未開講				
	経営戦略論	2学期	2	2	
	BUS211M 未開講				
	財務会計論I	1学期	2	2	
	ACC210M 未開講				
	財務会計論II	2学期	2	2	
	ACC211M 未開講				
	会計監査論	2学期	2	2	
	ACC214M 未開講				
	国際金融論	1学期	3	2	3年
	ECN326M 未開講				
	国際金融論特講	2学期	3	2	3年
	ECN327M 未開講				
産業組織論	1学期	3	2	3年	
ECN322M 未開講					
産業組織論特講	2学期	3	2	3年	
ECN323M 未開講					
証券市場論	2学期	3	2	3年	
BUS232M 未開講					
中小企業論	1学期	3	2	3年	
BUS313M 未開講					
財政学	1学期	3	2	3年	
ECN320M 未開講					

法学部 法律学科 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■関連科目B	財政学特講 ECN321M 未開講	2学期	3	2	3年	
	地方財政論 ECN330M 未開講	1学期	3	2		3年
	労働経済学 ECN324M 未開講	1学期	3	2	3年	
	労働経済学特講 ECN325M 未開講	2学期	3	2		3年
	人的資源管理論 BUS310M 未開講	1学期	3	2	3年	
	企業評価論I BUS316M 未開講	1学期	3	2		3年
	企業評価論II BUS317M 未開講	2学期	3	2	3年	
	■導入科目	法学総論 LAW100M 林田 幸広	1学期	1		2
		民法入門 LAW160M 福本 忍	1学期	1	2	207 1年
		日本国憲法原論 LAW120M 中村 英樹	1学期	1	2	

法学部 法律学科 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	209
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	210
		1年			
	生命科学入門 BIO200F 休講	2学期	1	2	
		1年			
■世界(地球)科目	国際学入門 IRL110F 伊野 憲治	2学期	1	2	211
		1年			
	安全保障論 PLS111F 戸蔭 仁司	2学期	1	2	212
		1年			
	現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期	1	2	213
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
近代史入門 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	214	
	1年				
■知の技法科目	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	215
		1年			
	コンピューターリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	216
		1年			
■知の創造科目	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	217
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	218
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	219
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	220
		1年			

法学部 法律学科 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	社会哲学入門	2学期	1	2	221
	PHR110F 伊原木 大祐	1年			
	文化を読む	1学期	1	2	
	LIT001F 休講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	
	PHR003F 休講	1年			
倫理思想史	2学期	1	2		
PHR005F 休講	1年				
■共生と協働科目	異文化理解の基礎	1学期	1	2	222
	ANT110F 神原 ゆうこ	1年			
	市民活動論	2学期	1	2	223
	RDE001F 西田 心平	1年			
	地域福祉論	2学期	1	2	
	SOW011F 休講	1年			
障がい学	1学期	1	2		
SOW001F 休講	1年				
■ライフ・デザイン科目	メンタル・ヘルス	1学期	1	2	224
	PSY001F 中島 俊介	1年			
	フィジカル・ヘルス	1学期	1	2	225
	HSS001F 山本 浩二	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	226
	HSS082F 山本 浩二	1年			
■専門教育科目 ■総合科目	現代法曹論I		1	2	
	LAW200M 休講	1年			
■理論法学科目	法思想史		2	2	
	LAW210M 未開講	2年			
	外国法		2	2	
	LAW212M 未開講	2年			
	法社会学		2	2	
	LAW211M 未開講	2年			

法学部 法律学科 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■理論法学科目	法哲学		2	2	
	LAW213M 未開講	2年			
	紛争処理論		2	2	
	LAW214M 未開講	2年			
■公法科目	憲法人権論	2学期	1	2	227
	LAW220M 石塚 壮太郎	1年			
	憲法機構論		2	2	
	LAW221M 未開講	2年			
	憲法訴訟論		2	2	
	LAW320M 未開講	2年			
	行政法総論	1学期 (ヘア)	2	2	
	LAW222M 未開講	2年			
	行政争訟法		2	2	
	LAW223M 未開講	2年			
	国家補償法		3	2	
	LAW224M 未開講	3年			
地方自治法		3	2		
LAW321M 未開講	3年				
■刑事法科目	刑法総論		1	2	
	LAW230M 休講	1年			
	刑事訴訟法I	1学期	2	2	
	LAW235M 未開講	2年			
	犯罪学		3	2	
	LAW330M 未開講	3年			
刑事司法政策I	1学期	2	2		
LAW233M 未開講	2年				
刑事司法政策II	2学期	2	2		
LAW234M 未開講	2年				
■社会法科目	社会法総論	2学期	1	2	228
	LAW140M 津田 小百合	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■社会法科目	所得保障法		2	2	2年
	LAW243M 未開講				
	雇用関係法		2	2	2年
	LAW240M 未開講				
	労使関係法		2	2	2年
	LAW241M 未開講				
	独占禁止法		3	2	3年
	LAW340M 未開講				
	知的財産法		3	2	3年
	LAW341M 未開講				
	環境法		3	2	3年
	LAW342M 未開講				
■国際関係法科目	国際法I		2	2	2年
	LAW250M 未開講				
	国際法II		2	2	2年
	LAW251M 未開講				
	国際私法		3	2	3年
	LAW252M 未開講				
国際取引法		3	2	3年	
LAW350M 未開講					
現代国際関係法 (英語)	集中	3	2	3年 (英語)	
LAW351M 未開講					
■民事法科目	比較法文化論		3	2	3年
	LAW311M 未開講				
	民法総則	2学期 (ベア)	1	2	1年
	LAW161M 休講				
	債権総論		2	2	2年
	LAW262M 未開講				
	親族法		1	2	1年
	LAW265M 休講				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■民事法科目	相続法		2	2	
	LAW266M 未開講	2年			
	民事訴訟法I		2	2	
	LAW267M 未開講	2年			
	民事訴訟法II		2	2	
	LAW268M 未開講	2年			
■商事法科目	倒産処理法		3	2	
	LAW269M 未開講	3年			
	債権各論II		3	2	
LAW264M 未開講	3年				
■商事法科目	企業法総論		2	2	
	LAW270M 未開講	2年			
	企業取引法I		2	2	
	LAW272M 未開講	2年			
	企業取引法II		3	2	
	LAW370M 未開講	3年			
金融商品取引法		1学期	3	2	
	LAW371M 未開講	3年			
会社法			2	2	
	LAW271M 未開講	2年			
■関連科目A	政治学		1	2	
	PLS100M 休講				
	都市環境論		1	2	
	PLC111M 休講	1年			
	政治文化論		1	2	
	PLS110M 休講				
行政学			1	2	
	PAD100M 休講				
NPO論		1学期	1	2	229
	PLC114M 植原 真二 他	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■関連科目A	政策規範論		1	2		
	PLC110M 休講					
	政治過程論		1	2		
	PLS210M 休講					
	福祉国家論		1	2		
	PLC112M 休講					
	西洋政治史		1	2		
	PLS111M 休講					
	都市経済論		1	2		
	PLC113M 休講					
	公共政策論		2	2		
	PLC211M 未開講	2年				
	政策理論特講		2	2		
	PLS213M 未開講					
	政策過程論		2	2		
	PLC212M 未開講					
	現代政治思想		2	2		
	PLS212M 未開講					
	地方自治論		1学期	2	2	
	PAD211M 未開講					
都市マネジメント論		2	2			
PAD213M 未開講						
途上国開発論		2	2			
PLC215M 未開講						
政策評価論		2	2			
PLC310M 未開講						
政党政治論		2	2			
PLS211M 未開講						
都市政策論		2	2			
PLC219M 未開講						

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	福祉政策論	1学期	2	2	
	PLC217M 未開講				
	環境政策論		2	2	
	PLC216M 未開講				
	アジア地域社会論		2	2	
	PLC222M 未開講				
	地域統合論		2	2	
	PLS214M 未開講				
	自治体政策研究		2	2	
	PLC214M 未開講				
	公共経営論		2	2	
	PAD212M 未開講				
	政治思想史		2	2	
	PLS215M 未開講				
	地方行政改革論		2	2	
	PAD310M 未開講				
	応用政策特講		2	2	
	PAD214M 未開講				
	行政組織論		2	2	
	PAD210M 未開講				
対外政策論		2	2		
PLC213M 未開講					
比較政策論		2	2		
PLC210M 未開講					
国際機構論I		2	2		
IRL215M 未開講					
国際機構論II		2	2		
IRL216M 未開講					
国際開発協力論		3	2		
IRL211M 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	平和研究 IRL212M 未開講		3	2	
	国際人権研究 IRL314M 未開講		3	2	
	国際紛争論 IRL214M 未開講		3	2	
	倫理学 PHR210M 未開講		2	2	
	外国文献研究B SEM392M 未開講		3	2	
	外国文献研究B (英語) SEM392M 未開講		3	2	
	障がいのある人の人権と地域共生社会 SOW220M 未開講		2	2	
■関連科目B	ミクロ経済学I ECN112M 朱 乙文	2学期	1	2	230
		1年			
	ミクロ経済学II ECN210M 未開講	1学期	2	2	
	マクロ経済学I ECN113M 田中 淳平	2学期	1	2	231
		1年			
	マクロ経済学II ECN211M 未開講	1学期	2	2	
	公共経済学 ECN226M 未開講		2	2	
		2年			
国際経済論 ECN224M 未開講		2	2		
	2年				
国際経済論特講 ECN225M 未開講		2	2		
	2年				
経済地理学 ECN230M 未開講	1学期	2	2		

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目B	経済地理学特講 ECN231M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	金融論 ECN222M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	金融論特講 ECN223M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	経営組織論 BUS210M 未開講		2	2	
		2年			
	企業ファイナンスI BUS212M 未開講		2	2	
		2年			
	企業ファイナンスII BUS213M 未開講		2	2	
		2年			
	経営戦略論 BUS211M 未開講		2	2	
		2年			
	財務会計論I ACC210M 未開講		2	2	
		2年			
	財務会計論II ACC211M 未開講		2	2	
		2年			
	会計監査論 ACC214M 未開講		2	2	
		2年			
国際金融論 ECN326M 未開講	1学期	3	2		
	3年				
国際金融論特講 ECN327M 未開講	2学期	3	2		
	3年				
産業組織論 ECN322M 未開講		3	2		
	3年				
産業組織論特講 ECN323M 未開講		3	2		
	3年				
証券市場論 BUS232M 未開講		3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■関連科目B	中小企業論	1学期	3	2	3年
	BUS313M 未開講				
	財政学		3	2	3年
	ECN320M 未開講				
	財政学特講		3	2	3年
	ECN321M 未開講				
	地方財政論		3	2	3年
	ECN330M 未開講				
	労働経済学		3	2	3年
	ECN324M 未開講				
	労働経済学特講		3	2	3年
	ECN325M 未開講				
	人的資源管理論	1学期	3	2	3年
	BUS310M 未開講				
企業評価論I		3	2	3年	
BUS316M 未開講					
企業評価論II		3	2	3年	
BUS317M 未開講					
■導入科目	法学総論		1	2	1年
	LAW100M 休講				
	民法入門	1学期	1	2	1年
	LAW160M 畑中 久彌				
日本国憲法原論		1	2	1年	
LAW120M 休講					

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記することでも、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に関する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジユメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第2回：さまざまな「歴史」のとらえ方 —循環・進歩・システム—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集経済と農耕経済 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回：古代国家と天皇 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世国家 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離縁 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」 —世界史における明治日本—
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%、小レポートなどを含む)、期末試験 (50%) によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 3回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 4回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 5回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 6回 前漢前期(3) -呂后-
 - 7回 前漢中期(1) -武帝-
 - 8回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 9回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 10回 前漢後期(1) -元帝-
 - 11回 前漢後期(2) -成帝-
 - 12回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 13回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 14回 後漢の光武帝と「漢委奴国王」
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生の名に恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の体系
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地理学の歴史、地域概念と重力モデル、環境決定論と環境可能論
- 第3回 人文地理学の基礎(3) 様々な距離、時間地理学、空間認識
- 第4回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第5回 社会・文化と地域(2) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門 改訂」(大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外护保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1): ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2): ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容: 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容: 山口県防府市、県庁所在地の変容: 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容: 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容: 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容: 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容: 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域特講A (現代社会と新聞ジャーナリズム) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
地域科目

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL101F	◎		○		○

科目名	地域特講A
-----	-------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

多様な情報メディアが錯綜する現代における「新聞」について学び、情報を評価・識別する力（メディアリテラシー）を身につけることを目的としています。同時に、「新聞」を通して現代社会の諸側面について理解を深めることも目指します。

インターネットが普及した中で、情報や言論の発信・伝達役としての「新聞」の存在感は低下しているという指摘も聞かれます。しかし、社会に流布している情報の出所の多くは新聞です。また、ネットメディアが独自に発する情報は、断片的であったり、信頼性に欠けていたりすることも少なくありません。

新聞社は、24時間、洪水のように情報が飛び交う中、内容を整理して信頼性のある情報として発信することを基本に、①社会の出来事を客観的に伝える、②その背景や問題点を深く掘り下げる、③社会が抱える課題の解決策を提供する、④権力者などの不正追及など健全な批判や言論を通じ民主主義を守ることに取り組んできました。この講義では、そうした新聞社が培ってきた長い経験と実績を基盤に、新聞社のデスクや第一線の記者などが取材や報道体験を話すことを通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法などについて考えます。なお、本講義は西日本新聞社の提供講座です。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目から14回目までは、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務めます。ただし、事件・事故の発生や講師の都合などにより順番・内容が変わることがあります。

- 【第1回】オリエンテーション / 電子メディアへの挑戦 (編集企画委員長 / 西日本新聞メディアラボ メディア事業担当部長)
- 【第2回】災害被災者に寄りそう (社会部記者)
- 【第3回】地方の視線で政治と向き合う (都市圏総局デスク)
- 【第4回】アジアと九州を読み解く (国際部デスク)
- 【第5回】調査報道・キャンペーン報道 (西日本新聞メディアラボ デジタル報道部デスク)
- 【第6回】新聞デザインの展開 / ビジュアル発信を目指して (デザイン部デスク)
- 【第7回】地域文化をみつめて / 文化部記者の仕事 (文化部デスク)
- 【第8回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 【第9回】九州経済をどう見るか (経済部デスク)
- 【第10回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (こどもタイムズ編集長)
- 【第11回】スポーツ報道の世界 / 運動記者は何を伝えるか (運動部デスク)
- 【第12回】新聞の作り方・読み方 (編集センターデスク)
- 【第13回】暮らしの視点で社会見つめる (生活特報部長)
- 【第14回】北九州の現場から (北九州本社編集部)
- 【第15回】社会学者は新聞をどのように「使う」のか (稲月)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回提出が必要です)・・・100%

ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とします。

詳細は第1回目の講義で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞や雑誌などに目を通し、現代社会や地域が直面する課題やその解決の方法について考えてください。(必要な学習時間の目安は、90分以上。)

履修上の注意 /Remarks

「成績評価の方法」にも記したように、この授業では、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可 (D) とします。就職活動や実習などで欠席する予定がある者はよく考えて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」(メディアの特性を理解した上で情報を選別して読み解く力)を身につけてください。

西日本新聞社の記者・デスクが、取材や報道の体験等をもとに、現代社会の諸問題、新聞の役割、新聞コンテンツの活用法等について解説する(西日本新聞社の提供講座)。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会、実務経験のある教員による授業

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE002F	◎		○		○
科目名	都市と地域		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて講義する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの視点から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人としての定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例 (L Qによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 『都市』はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市開発 (再開発)
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 20% 最終クイズ (2回合計) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨んで下さい。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、不定期・複数の（Moodleによる）クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を評価します。発言の無いもしくは回答のない学生は授業貢献の点数が芳しくなくなるので、活発に発言をしてください。

また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数（授業貢献を含む）が0点になります。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策

地域の社会と経済【昼】

担当者名 /Instructor 柳 永珍 / RYU Young-Jin / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN170F	◎		○		○
科目名	地域の社会と経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

地域活性化や地域再生が日本における重要なキーワードになっている中、皆さんにおいて「地元」という言葉はどのように響くのか。1つの地域に愛情を持って、真剣に学習してみることは、自分の地元を考える良いきっかけとなる。この授業は、北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自らの意思で考えることを目指している。本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストスピーカーとして招き、北九州・下関地域出身者、地域外出身の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：北九州の産業・社会
- 第3回：北九州市政と市民
- 第4回：下関の産業・社会 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第5回：下関市の都市戦略 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第6回：北九州地域の貿易現状 【関連機関等の専門家による説明】
- 第7回：地域と情報発信力 【関連機関等の専門家による説明】
- 第8回：地域の企業① 【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の企業② 【地元企業関係者等による説明】
- 第10回：地域の企業③ 【地元企業関係者等による説明】
- 第11回：地域の企業④ 【地元企業関係者等による説明】
- 第12回：地域の起業環境 【関連機関等の専門家による説明】
- 第13回：北九州地域の都市戦略としての観光 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第14回：地域を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第15回：まとめー地域の人口と未来

※講義のテーマ、順番、講師陣については若干の変更があることをご承知おきください。

成績評価の方法 /Assessment Method

九州・下関地域の社会的・経済的特性に対して理解し説明ができること。さらに地域に関する多様な課題について、独自の思考で提言ができること。
・各講義ごとのショートレポート(14回)：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って情報収集に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・遅刻、私語は他の受講生やゲストスピーカーの方の迷惑になるため、厳禁とします。
- ・ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合があります。
- ・授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

地域の社会と経済【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS170F	◎		○		○
科目名	地域の文化と歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して、基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、北九州市等の地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察するきっかけをつかむことを目指す。
授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者をゲストとしてお招きする。北九州・下関地域出身者のみならず地域外出身者にとっても、学生生活や就職、社会での諸活動の充実につながる学びとなる内容を指向する。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》原始の地域
- 第 4 回： 《歴史》古代の地域
- 第 5 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 6 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 7 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 8 回： 《歴史》戦前・戦中・戦後復興期の地域
- 第 9 回： 《文化》地域の美術、現代アート
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇
- 第 12 回： 《文化》地域の文学① 【総論】
- 第 13 回： 《文化》地域の文学② 【各論】
- 第 14 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 15 回： 《文化》地域の文化財～「日本遺産」について

※ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。第 1 回授業において概ね確定した計画を提示する予定である。

※参考：前年度のゲストの所属組織等（今年度も概ね同様の予定）（順不同）

《北九州市文化企画課、北九州市世界遺産課、北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市立松本清張記念館、下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、下関市立考古博物館、下関市立歴史博物館》

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み： 30%
- 中間レポート： 35%
- 期末レポート： 35%

地域の文化と歴史【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、北九州・下関地域の各種ミュージアム等を見学したりして理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動等にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたいと考える。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

実務経験のある教員による授業

地域の達人【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR212F	◎		○		○
科目名	地域の達人		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話しさせていただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するときに乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
また、パラレルワークや副業など、様々な働き方が広がってきています。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～13回 地域の達人によるお話
- 第14回 達人を振り返る
- 第15回 まとめ

【これまでの登壇者】

海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、まりづくりプロデューサー、教育NPO代表、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事がかどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、

2019年度も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

地域の達人【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話を聞きながら生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

facebookに『地域の達人』ページを開いています。予告とアーカイブを掲載していますので、確認しながら授業を受講してください。
人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、働く意味や意義について理解してもらうための授業を企画する。また、ゲスト講師が自らの地域でのキャリアについて語ることで、学生のキャリア意識を醸成する。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主、実務経験のある教員による授業

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE270F	◎		○		○
科目名	地域のにぎわいづくり				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域に求められるにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、それを踏まえた「にぎわいづくりプラン」を自ら立案すること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2019年度授業の前半は、にぎわいづくり政策の意義や課題等についてゲスト講話や事例紹介などを通じて学び、政策に対する学生の意見発表も行う。

授業の後半は、「スタジアムをいかした街の活性化」の観点から、日本における先駆的な「まちなかスタジアム」であるミクニワールドスタジアム北九州（小倉駅から徒歩約7分）（愛称：ミクスタ）を題材とし、小倉駅周辺の活性化を視野に入れた「ミクスタ集客プラン」をグループワークで作成する。作成に際し、ゲスト講話やフィールドワークも実施する。

本授業は、北九州市役所、およびギラヴァンツ北九州（Jリーグ）等の協力のもとで実施する。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・九州経済調査協会『2019年版九州経済白書 ～スポーツの成長産業化と九州経済～』
 その他、授業中に適宜紹介する。

地域のにぎわいづくり【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス ～講義の目的、履修上の注意など
- 第 2 回 にぎわいづくり政策の意義①【観光政策】
- 第 3 回 にぎわいづくり政策の意義②【MICE誘致政策】
- 第 4 回 北九州市の観光・MICE誘致政策に関する意見発表
- 第 5 回 にぎわいづくり政策の意義③【スポーツイベント政策】
- 第 6 回 にぎわいづくりとスタジアム(スタジアム・アリーナ改革)
- 第 7 回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦①
【試合前の各種イベントや飲食店舗等の状況視察】
- 第 8 回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦②
【試合中の来場者動向等の状況視察】
- 第 9 回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦③
【試合後の観客の小倉駅周辺回遊動向等の状況視察】
- 第 10 回 プラン作成①【現状分析、課題抽出】
- 第 11 回 Jリーグ・ギラヴァンツ北九州の社会的存在意義と集客戦略、課題
- 第 12 回 プラン作成②【アイデア検討】
- 第 13 回 プラン作成③【アイデア検討の深化】
- 第 14 回 プラン作成④【プランとりまとめ】
- 第 15 回 集客プラン発表会

※ 受講者数、ゲストのスケジュール、天候の状況等に応じ、授業計画を一部変更する場合がある。

※ 第7～9回のフィールドワークは同一日に実施する。日程は11月24日(日)を予定する。当日に欠席するは12月1日(日)に参加すること。11月24日、12月1日の双方を欠席することは原則として認めない。フィールドワークの場所は、ミクニワールドスタジアム北九州(小倉駅から徒歩7分程度)とする。

※ 以下の日にちは、北方・ひびきのキャンパスの一方が金曜休講日等の指定があるため、北方・ひびきの連携である本授業は実施しない予定である。詳細は第1回授業において説明する。

→ 9月27日、11月8日、12月26日、1月17日

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み(グループワークへの取り組み姿勢等) : 35%
- 集客プランの内容に対する評価(外部審査員等による評価) : 40%
- 期末レポート : 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題への取り組み(プラン作成)に向けては、講義時間以外において各自による情報収集・考察や、必要に応じた受講者間の意見交換が求められる。メンバーで協議の上、事前・事後学習に計画的に取り組むことが必要となる。

また、休日等に小倉駅周辺を散策するなどして、にぎわいづくりのあり方を考えることも事前・事後学習の一助となる。

履修上の注意 /Remarks

原則としてフィールドワークへの参加を必須とする。日程は11月24日(日)を予定する。その日に欠席するは12月1日(日)に参加すること。詳細は第1回授業において提示する。

フィールドワークでは試合観戦料(500～1,500円程度)および小倉駅までの交通費が必要となり、受講者の自己負担となる。

グループワークを行う班はクジ引きで決定する予定であるが、受講者数の状況等に応じ変更する場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し、現実に即した政策を学ぶことに加え、学生の皆さん自身が「にぎわいづくりプラン」(2019年度はミクニワールドスタジアム北九州集客プラン)をグループワークで検討することにより、皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や経験を得ることができる授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域企業や行政職員をゲストに招くと共に北九州市内でのフィールドワーク、グループワークを実施し、にぎわいづくりプラン作成を指導する。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スタジアム、スポーツをいかしたまちづくり

実務経験のある教員による授業

地域と国際【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE003F	◎		○		○
科目名	地域と国際				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業は、人口の減少や市場の成熟により国内市場の成長が期待できない中、新たな市場を求めて海外展開を進めている。また労働力人口が減少し、さらに高齢者が増加する中、外国人労働者の受入れを余儀なくされている。さらに外国人観光客も年々増加している。こういった状況にあって、北九州地域の企業や公的機関（市役所など）がどのように取り組んでいるのか、本授業では原則毎回、企業や公的機関から海外事業に携わっている担当者を招聘し、国際化の実状を話していただき、学生との間で意見交換を行う。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、書籍や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、書籍や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
 - 第2回公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際交流・多文化共生）
 - 第3回公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際環境保全）
 - 第4回公的機関の国際化の現状（例、北九州市の水ビジネス）
 - 第5回公的機関の国際化の現状（例、国の国際貢献活動）
 - 第6回公的機関の国際化の現状（例、国の企業の海外展開支援）
 - 第7回企業の海外事業の現状（例、製造業（大企業））
 - 第8回企業の海外事業の現状（例、製造業（中小企業））
 - 第9回企業の海外事業の現状（例、サービス業）
 - 第10回企業の海外事業の現状（例、金融業）
 - 第11回 企業の海外事業の現状（例、建設業）
 - 第12回 本学における取組み事例①
 - 第13回 本学における取組み事例②
 - 第14回国際化が進展する中で、いかに生きるか①
 - 第15回国際化が進展する中で、いかに生きるか②
- ※講師（ゲストスピーカー）の都合により、授業の内容及び順番に変更があり得る。

成績評価の方法 /Assessment Method

北九州地域の企業や公的機関の国際化の実状を理解し説明ができること。さらにこれらの実状に対して、独自の考えを述べるができること。
レポート：100%（原則毎回、レポートを提出）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞やインターネット、セミナー、展示会などを通じて、地域情報の収集に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

海外にかかわっている企業や公的機関の方が、その取組み内容を解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / 地域共生教育センター, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○
科目名	地域防災への招待				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。講義の中で避難所運営などのワークショップを行い、手を動かし、北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害を「自分ごと」としてとらえる（北九大・南）
- 2 気象と地震（北九州市危機管理室又は福岡管区気象台）
- 3 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 産官学連携による消防技術の革新（北九大・上江洲）
- 8 組織の防災能力見える化と改善のための訓練（北九大・加藤）
- 9 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大・城戸）
- 10 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大・二宮）
- 11 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 12 大学生にもできる防災：災害ボランティア活動（地域共生教育センター）
- 13 避難所運営訓練HUG（北九州市危機管理室）
- 14 地域協働によるまちづくり（外部講師）
- 15 防災が地域を変える、社会を変える（外部講師）

なお、最後の3時限分は、北九州市が主催する大学生を対象とした防災講座に合わせて実施予定。
(7月の土曜日に実施。小倉駅周辺の会場を予定。)

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加 30%
レポートおよび小テスト 70%

地域防災への招待【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
北方 - ひびきの間での遠隔講義を実施予定のため、受講人数制限あり。
最後3回分の講義は、7月に1回小倉駅周辺の会場に集まり実施予定。交通費は受講者の負担となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL202F	◎		○		○
科目名	環境特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的な事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

- 子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
- アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
- 末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第8回 【プラスチック】ペットボトル、マイクロプラスチック、論点整理、ディスカッション
- 第9回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第10回 【100円ショップ】『徹底解剖!100円ショップ』の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第11回 【フェアトレード】『もっと!フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第12回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第13回 グループ・ワーク
- 第14回 受講生によるプレゼンテーション1
- 第15回 受講生によるプレゼンテーション2、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回のレポート(20%)、グループによるプレゼンテーション(80%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV001F	◎		○		○
科目名	環境都市としての北九州		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 999円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(日高・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 施設見学・エコタウン
- 8回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 小テスト(日高)
- 12回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 13回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(421Lab・村江)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出示された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

環境都市としての北九州【昼】

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールは変更となる場合があるので、第1回ガイダンスに必ず出席すること。

- ・エコタウン（バスツアー）は12月25日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。
- ・環境ミュージアム見学は11月23日（土）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
- ・環境首都検定は12月15日（日）の予定。

*授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。

*環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~), 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0001F	◎		○		○
科目名	自然史へのいざない		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員、および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義です。北九州市は化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市であり、古くより交通の要衝として栄えてきた都市でもあります。北九州の自然と歴史の魅力、それを展示している博物館を、まず皆さんに知ってもらうことがこの講義の大きな目的です。講義では、地球の歴史、生物の歴史、人間の歴史に関する基礎的な知識を身につけながら、各学芸員や教員による調査・研究を通して、それぞれの分野の最先端の話聞いていただきます。北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学んでもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、()内は担当者）。

1回 ガイダンス（日高・柳川）

博物館1日目

2回 石の音が聞こえる（森） 【岩石】【鉱物】【大地のダイナミクス】

3回 生命の起源を探る（柳川） 【微生物】【極限環境】【地球外生命体】

4回 館内見学（1回目）

5回 アンモナイトの古生物学（御前）【化石】【古生態学】【異常巻アンモナイト】

6回 昆虫の多様性と進化（葦島） 【新種発見】【完全変態】【甲虫】

博物館2日目

7回 魚類分類学と多様性（日比野）【ホロタイプ】【分類学の歴史】

8回 両生類の多様性と保全（江頭）【絶滅危惧】【ホットスポット】

9回 館内見学（2回目）

10回 フィールドの地学と歴史を楽しむ（野井）【地学と歴史のかかわり】【ジオパーク】

11回 人新世におけるヒトと植物の関係（河野）【科学史】【地球環境】【植物】【人新世】

博物館3日目

12回 哺乳類に関するトピック（未定）

13回 北九州の埋蔵文化財（宮元）【考古学】【古墳時代】

14回 北九州の歴史と文化（日比野）【近現代史】【地域の歴史意識】

15回 まとめ（日高）

成績評価の方法 /Assessment Method

・積極的な授業への参加（課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前に【 】内のキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習：授業中に出示された課題に沿って学習し、Moodle（e-learningシステム）で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

自然史へのいざない【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回目（ガイダンス）に欠席した場合は受講を認めない。10月2日に両キャンパスにて予備ガイダンスを予定しているので掲示物に注意すること。
- ・ 第2回～第15回の授業は10月19日（土）、10月26日（土）、11月16日（土）の3回に分けて博物館で行う予定（いずれも終日）。
- ・ 博物館までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命と環境【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学(食物連鎖等)的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

未来を創る環境技術【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAIISHI / 建築デザイン学科 (19~)
永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所, 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所
牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科, 金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所
河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV003F	◎		○		○

科目名	未来を創る環境技術	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	-----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、北九州市のエネルギー政策
- 第2回：再生可能エネルギーに関する世界の潮流
- 第3回：世界における風力発電
- 第4回：日本における風力発電（その1）
- 第5回：日本における風力発電（その2）
- 第6回：日本における風力発電（その3）
- 第7回：再生可能エネルギーの産業（風力発電）
- 第8回：再生可能エネルギーの産業（エネルギーマネジメント）
- 第9回：都市の環境とエネルギー（経済学からのアプローチ）
- 第10回：都市の環境とエネルギー（機械工学からのアプローチ）
- 第11回：都市の環境とエネルギー（情報学からのアプローチ）
- 第12回：都市の環境とエネルギー（建築学からのアプローチ）
- 第13回：都市の環境とエネルギー（環境工学からのアプローチ）
- 第14回：都市の環境とエネルギー（化学・生物工学からのアプローチ）
- 第15回：まとめ

「日本における風力発電」では、外部講師による集中講義や北九州市の風力発電施設の見学を予定しています。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポートおよび小テスト 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

未来を創る環境技術【昼】

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文系学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ZOL001F	◎		○		○
科目名	動物のみかた		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらし)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

動物のみかた 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV002F	◎		○		○
科目名	自然学のまなざし				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 自然学で学ぶこと
 - 第2講 今西錦司という人がいた
 - 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
 - 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
 - 第5講 自然学における日常実践
 - 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
 - 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
 - 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
 - 第9講 近世の旅と自然
 - 第10講 山村暮らしと故郷
 - 第11講 山と森の自然観
 - 第12講 竹の産業史
 - 第13講 竹の文化
 - 第14講 木の文化
 - 第15講 第9～14講のまとめ

自然学のまなざし【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(竹川)

講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%

(岩松)

小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

生命科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 体を作る物質(1)細胞の構成成分 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
- 3回 体を作る物質(2)食物分子と代謝 【酵素】【触媒】
- 4回 体を作る物質(3)遺伝物質DNA 【二重らせん】
- 5回 体を作るしくみ(1)遺伝子発現 【セントラルドグマ】
- 6回 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること 【ゲノム】【体質】
- 7回 体を作るしくみ(3)発生と分化 【転写因子】【胚】
- 8回 細胞の社会(1)細胞の増殖 【細胞周期】【細胞死】
- 9回 細胞の社会(2)シグナル伝達 【受容体】【シグナル分子】
- 10回 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん 【がん遺伝子】
- 11回 体を守るしくみ(1)寿命と老化 【染色体】【テロメア】
- 12回 体を守るしくみ(2)細菌とウイルス 【ウイルス】【細菌】
- 13回 体を守るしくみ(3)免疫 【自然免疫】【抗体】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

環境ESD入門 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV102F	◎		○		○
科目名	環境ESD入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現在、世界で起きている様々な問題、例えば「環境破壊」「異常気象」「国際紛争」などは、ESDの観点から読み解くことができます。ESDとは「持続可能な開発のための教育」のことであり、「環境」「国際理解」「気候変動」「生物多様性」「防災」「エネルギー」など幅広い分野において、これからの地球の将来を見据えた議論を進めています。本講義はオムニバス形式を採用することで、上述のような多様な問題にESDの視点からアプローチしていきます。また、座学だけでなくアクティブラーニングや屋外での演習なども実施することで、ESDの理解を深めていきます。本講義を通じて受講生がESDの基本的な考え方を習得し、さらなる問題意識をもって私たちの生きる社会や環境を見つめ直していくことを期待します。

教科書 /Textbooks

授業内で適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ESDとは
- 3回 世界のESD① 都市政策とエネルギー問題
- 4回 世界のESD② 発展途上国におけるESD
- 5回 世界のESD③ 社会問題とESD
- 6回 環境とESD① 気候変動問題とESD
- 7回 環境とESD② 環境汚染とESD
- 8回 環境とESD③ プロジェクトWETについて
- 9回 社会とESD① 多文化共生社会とESD
- 10回 社会とESD② 環境政策とESD
- 11回 社会とESD③ 企業社会とESD
- 12回 北九州とESD① 北九州市の取組みとESD
- 13回 北九州とESD② 北九州の公害と克服までの取組み
- 14回 北九州とESD③ リサイクル問題とESD
- 15回 まとめ

(注意)
外部講師の都合により、講義の内容・日程が変更される場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

①出席(12回以上の出席から評価対象となります)と ②各回の小レポート、そして ③期末レポートの評価などを総合して評価します。

配分は以下の通りです。
各回の小レポート(70%) + 期末レポート(30%)

環境ESD入門【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から環境問題に対する関心を持ち、意識して様々な情報に触れるようにしてください。それが大きな事前学習になります。当然、各回の講義テーマに関しては、事前に書籍やインターネットなどで予備知識を得ておくことが望ましいです。受講後は、自らの問題意識を持ち、関連する議論を精査してください。答えは一つではないですし、そもそも答えそのものがないことがあります。

履修上の注意 /Remarks

本講義は外部講師を含めた複数教員によるオムニバス形式の講義となります。
各講義終了後に小レポートの作成と提出を求めます。
講義内でのディスカッション、および質疑応答に積極的に参加できるよう、事前・事後の自発的学習を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境ESDに関する入門的な講義となります。
本講義を履修したうえで、さらなる発展的な学びとして「副専攻環境ESDプログラム」を受講することを薦めます。

キーワード /Keywords

環境、持続可能性、国際理解、生物多様性

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL103F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
 定義が困難な理由について
 - ①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
 - ②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
 - ③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
 テロリズムの定義
 - ①911の特殊性と国土安全保障の考え方
 - ②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
 - ③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
 テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
 テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
 テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
 ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
 国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
 反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
 補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
 無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
 劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
 「大量」殺戮テロの始まり
 化学テロと生物テロ
 化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
 地下鉄サリン事件の概要
 サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
 地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
 911の特異性
 911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
 ビンラディンのプロファイル
 アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE010F	◎		○		○
科目名	韓国の社会と文化		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 グローバル化するK-POP
- 3 韓国について概観
- 4 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 5 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 6 現代韓国社会と文化の特徴I(外部講師)
- 7 韓国における日本大衆文化の受け入れ
- 8 日本における「韓流」史
- 9 韓国人の名字と名前①【名字について】
- 10 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 11 韓国の歴史
- 12 現代韓国社会と文化の特徴II(外部講師)
- 13 日韓の食文化について考える
- 14 現代韓国を知るVTR視聴/解説
- 15 まとめ

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(出席レポートや討論への参加)40%
中間レポート20%
期末テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までには予め毎回のテーマについて参考文献を読み、授業終了後には各自の「考え」をまとめること

韓国の社会と文化【昼】

履修上の注意 /Remarks

- 初回の授業には必ず出席すること
- ・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。(チャイム以降の入室は遅刻とみなす。遅刻3回をもって1回の欠席とカウントする)
- ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
- ・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
- ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは0点とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

安全保障論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

安全保障論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献）
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて特講（テロリズム論）を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL003F	◎		○		○
科目名	現代の国際情勢				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野 日中台関係：ボーダーエリア
- 第3回 下野 日中台関係：国家の枠組みと社会
- 第4回 ウェイン The Role of Public Spaces in Cities
- 第5回 大平 変容するアジア情勢（1）中国とインドの台頭
- 第6回 大平 変容するアジア情勢（2）日本の防衛力強化
- 第7回 大平 変容するアジア情勢（3）開発協力における熾烈な争い
- 第8回 金 日本の「戦後」の終わり
- 第9回 金 日本の対外関係の諸問題
- 第10回 金 戦後の国体、永続敗戦
- 第11回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第12回 寺田 インターネットを巡る国際情勢
- 第13回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト【世銀保証、IFC、Bローン、商社】
- 第14回 下野 台湾：歴史
- 第15回 下野 台湾：社会

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（7～14回）100% ※小テストは原則として各回実施しますが、詳細は各担当者が指示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。
授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照らしながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○
科目名	グローバル化する経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 企業の国際展開(1)【グローバル企業の類型】【グローバル統合】【ローカル適応】
- 9回 企業の国際展開(2)【イノベーション】【ブランド】
- 10回 グローバル化と人材(1)【JIT】【海外生産】【熟練】
- 11回 グローバル化と人材(2)【派遣・請負】【OJT】【Off-JT】
- 12回 国際労働移動(1)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と財政】【移民の経済的同化】【日本における外国人労働の受け入れ】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバル化する経済【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

キーワード /Keywords

近代史入門【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律 1 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な学生の考える力の基礎となるスキルを身につけることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解は存在しない。このような社会を生き抜くためには、自ら考え、判断し、行動していく必要がある。自分自身が生き抜く道を選択するための基盤となる力のひとつが「考える力」である。考えることは、学びを深めていく上でも大切な能力のひとつである。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態をとりながら、自ら「考える力」の基礎を身に付けていく。また、そのために必要な情報リテラシーについての学習なども行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【グラフや図などの挿入】
- 7回 大学での学びについて【剽窃と引用】
- 8回 快適な大学生活を送るために【キャンパス・マナー】
- 9回 考える力1【受け取る力の説明】
- 10回 考える力2【受け取る力の演習】
- 11回 考える力3【処理する力の説明】
- 12回 考える力4【処理する力の演習】
- 13回 考える力5【発信する力の説明】
- 14回 考える力6【発信する力の演習】
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(宿題レポートを含む) ... 100%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ)の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返りまとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅のパソコン等を使って積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な学生の考える力の基礎となるスキルを身につけることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解は存在しない。このような社会を生き抜くためには、自ら考え、判断し、行動していく必要がある。自分自身が生き抜く道を選択するための基盤となる力のひとつが「考える力」である。考えることは、学びを深めていく上でも大切な能力のひとつである。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態をとりながら、自ら「考える力」の基礎を身に付けていく。また、そのために必要な情報リテラシーについての学習なども行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【グラフや図などの挿入】
- 7回 大学での学びについて【剽窃と引用】
- 8回 快適な大学生活を送るために【キャンパス・マナー】
- 9回 考える力1【受け取る力の説明】
- 10回 考える力2【受け取る力の演習】
- 11回 考える力3【処理する力の説明】
- 12回 考える力4【処理する力の演習】
- 13回 考える力5【発信する力の説明】
- 14回 考える力6【発信する力の演習】
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(宿題レポートを含む) ... 100%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ)の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返りまとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅のパソコン等を使って積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名
/Instructor

伊野 憲治 / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な学生の考える力の基礎となるスキルを身につけることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解は存在しない。このような社会を生き抜くためには、自ら考え、判断し、行動していく必要がある。自分自身が生き抜く道を選択するための基盤となる力のひとつが「考える力」である。考えることは、学びを深めていく上でも大切な能力のひとつである。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態をとりながら、自ら「考える力」の基礎を身に付けていく。また、そのために必要な情報リテラシーについての学習なども行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【グラフや図などの挿入】
- 7回 大学での学びについて【剽窃と引用】
- 8回 快適な大学生活を送るために【キャンパス・マナー】
- 9回 考える力1【受け取る力の説明】
- 10回 考える力2【受け取る力の演習】
- 11回 考える力3【処理する力の説明】
- 12回 考える力4【処理する力の演習】
- 13回 考える力5【発信する力の説明】
- 14回 考える力6【発信する力の演習】
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(宿題レポートを含む) ... 100%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ)の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返りまとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅のパソコン等を使って積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律 1 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な学生の考える力の基礎となるスキルを身につけることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解は存在しない。このような社会を生き抜くためには、自ら考え、判断し、行動していく必要がある。自分自身が生き抜く道を選択するための基盤となる力のひとつが「考える力」である。考えることは、学びを深めていく上でも大切な能力のひとつである。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態をとりながら、自ら「考える力」の基礎を身に付けていく。また、そのために必要な情報リテラシーについての学習なども行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【グラフや図などの挿入】
- 7回 大学での学びについて【剽窃と引用】
- 8回 快適な大学生活を送るために【キャンパス・マナー】
- 9回 考える力1【受け取る力の説明】
- 10回 考える力2【受け取る力の演習】
- 11回 考える力3【処理する力の説明】
- 12回 考える力4【処理する力の演習】
- 13回 考える力5【発信する力の説明】
- 14回 考える力6【発信する力の演習】
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(宿題レポートを含む) ... 100%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ)の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返りまとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅のパソコン等を使って積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な学生の考える力の基礎となるスキルを身につけることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解は存在しない。このような社会を生き抜くためには、自ら考え、判断し、行動していく必要がある。自分自身が生き抜く道を選択するための基盤となる力のひとつが「考える力」である。考えることは、学びを深めていく上でも大切な能力のひとつである。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態をとりながら、自ら「考える力」の基礎を身に付けていく。また、そのために必要な情報リテラシーについての学習なども行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【グラフや図などの挿入】
- 7回 大学での学びについて【剽窃と引用】
- 8回 快適な大学生活を送るために【キャンパス・マナー】
- 9回 考える力1【受け取る力の説明】
- 10回 考える力2【受け取る力の演習】
- 11回 考える力3【処理する力の説明】
- 12回 考える力4【処理する力の演習】
- 13回 考える力5【発信する力の説明】
- 14回 考える力6【発信する力の演習】
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(宿題レポートを含む) ... 100%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ)の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返りまとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅のパソコン等を使って積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な学生の考える力の基礎となるスキルを身につけることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解は存在しない。このような社会を生き抜くためには、自ら考え、判断し、行動していく必要がある。自分自身が生き抜く道を選択するための基盤となる力のひとつが「考える力」である。考えることは、学びを深めていく上でも大切な能力のひとつである。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態をとりながら、自ら「考える力」の基礎を身に付けていく。また、そのために必要な情報リテラシーについての学習なども行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【グラフや図などの挿入】
- 7回 大学での学びについて【剽窃と引用】
- 8回 快適な大学生活を送るために【キャンパス・マナー】
- 9回 考える力1【受け取る力の説明】
- 10回 考える力2【受け取る力の演習】
- 11回 考える力3【処理する力の説明】
- 12回 考える力4【処理する力の演習】
- 13回 考える力5【発信する力の説明】
- 14回 考える力6【発信する力の演習】
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(宿題レポートを含む) ... 100%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ)の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返りまとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅のパソコン等を使って積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は「アカデミック・スキルズI」で培ってきた考える力をさらに活用して、大学での学びに必要なコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とします。個人が考えたことを複数の人間で共有したり、協働で活動したりするためには、自らが考えたことを他の人に正しく伝えて理解してもらう必要があります。

この授業では、情報収集からはじめて、それを取捨選択して加工し、他者に向けて発信するという一連の過程を具体的に実践して、「見せるスキル」「聞かせるスキル」それぞれの能力を磨いていきます。具体的には、以下のような項目を身につけます：

- 情報収集と情報の信頼性のチェック方法
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- 論理的な思考とそのアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

おおまかに、授業の前半は個人的な能力の養成を、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データを集める【検索】【情報の信頼性】【着眼点】
- 3回 データを加工する【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データを表現する【レイアウト】【デザイン】【色彩】
- 5回 論理的に考える1【要素に分解する】
- 6回 論理的に考える2【原因と結果】【課題解決】
- 7回 伝わるように工夫する【ストーリー】【ピラミッド構造】
- 8回 他の人に向けて書く・他の人の文を読む【見せる情報】
- 9回 他の人に向けて話す・他の人の話を聴く【聞かせる情報】
- 10回 グループで議論する【マインドマップ】【整理する】【発想する】
- 11回 グループで役割分担をする【課題を分割する】
- 12回 グループで発表内容をまとめる【部分を統合する】
- 13回 グループで発表する
- 14回 グループを評価する
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 90%
 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」を使って、授業の資料などを提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に提示した課題を次回の授業時に提出したりしてもらいますので、授業時間外の作業が必要となります。特にグループ活動においては、グループメンバーと議論する時間を確保してください。

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「ロジカルシンキング (論理的な思考) 」や「分かりやすい表現術」は、大学生活だけに限らず、社会で活躍するためには必須の能力です。早いうちにこれらの能力を伸ばす努力をはじめましょう。「先んずれば人を制す」です。

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング (論理的な思考) , プレゼンテーション , アクティブ・ラーニング , コミュニケーション能力 , 思考力

アカデミック・スキルズII【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

サブテーマ「思考と推論」

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して、大学生活に必要なコミュニケーション力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。特に、本授業では、人間が考えるときに重要なはたらきをしている「推論」と、その心理実験を通じて、考える力を総合的に活用できる能力・資質を伸ばすことを目指す。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- 思考スキルとその活用方法
- 推論とその心理実験
- 批判的思考
- 論理的思考

本授業は、グループワークと個別ワークを中心に授業を進める。グループワークでは、担当教員の主導の元、グループで協力しながら心理実験の計画・実施・分析・考察までの一連の流れを実施する。個別ワークでは、グループワークで学んだことを活かして、個人で心理実験の一連の流れを実施し、最後にレポートを作成する。

教科書 /Textbooks

市川伸一：考えることの科学～推論の認知心理学への招待～、中公新書、1997年、660円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：考える力と推論【ガイダンス】【認知心理学】
- 2回目：形式論理と日常的論理(1)【受け取る】【四枚カード問題】
- 3回目：形式論理と日常的論理(2)【視点を変える】【批判的思考】
- 4回目：形式論理と日常的論理(3)【分析する】【関係づける】【問いを立てる】【論理的推論】
- 5回目：グループワーク(1)：心理実験計画【疑う】【視点を変える】【実験テーマ】
- 6回目：グループワーク(2)：心理実験計画【批判的思考】【問いを立てる】
- 7回目：グループワーク(3)：心理実験の実施
- 8回目：グループワーク(4)：心理実験結果の分析と考察【分析する】
- 9回目：グループワーク(5)：まとめ【関係づける】【比較する】【分析する】
- 10回目：個別ワーク(1)：心理実験計画【疑う】【視点を変える】【実験テーマ】
- 11回目：個別ワーク(2)：心理実験計画【批判的思考】【問いを立てる】
- 12回目：個別ワーク(3)：心理実験の実施
- 13回目：個別ワーク(4)：心理実験結果の分析と考察【分析する】
- 14回目：個別ワーク(5)：レポート作成【分析する】【伝える】
- 15回目：レポート評価・まとめ【関係づける】【比較する】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークの成果・・・30%、個別ワークのレポート・・・50%、積極的な授業参加・・・20%

アカデミック・スキルズII【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、授業時間内に各ワークの課題に未到達、または、満足のいく完成度ではなかった場合は、授業時間外に積極的にワークの続きに取り組み、次の授業に備えること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。「アカデミック・スキルズII」を受講し、その内容をしっかり学んでいると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブラーニング、コミュニケーション力、推論、心理実験、批判的思考

アカデミック・スキルズII【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることです。最終的な目標は、テーマに沿って自分で問いを設定し、文献を読んで考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジユメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

教科書 /Textbooks

パオロ・マツアリーノ2015『「昔はよかった」病』新潮新書（740円＋税）

履修登録者名簿の学部バランスをみて、もう一冊同じ価格帯のテキスト候補を準備します。初回で受講者の希望に応じて、どちらのテキストがいいか決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 慶応義塾大学教養研究センター 2014『ダメレポート脱出法』慶應大学出版会
- 佐渡島沙織ほか編 2015『レポート・論文をさらによくする書き直しガイド』大修館書店
- 白井利明・高橋一郎2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本の理解を深めるには・レジユメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 議論のしかた
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、積極的な発言など）50%
（第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。）
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。
※学期末レポートの最低文字数は2000字です。

アカデミック・スキルズII【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業から必ず出席してください。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。受講する段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。
- ・ 演習の準備に時間がかかることを嫌がらないでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。レポートをあまり書かない学部の学生も、学期末には2000字以上のレポートを頑張って書いています。レポートに慣れていない学部の学生は、この機会に自分の書き方を点検し、より高く評価されるレポートを目指してみましよう。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力

アカデミック・スキルズII【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

サブテーマ「安全保障を哲学する」

(アカデミック・スキルズII 共通記述) 本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

この授業では、担当者の専門である安全保障を題材にして、「アカデミック・スキルズI (AS-1)」で練習した思考の方法を応用してみる。

一言でいえば、安全保障の問題というのは、われわれ一般人（一般社会、公共空間）に対する意図的な攻撃から、われわれが如何に安全を確保できるかという問題である。実感はないかもしれないが、実は、われわれは、好むと好まざるを問わず、こうした攻撃にさらされる可能性が常にある。今、この瞬間にも。

そういう意味で、もしがしたら自分も犠牲者になりうるという点で、この種の問題は、誰にとってもリアリティを持っている。

たとえば、あなたの想像力（イメージする力）を働かせて、「実際に起きたテロ攻撃を題材に、その背景や動機、実際の攻撃の選択、攻撃後の社会の反応に迫ってみる」、「ともに意図的な殺害を行うテロリストと爆撃手が決定的に異なるのはどこか」、「どのような場合でも軍事的攻撃は正当化されるのか」、「放置すれば大規模な人道破壊に至ることが明白な場合、国際社会が軍事介入して「戦争」をして解決することは許されるのか。つまり、正しい戦争はありうるか」といった問題に、思いをはせてみよう。これらは、誰もが真剣に考えるに値する問題である。実際に起きた事案だけではなく、「こういう場合は？」「もしこうだったら？」のような感じで、いじくりたい。

そのような題材をテーマに、AS-1でかじった「入力（受け取り）」「処理（疑い、分類、分析、関係づけetc.）」、「出力（伝達、問、批判）」に代入して、一人一人が自分の頭で考えられるようにしたい。

要するに、安全保障問題を題材に、論理を走らせてみることで（論理パズルや知的ゲームの感覚で）、哲学的、倫理的に頭を使ってみようとする試みを想定している。

こうした問題には、そもそも正解がないか、「唯一の」正解はない。正解がない問題の答えを、一緒に頭をひねりながら考えたい。一緒に冒険しよう！

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、紹介する。

アカデミック・スキルズII【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 この授業の学び方
アクティブ・ラーニング、反転授業、ディスカッション
- 第3回 ディスカッション&ワーク1(テーマ1初級編)
- 第4回 ディスカッション&ワーク2(テーマ1掘り下げ)
- 第5回 ディスカッション&ワーク3(テーマ2初級編)
- 第6回 ディスカッション&ワーク4(テーマ2掘り下げ)
- 第7回 コーヒーブレイク1(未定)
- 第8回 ディスカッション&ワーク5(テーマ3初級編)
- 第9回 ディスカッション&ワーク6(テーマ3掘り下げ)
- 第10回 ディスカッション&ワーク7(テーマ4初級編)
- 第11回 ディスカッション&ワーク8(テーマ4掘り下げ)
- 第12回 コーヒーブレイク2(未定)
- 第13回 ディスカッション&ワーク9(テーマ5初級編)
- 第14回 ディスカッション&ワーク10(テーマ6掘り下げ)
- 第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

受講者数により異なるが、授業態度60+予復習状況40、を予定している。初回授業の際、確定する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中配布した予習・復習プリントや、Moodleで出題する課題(事前学習)については、各回、家庭学習してくること(30分程度でできる内容を心がける)。

この授業は、「反転授業」(※)を意識している。

※「反転授業」・・・ふつうの授業は、授業時間の大半を、先生の話(知識の提供、技法の説明etc.)で使ってしまい、問題の演習は、残った時間でやって、あとは宿題といったようになる。反転授業は、「従来は、先生から授業中に教わっていたこと」の全部または一部を、配布課題やE-Learning等で自宅で済ませてしまい、授業では問題演習や応用をする、といったイメージ。新しいもの好きなので、今回、実験的にやってみる。実験台になってください。

履修上の注意 /Remarks

予復習が必須になる。その見返りに、レポートや試験は課さない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できれば、担当者の人となりをわかっている「日本の防衛」や「世界特講(テロリズム論)」受講済みの学生が望ましいが、受講していない学生も履修可能です。

キーワード /Keywords

(AS-2共通記述)思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	

科目名	アカデミック・スキルズII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	---------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

身近なことをテーマに考えたり自分の考えを表現したりすることを、様々な学部(学群)の学生と行ってもらおう。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：考える力
- 3回：コミュニケーション能力
- 4回：ことばを有効に活用するためのスキル
- 5回：自分を理解する①【大切にするもの】
- 6回：自分を理解する②【違和感のあるもの】
- 7回：相手を理解する
- 8回：自分を理解してもらおう
- 9回：個人発表
- 10回：ここまでの振り返り
- 11回：北九大を理解する①【キャンパス探訪】
- 12回：北九大を理解する②【課題設定】
- 13回：北九大を理解する③【表現する】
- 14回：個人発表(または、グループ発表)
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(事前・事後学習を含む) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に役立つ活動を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の興味や関心に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、楽

アカデミック・スキルズII (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介、稲月正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

この授業では、社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す（伝える）力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力も身につけられるようアシストします。様々な学部の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

「時事問題や正しい日本語の使い方に関するクイズ」「新聞への投稿」「流行語大賞や10大ニュースを予測してみよう」など、新聞を活用した演習やクイズを実施します。文章添削も行う予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。新聞を授業時に配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 新聞の基本的な読み方とまわしよみ新聞の作り方、グループ分け (※気になる記事を選んで作る「まわし読み新聞」は毎回作成します。)
- 第2回 新聞のちから①まわしよみ新聞を基にテーマを選択
- 第3回 新聞のちから②テーマと疑問点を詰める
- 第4回 新聞のちから③文章の書き方 (基礎編)
- 第5回 新聞のちから④文章の書き方 (応用編)
- 第6回 新聞のちから⑤模擬取材体験
- 第7回 新聞のちから⑥取材結果をまとめる
- 第8回 新聞のちから⑦発表と講評
- 第9回 社会人基礎力養成①深く考える力を高める新聞の読み方
- 第10回 社会人基礎力養成②課題解決へ思考を深める
- 第11回 社会人基礎力養成③課題解決へ思考を深める
- 第12回 社会人基礎力養成④課題解決へ思考を深める
- 第13回 社会人基礎力養成⑤就活突破と新聞活用術
- 第14回 まとめ①「わたしたちの新聞」作成
- 第15回 まとめ②「わたしたちの新聞」発表と講評

成績評価の方法 /Assessment Method

課題やグループワークへの取り組みの度合いで総合的に判断します (100%) 。
詳しくは1回目の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を毎回活用します。
就職活動に役立つような簡単な演習などを課題として出題する予定です。

アカデミック・スキルズII (教養を磨く 『新聞のちから』) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

新聞報道の現場経験者が、その経験を活かしながら「読む力」「書く力」「話す力」「考える力」を向上させる授業を担当する。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力

実務経験のある教員による授業

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）の基礎は、国連が定めた「SDGs」（持続可能な開発目標）のうち、「4. 質の高い教育をみんなに」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「10. 人や国の不平等をなくそう」「17. パートナリシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライブログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に随時提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

情報社会への招待【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。その他、ICTに関するニュースなどの世の中の動きを注視して情報収集することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

法への誘い【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW001F		◎	○		○
科目名	法への誘い				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しません。毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る①【最高法規】【個人の尊厳】【基本的人権】【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る②【平和主義】【権力分立】【違憲法令審査制】【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る①【私的自治】【所有権の絶対】【過失責任】【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る②【公共の福祉】【信義誠実の原則】【権利濫用】【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る①【罪刑法定主義】【犯罪の要件】【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る②【刑事手続】【裁判員制度】【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る①【社会規範】【法規範の特性】【社会統制】【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る②【紛争解決】【行為規範】【裁判規範】【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る【裁判所】【裁判の役割】【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る【判例集】【判例の調べ方】【事実の概要】【判旨】【参照条文】
- 12回 判例を読む①【判例部分の抽出】【判例研究の意義】【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む②【判例評価の方法】【判例と学説】【特別受益】【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む【相続】【親子関係】【婚姻】【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40 % 定期試験... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'19』信山社(1,000円)をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピューターリテラシー 【昼】

担当者名 古川 洋章 / 情報総合センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、コンピュータやネットワークを正しく操作するための知識と技術を習得することである。この授業は、初心者を対象としている。このため、実際にコンピュータを操作しながら、文書作成、表計算、グラフ作成などの基礎について学習する。また、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法についても学習する。具体的には、以下のような知識や技術の習得を目指す。

- ・ 文書作成の基礎
- ・ 表計算、グラフ作成の基礎
- ・ 電子メールの利用方法の基礎
- ・ 情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

土岐順子、山崎紅、阿部香織、川上恭子（株式会社イーミントラーニング）著『情報利活用 基本演習 Office 2016対応』日経BP社（2016年）、1,728円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 正確な文字入力【タイピング】
- 3回 電子メールの送受信方法【電子メール】
- 4回 ネットワークの光と影1【情報検索】【情報倫理】【セキュリティ】
- 5回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 6回 文書作成の基本操作【フォント】【中央揃え】【箇条書き】【段落番号】
- 7回 見やすい文書の作成【余白】【ページ設定】【ヘッダー】【フッター】
- 8回 図形の挿入、画像の貼り付け【図形】【画像の貼り付け】
- 9回 文書作成演習
- 10回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 11回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 12回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 13回 グラフ作成の基本操作【グラフ】
- 14回 表・グラフ作成演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題・・・60%
積極的な授業参加（電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習しておくこと。（必要な学習時間の目安は、10分。）授業終了後には、パソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、50分。）

コンピューターリテラシー 【昼】

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、初心者を対象としている。実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

タイピング、文書作成、表計算、グラフ、電子メール、情報倫理、セキュリティ

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL205F			◎		
科目名	知の創造特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。

しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。

したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。

このことをふまえ本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「団塊の世代」
- 第5回 2. 戦後文化と家族モデル
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」
- 第12回 4. 日本人の理想とモデル - ブラウン管を通じて見たアメリカ -
- 第13回 V. 「ロスジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第14回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第15回 2. モデルの喪失と新たな文化形成

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC002F			◎	○	
科目名	社会学的思考		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方や概念を身に付け、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。そのために、以下の2点について講義する。
 (1) 社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。
 (2) 現代の社会問題を社会的に考えていく。とりあげる問題としては「大衆社会とファシズム」「社会的排除と貧困」などを予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な要因による説明とは
- 第4回 個人と社会をつなぐ1 - デュルケム1 【自殺論 - 集合意識と行為】
- 第5回 個人と社会をつなぐ2 - デュルケム2 【自己本位的自殺】
- 第6回 個人と社会をつなぐ3 - デュルケム3 【アノミーの自殺】
- 第7回 個人と社会をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 個人と社会をつなぐ5 - ウェーバー2 【プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神】
- 第9回 機能主義とシンボリック相互作用論
- 第10回 現代の社会的解読1 - ファシズム1 【社会的性格とファシズム】
- 第11回 現代の社会的解読2 - ファシズム2 【デモクラシーと大衆社会】
- 第12回 現代の社会的解読3 - 社会的排除と貧困1 【社会的排除と生活困窮の現状】
- 第13回 現代の社会的解読4 - 社会的排除と貧困2 【生活困窮化のメカニズム】
- 第14回 現代の社会的解読5 - 社会的排除と貧困3 【社会的な支援のあり方】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

社会学的思考 【昼】

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 こころの科学1【心理学、統計】
- 第7回 こころの科学2【進化、行動主義】
- 第8回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第9回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第12回 脳とこころ2【心身の発達と脳】
- 第13回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第14回 脳とこころ4【睡眠の影響】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2268円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本的経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高畠・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 基礎的概念整理【民主制】【独裁制】【共和制】【君主制】
3. 近代的分類法【防禦民主主義】【均衡民主主義】【人民民主主義】
4. 民主主義の暴走【立憲主義】【司法独立】【指揮権】
5. 実証的民主体制論【ポリアーキー】【ダール】
6. デモクラシーの指標化【PolityIV】【Freedom House】
7. 民主制の多様性とその生存・品質 1：制度【議会制】【大統領制】
8. 民主制の多様性とその生存・品質 2：選挙【SMD】【PR】
9. 民主制の多様性とその生存・品質 3：運用【ウエストミンスター型】【コンセンサス型】
10. 民主制の多様性とその生存・品質 4：社会【コンソリドレーション型】【民族問題】
11. 公正な意思決定の不可能性【社会的選択】【選挙制度】【サイクル】
12. 民主制と独裁制の間で【経済成長】【社会厚生】
13. 権威主義体制とその分類【軍事独裁】【政党独裁】【個人・君主独裁】
14. 権威主義体制と選挙・政党【選挙の独裁強化機能】
15. 民主制⇔独裁制の体制変動【民主化】【独裁化】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

民主主義とは何か【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が変わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にして下さい。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません（それがない人を想定して授業を行います）。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

社会哲学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 近代とは何か【概説】
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【工場労働】
- 6回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 9回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 10回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 11回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 12回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 13回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

文化を読む【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文科学的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。文学研究、宗教研究、異文化間教育といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

◎宗教

宗教は文化における重要な要素であり、人間や社会の価値観とも密接な関係にある。我々にとってなじみ深い仏教・神道・キリスト教などの諸宗教を取り上げ、その世界観や倫理観について比較の観点を通じてわかりやすく講義したい。

◎異文化間教育

文化というものには、見える文化と見えない文化があり、本人が自覚しにくい見えない文化に気づくことが異文化理解の始まりである。異文化の理解があってはじめて、外国語のコミュニケーション能力が育つ。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「宗教」の講義についての概説とレポートの指示
- 第3回 世界観をめぐって① 『旧約聖書』の「創世記」とキリスト教の世界観
- 第4回 世界観をめぐって② 仏教の世界観
- 第5回 世界観をめぐって③ 神道の現世と世界
- 第6回 戒律をめぐって① 仏教の戒律
- 第7回 戒律をめぐって② ユダヤ教・キリスト教の戒律
- 第8回 戒律をめぐって③ 神道の齋戒・穢
- 第9回 異文化を理解することは可能なのか？（見えない文化と価値観）
- 第10回 バイリンガルはうらやましい？（「移動する子ども」のライフストーリー）
- 第11回 異文化トレーニング（他者との出会いを捉え直す）
- 第12回 乙一「陽だまりの詩」の解釈
- 第13回 安部公房「棒」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物（西南戦争風刺画を読み解く）
- 第15回 幕末・明治の出版物（戊辰戦争風刺画を読み解く）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート＝100%（文学、宗教、異文化間教育に関する3つのレポートすべてを提出しなければ、評価の対象とはならない）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

文化を読む【昼】

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

日本近現代文学、宗教、異文化

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR006F			◎		○
科目名	芸術と人間		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009
「現代美術史日本篇 1945-2014」 著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
「20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から」 編著・中村ケンゴ アートダイバー 2015

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ボルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 50%
レポート(学期末) 40%
日常の取組(出欠など) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2) 随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

芸術と人間【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上) (下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

現代正義論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

情報表現【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF230F		○	◎	○	
科目名	情報表現				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、自分自身が伝えたい情報を表現するための知識や技術を習得することである。この授業では、個人ワークやグループワークを行いながら、情報の収集や整理、表現、発信などについて学習する。また、プレゼンテーションに必要なロジカルシンキングについても学習する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 プレゼンテーション【要約】
- 3回 プレゼンテーション【PREP】
- 4回 ロジカルシンキング【課題発見】
- 5回 ロジカルシンキング【原因分析】
- 6回 プレゼンテーション【パワーポイント】
- 7回 情報の収集【検索】【信頼性】
- 8回 情報の整理【プロット】
- 9回 情報の整理【ストーリー】
- 10回 情報の表現【デザイン】
- 11回 情報の表現【レイアウト】
- 12回 準備の発信【発表】
- 13回 準備の発信【聞き手】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加（課題の提出や発表などを含む）... 50%
振り返りレポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、課題を準備しておくこと。課題は、コンピュータ操作を伴うものもある。（必要な学習時間の目安は、90分。）授業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、レポートにまとめて提出すること。（必要な学習時間の目安は、30分。）

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は、「アカデミック・スキルズ」を履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、振り返りレポートを提出してもらい、受講生の質問や意見を反映させながら、授業を展開する。このため、積極的に授業に参加してほしい。また、実際にコンピュータを操作して作成する課題もある。その際には、授業時間外にパソコン自習室や自宅のパソコンなどで積極的に取り組んで欲しい。受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

情報表現【昼】

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、スライドデザイン

倫理思想史 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

西欧における倫理思想の変遷を哲学・宗教・演劇・映画などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は2年ごとに内容を入れ替えており、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は古代世界における思想の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、倫理的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの倫理(1) 【悲劇の誕生】
- 3回 古代ギリシャの倫理(2) 【悲劇の生成】
- 4回 古代ギリシャの倫理(3) 【悲劇の実例】
- 5回 古代ギリシャの倫理(4) 【道徳哲学の誕生】
- 6回 古代ギリシャの倫理(5) 【道徳哲学の完成】
- 7回 古代ローマの倫理
- 8回 古代ユダヤ教の倫理(1) 【宗教民族史】
- 9回 古代ユダヤ教の倫理(2) 【信仰の継承】
- 10回 ローマの中のユダヤ(1) 【権力と隷属】
- 11回 ローマの中のユダヤ(2) 【愛と憎悪】
- 12回 ローマの中のユダヤ(3) 【新時代の萌芽】
- 13回 古代キリスト教の倫理(1) 【イエスの思想】
- 14回 古代キリスト教の倫理(2) 【原始キリスト教】
- 15回 古代キリスト教の倫理(3) 【教義の生成】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教と近代化

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 中間テストの解説

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時にちょっとお金を払えば入手できます。この授業では、そのような小手先の異文化理解でなく、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなたの考えを知りたいと思う人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC004F			○	◎	○
科目名	人権論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。
本講義では「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。
その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深める。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率が基準を満たした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN001F			○	◎	○
科目名	ジェンダー論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標とする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR110F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート+講義中の課題」(60点) + 「実践報告レポート」(40点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備も、そうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門I【昼】

履修上の注意 /Remarks

本科目は、受講者による「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」（1500字程度）を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義では、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めています。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR180F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- 3 サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- 4 サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- 5 サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- 6 サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- 7 サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 8 計画発表会①
- 9 計画発表会②
- 10 実践報告①
- 11 実践報告②
- 12 実践報告③
- 13 実践報告④
- 14 受講生による振り返り
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加貢献 (50点) + 活動報告書 (50点) = 100点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門II【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・ 行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・ 社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・ 福祉・ 国際視点からのアプローチ-』大学教育出版
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セトルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW001F	○		○	◎	
科目名	障がい学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉症スペクトラム障害を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ、ディスカッションも含む【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症スペクトラム障害とは①自閉症の特性【自閉症観の変遷】
- 第6回：自閉症スペクトラム障害とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉症スペクトラム障害支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉症スペクトラム障害支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

大学生生活を充実させるものにするための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ① 様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ② 将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③ コミュニケーションをとることに慣れる
- ④ 社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤ 自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

木曜3限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができます。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・・・なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせるべき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的>

我が国は少子高齢化に対峙し、生産年齢人口をカバーすることが急務となっています。その対策のため、未就業の状態にある人々の就業支援や、外国人労働者の受け入れに加え、近年注目されているのがRPA (Robotic Process Automation) です。RPAとは、ロボットによる業務自動化の取り組みを表す言葉で、「デジタルレイバー (Digital Labor) 」や「仮想的労働者」とも言い換えられ、人間の知能をコンピューター上で再現しようとするAIや、AIが反復によって学ぶ「機械学習」といった技術を用いて、主にバックオフィスにおけるホワイトカラー業務の自動化を指します。つまり、従来の高度成長時代に基本を置く、一般的なコミュニケーション能力や主体性、チームワークなどの力の習得だけでなく、「AIやロボットには代替されない力」の習得が大学に課せられていると言えるでしょう。

では、その「AIやロボットには代替されない力」とは何でしょうか。それは創造力です。AIやロボットは指示されたことしかできないのだから。

では、創造力を大学時代にどう身に付けられるのでしょうか。創造力とは解決すべき課題にぶち当たった時、その課題と過去の学びとの関連性を見出す力です。具体的には、課題を一人で取り組むことはほぼないので「多様な人々と協働する力」は欠かせません。また、「幅広い視野・柔軟性」がなければ、課題を解決してくれるかもしれない新しい知識を得ることはできないし、「失敗を恐れず挑戦する力」がなければ、課題を解決する上で必要な能力を高めることもできません。そして「経験を振り返る力」がなければ、経験からの学びを記憶することはできません。さらに答えのない課題を解決する経験に取り組む、その課題と過去の学びとの関連性を見出す経験を積んで、「答えのない課題を解決する力」を高めなくてはならないのです。

大学時代は人生で最も時間を自由に使える時代です。自らが自らを成長させる機会を創り出し、試行錯誤を繰り返して、これら5つの力を身に付ける時間はたくさんあるのです。以上を念頭に、創造性を発揮する土台作りを本授業で学んでください。

<進め方と目標>

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト (ロールモデル) との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント (ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど) の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料をMoodleにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
 以下書籍はその参考例です。
- キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
 - 金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
 - 大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
 - 渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
 - モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
 - エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
 - 平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
 - 中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
 - 香取一昭・大川 恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
 - 金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
 - J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
 - スプツニ子! 『はみだすカ』宝島社
 - アンジェラ・ダックワース 『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
 - リンダ グラットン 『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
 - リンダ グラットン、アンドリュースコット 『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
 - 見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
 - 中原淳、見館好隆ほか 『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 幅広い視野・柔軟性を身につけるには(先輩登壇)
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③打ち合わせ
- 7回 働くということ(社会人登壇)
- 8回 新しい仕事を創る(ジヨブスタ)
- 9回 ケーススタディワーク(酒造メーカーの改革)
- 10回 自分らしい就職活動をするには(卒業生・内定者登壇)
- 11回 企業団体研究(面白い企業団体を知る)
- 12回 計画された偶発性(幸運は準備とチャンスの交差点)
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・メンバーからの相互評価)・・・78%
 インタビューレポート・・・13%
 最終レポート・・・9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・相互評価・復習を掲示しますので毎週締め切りまでに行ってください。
 <インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
 <最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】

※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
 ※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
 ※曜日や時限を間違えて履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】

※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
 ※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティア活動などが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。よって、できる

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

だけ早くそれらに挑戦してほしいのですが、そもそも「何がやりたいのか？」がわからなければ、探すことも選ぶこともできません。ゆえに、大学時代に寝食を忘れて取り組むテーマを見出してもらい仕組みと、そのために必要な力が獲得できるように設計しました。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決

実務経験のある教員による授業

メンタル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS003F					◎
科目名	自己管理論				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自立した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらう。それらの講義を聴講して、今後の人生の指針となる考え方の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会人マナーについて
- 3回 北九州市での生活について
- 4回 犯罪防止について ~被害者や加害者にならないように~
- 5回 自転車の交通安全について
- 6回 薬物乱用防止について ~飲酒との向き合い方~
- 7回 消費者トラブルについて
- 8回 ブラックバイトについて
- 9回 大学生とお金について
- 10回 いざという時のための消防と救急について
- 11回 災害への備えについて
- 12回 ハラスメント防止とデートDVについて
- 13回 地域で生きることについて
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(ほぼ毎回実施する課題レポートを含む) ... 70%
まとめレポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。(必要な学習時間の目安は、60分。)授業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、まとめておくこと。(必要な学習時間の目安は、60分。)振り返り内容は、レポートとして提出してもらうことがある。

履修上の注意 /Remarks

入学式で配布される資料や、北九州市立大学Webサイト上の「学生生活・就職」のページを参照しておいてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらおう。このため、以下の注意点に留意すること。

- ① 第1回目の授業に出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。
- ② 遅刻することなく、毎回授業に出席すること。授業計画や授業内容等は、外部講師の都合により、変更になる可能性がある。その場合は、その都度授業中に説明する。
- ③ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

関連する自治体職員などが、大学生活を送る上での自己管理に関して解説する。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 ふとる・やせる、適度な運動とは(講義)【体脂肪】
- 7回 軽運動、エアロビクス・ダンス(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 レッツ・スポーツ(講義)【計画・企画】
- 14回 レッツ・スポーツ(実習)【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 ふとる・やせる、適度な運動とは(講義)【体脂肪】
- 7回 軽運動、エアロビクス・ダンス(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 レッツ・スポーツ(講義)【計画・企画】
- 14回 レッツ・スポーツ(実習)【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サーブの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

世界での学び方【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 堀内 喜代美 / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験させることで、国際理解や知識を拡大させるとともに、語学力の向上につなげさせ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKGEP Standard/Challengeコースの入門科目となっています（コース修了のための要件科目（必修）です）。

受講を通じ、大学時代に海外での学びを体験してみたいと考えている人に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかについて考えてもらうことで、学生が社会で生きるのに必要とされる「自立的行動力」としての自己を確立する力を涵養することを目的としています。また準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に実施できるよう、必要な知見や視座を提供することも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学習を通じ、理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私的プログラムとの異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機リスクについて、一定の知見を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験の目標を、自己の成長の観点から、かつ、キャリア設計の観点から、設定することができる。
- ⑤ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験挑戦計画を策定できる。
 - a) 体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸の観点を導入した計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑥ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業では、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業（聞き取りやインタビュー）、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが自身の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。またみなさんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースを修了されることを期待します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。(2019年1月時点)

講義資料等は、北方モデルにアップするので、各自、印刷して精読し、持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に、適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション ～講義のねらいとコースガイダンス～
 第02回 北九州市立大学の国際交流の歴史を振り返る
 第03回 交流実践① 国際教育交流センターで学ぶ，留学生に会って話をしてみよう
 第04回 北九州市立大学の海外体験プログラムを知る
 第05回 交流実践② 留学フェア等に参加し，体験者から学ぼう
 第06回 海外で学ぶための準備① 挑戦と必要な語学力
 第07回 海外で学ぶための準備② 北九州の魅力を知り，海外で発信する準備をする
 第08回 海外で学ぶための準備③ 海外の大学での学びと日本の大学での学び： 違いを理解しよう
 第09回 海外で学ぶための準備④ 新しい生活と新たな環境への適応： 不安を軽減しよう
 第10回 海外危機管理について学ぶ① 海外にはどんな危険があるのか理解する
 第11回 海外危機管理について学ぶ② 危機に遭遇した場合の対処の仕方をシミュレートする
 第12回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう 自己の成長を可視化する，
 第13回 海外体験で得た経験や力を積極的に社会に還元しよう なぜいま還元なのか
 第14回 交流実践③ 北九州でもできる実践
 第15回 まとめ 【総括】
 * 具体的な日程は，初回授業時に指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業課題・・・20%，実践課題・・・30%，
 最終レポート（これまでの授業の内容を反映した「海外体験挑戦計画」を作る）・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い，事前学習を行い，授業に臨むことを求めます。また指示に従い，事後学習（課題）を進め，授業内容の定着を図ってください。詳細は，北方モデルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、国際教育交流センターが所管する Kitakyushu Global Education Program の一部です。国際教育交流センターの海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集手続きを行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター，国際交流，海外体験，交換留学，派遣留学，語学研修，海外短期研修

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 堀内 喜代美 / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験させることで、国際理解や知識を拡大させるとともに、語学力の向上につなげさせ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKGEP Standard/Challengeコースの入門科目となっています（コース修了のための要件科目（必修）です）。

受講を通じ、大学時代に海外での学びを体験してみたいと考えている人に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかについて考えてもらうことで、学生が社会で生きるのに必要とされる「自立的行動力」としての自己を確立する力を涵養することを目的としています。また準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に実施できるよう、必要な知見や視座を提供することも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学習を通じ、理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私的プログラムとの異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機リスクについて、一定の知見を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験の目標を、自己の成長の観点から、かつ、キャリア設計の観点から、設定することができる。
- ⑤ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験挑戦計画を策定できる。
 - a) 体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸の観点を導入した計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑥ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業では、講義を中心としますが、必要に応じて、グループワークや個人作業（聞き取りやインタビュー）、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが自身の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。またみなさんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースを修了されることを期待します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。(2019年1月時点)

講義資料等は、北方モデルにアップするので、各自、印刷して精読し、持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に、適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション ～講義のねらいとコースガイダンス～
 第02回 北九州市立大学の国際交流の歴史を振り返る
 第03回 交流実践① 国際教育交流センターで学ぶ，留学生に会って話をしてみよう
 第04回 北九州市立大学の海外体験プログラムを知る
 第05回 交流実践② 留学フェア等に参加し，体験者から学ぼう
 第06回 海外で学ぶための準備① 挑戦と必要な語学力
 第07回 海外で学ぶための準備② 北九州の魅力を知り，海外で発信する準備をする
 第08回 海外で学ぶための準備③ 海外の大学での学びと日本の大学での学び： 違いを理解しよう
 第09回 海外で学ぶための準備④ 新しい生活と新たな環境への適応： 不安を軽減しよう
 第10回 海外危機管理について学ぶ① 海外にはどんな危険があるのか理解する
 第11回 海外危機管理について学ぶ② 危機に遭遇した場合の対処の仕方をシミュレートする
 第12回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう 自己の成長を可視化する，
 第13回 海外体験で得た経験や力を積極的に社会に還元しよう なぜいま還元なのか
 第14回 交流実践③ 北九州でもできる実践
 第15回 まとめ 【総括】
- * 具体的な日程は，初回授業時に指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業課題・・・20%，実践課題・・・30%，
 最終レポート（これまでの授業の内容を反映した「海外体験挑戦計画」を作る）・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い，事前学習を行い，授業に臨むことを求めます。また指示に従い，事後学習（課題）を進め，授業内容の定着を図ってください。詳細は，北方モデルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、国際教育交流センターが所管する Kitakyushu Global Education Program の一部です。国際教育交流センターの海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集手続きを行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター，国際交流，海外体験，交換留学，派遣留学，語学研修，海外短期研修

Communicative English I (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 400 Listening ISBN 9784889187483 松柏社 1404円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

多元文化論エッセイ響き合う文化たち 金星堂 978-4-7647-4042-6 1944円
New Steps to Success in the TOEIC® Listening WORKBOOK 2 松柏社 978-4-88198-661-5 1188円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト・課題... 30% 日常の授業への取り組み... 15%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English I (律政群 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

特になし。
 学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントを用いる。
 (Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分の好きな仕事
- 3回 働き方改革
- 4回 少子高齢化
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい方(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【文法問題】
- 10回 Internet of Things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【長文問題】
- 12回 読解力
- 13回 これからの教育
- 14回 英語とのつきあい方(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テストを含む）...70%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC (R) L&R TEST 500 Listening /
切り取り提出式 スコア別TOEIC (R) L&R 徹底対策ドリル500 リスニング編 ISBN978-4-88918-749-0
SHOHAKUSHA 松柏社 著者：Mathew Wilson / 鶴岡公幸 ￥1,404

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回目	授業内容の説明	Scene 1: Travel	
第 2 回目	Scene 2: In the Office	Scene 3: Cooking	
第 3 回目	Scene 4: Recreation	Scene 5: Office Life	
第 4 回目	Scene 6: Travel	Scene 7: Job Interview	
第 5 回目	Scene 8: Leisure Time	Scene 9: On the Job	
第 6 回目	Scene 10: Supermarket	Scene 11: At the Office	
第 7 回目	Scene 12: Daily Life	Scene 13: Money	
第 8 回目	Scene 14: Business	Scene 15: Travel	
第 9 回目	Scene 16: Shopping	Scene 17: Business	
第 10 回目	Scene 18: Restaurant	Scene 19: Office Life	
第 11 回目	Scene 20: Hotel	Scene 21: Recreation	
第 12 回目	Scene 22: Office Environment	Scene 23: Sightseeing	
第 13 回目	Scene 24: Restaurant	Scene 25: Advertising	
第 14 回目	Scene 26: Sports	Scene 27: Business World	
第 15 回目	Scene 28: Education	Scene 29: Conferences	Scene 30: Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

授業評価 (平常点 50% 学期末考査 50%)
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第 1 回目の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学科目は予習科目です。予習時には辞書を活用して語彙の意味だけでなく文法も学びましょう。
辞書はいつでも質問出来て問題解決してくれる先生です。

復習をして授業内容を整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤センターの方針で、原則として各学期に 1 回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第 1 回の授業に必ず出席すること。

新Unitに入る時には予習テストを行います。従って予習をして授業に臨まなくてはなりません。
予習テストの方法は第一回の授業で説明します。
授業時には辞書が必携です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学問に王道なし」

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Matthew Wilson 他著「Quick Exercises for the TOEIC L&R TEST 400 リスニング編」 松柏社 ¥1404

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション & 基礎力確認テスト
- 第2回 Scene 1・ 2 / 文と文型 1
- 第3回 Scene 3・ 4 / 文と文型 2
- 第4回 Scene 5・ 6 / 文と文型 3
- 第5回 Scene 7・ 8 / 時制 1
- 第6回 Scene 9・ 10 / 時制 2
- 第7回 Scene 11・ 12/ 時制 3
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 Scene 13・ 14 / 能動態と受動態
- 第10回 Scene 15・ 16 / 現在分詞と過去分詞
- 第11回 Scene 17・ 18 / 動名詞
- 第12回 Scene 19・ 20 / 不定詞
- 第13回 Scene 21・ 22 / 関係詞 1
- 第14回 Scene 23・ 24 / 関係詞 2
- 第15回 Scene 25・ 26 / 関係詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力と聴く力の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Across Cultures (三修社) 1700円 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方の説明と諸注意
- 第2回 英語は誰のもの
- 第3回 直接的、間接的な言い方
- 第4回 共通語は多様なことば
- 第5回 英語の文化とは？
- 第6回 英語はどこで学べばよいの？
- 第7回 とても短いストーリーを書くことの意義
- 第8回 よい英語の先生とは
- 第9回 英語はアジアの言語！
- 第10回 私の第一言語はなんだろう
- 第11回 バイリンガルとはどういうことか
- 第12回 英語はいつ学ぶのがよいか
- 第13回 「そう言ったでしょ」「いや、言ってない」
- 第14回 人はなにを話題にするのか
- 第15回 日本の英語教育

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は受講の必須条件。単語を調べることは言うまでもなく、特にreadingの箇所については内容を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

授業中に辞書を使って「予習」するのはやめよう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

Enjoy and improve yourself.

Communicative English I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 400 Listening ISBN 9784889187483 松柏社 1404円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急金のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN: 9784023315686
 Matthew Wilson / Tomoyuki Tsuruoka、QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L & R TEST 600 Listening、松柏社、1,404円、ISBN: 9784889187506

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急銀のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN:9784023316843
 小石裕子、TOEIC TEST 英単語出るところだけ！、株式会社アルク、1,944円、ISBN: 9784757428430

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Course Introduction
- Week 2: Scene 1 Travel, Scene 2 Human Resources / 金のフレーズ音読
- Week 3: Scene 3 Education, Scene 4 Office Life / 金のフレーズ語彙テスト pp. 10-31
- Week 4: Scene 5 Celebrations, Scene 6 Job Interviews / 金のフレーズ語彙テスト pp. 32-53
- Week 5: Scene 7 Food, Scene 8 At Work / 金のフレーズ語彙テスト pp. 54-75
- Week 6: Scene 9 Daily Life, Scene 10 Recreation / 金のフレーズ語彙テスト pp. 76-97
- Week 7: Scene 11 Travel, Scene 12 Business / 金のフレーズ語彙テスト pp. 98-119
- Week 8: Scene 13 Sightseeing, Scene14 On the Job / 金のフレーズ語彙テスト pp. 120-141
- Week 9: Scene 15 Restaurants, Scene 16 Shopping / 金のフレーズ語彙テスト pp. 142-163
- Week 10: Scene 17 Business World, Scene 18 Restaurants / 金のフレーズ語彙テスト pp. 164-185
- Week 11: Scene 19 Office Life, Scene 20 Recreation / 金のフレーズ語彙テスト pp. 186-207
- Week 12: Scene 21 Travel, Scene 22 Office Environment / 金のフレーズ語彙テスト pp. 208-229
- Week 13: Scene 23 Hotels, Scene 24 On the Job / 金のフレーズ語彙テスト pp. 230-251
- Week 14: Scene 25 Money, Scene 26 Office Meetings / 金のフレーズ語彙テスト pp. 252-271
- Week 15: Scene 27 Shopping, Scene 28 Business World

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%）及び期末試験（50%）に基づいて行う。
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、授業前に必ず解答してくる。この予習を行うことを前提として授業を進めることを了解した上で、授業に臨むこと。教科書の音声は無料でダウンロードすることができますので、必ず予習・復習に活用してください。予習・復習の際、教科書に出てきた知らない単語・フレーズは、日本語の意味を辞書で調べて、単語・フレーズ・日本語の意味を語彙ノートに書き溜めていくこと。各授業の最初に語彙ノートを見せてもらいます。空き時間に語彙ノートを使って学習ができます。金のフレーズ語彙テストに際しては、計画的に学習すること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

必ず辞書を授業に持参すること。発音を確認するために電子辞書が望ましい。携帯電話を辞書として使用することはできません。

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書 (病院の領収書など) を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。30分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。公共交通機関が遅れて遅刻した場合は、必ず遅延証明書を貰ってきて見せてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの公式問題集を演習として取り込みます。

教科書 /Textbooks

『Quick Exercises for the TOEIC L&R Test 400 Listening : 切り取り式スコア別 TOEIC L&R徹底対策テストドリル400 リスニング編』
 Matthew Wilson, 鶴岡公洋著 松柏社 ¥1300 + 税 略号 = 748

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4』 国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3』 国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 2』 国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEIC概要 (復習60分、予習60分)
- 3回 TX 旅行 (復習60分、予習60分)
- 4回 TX 食べ物 (復習60分、予習60分)
- 5回 TX オフィスにて (復習60分、予習60分)
- 6回 TX ホテル (復習60分、予習60分)
- 7回 TX レクリエーション (復習60分、予習60分)
- 8回 TX 広告 (復習60分、予習60分)
- 9回 復習 TOEIC習熟度確認 (復習60分、予習60分)
- 10回 TX 仕事 (復習60分、予習60分)
- 11回 TX 交通 (復習60分、予習60分)
- 12回 TX 文化 (復習60分、予習60分)
- 13回 TX 天候 (復習60分、予習60分)
- 14回 TX 教育 (復習60分、予習60分)
- 15回 復習 (復習60分)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、習熟テスト 20%、授業内小テスト 20%、単語テスト 10%、授業への参加度 10%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習... (予習) 課題は必ず事前に学習して授業に臨んでください。
- 事後学習... (復習) 授業で指定された範囲は必ず学習してください。

Communicative English I (律政群 1 - I) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC (R) LISTENING AND READING TEST: Level 3 - Advanced - ISBN978-4-255-15596-8

朝日出版社 著者：北尾泰幸/西田晴美/林姿穂/Brian Covert ￥1,836

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時参考資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回	授業内容及び成績の説明	
第 2 回	Unit 1: Eating Out	動詞 (1)
第 3 回	Unit 2: Travel	動詞 (2)
第 4 回	Unit 3: Amusement	品詞
第 5 回	Unit 4: Meetings	分詞
第 6 回	Unit 5: Personnel	不定詞と動名詞 (1)
第 7 回	Unit 6: Shopping	不定詞と動名詞 (2)
第 8 回	Unit 7: Advertisement	仮定法
第 9 回	Unit 8: Daily Life	受動態
第 1 0 回	Unit 9: Office Work	代名詞
第 1 1 回	Unit 10: Business	数量詞
第 1 2 回	Unit 11: Traffic	接続詞
第 1 3 回	Unit 12: Finance and Banking	前置詞
第 1 4 回	Unit 13: Media	語彙
第 1 5 回	Unit 14: Health and Welfare	

成績評価の方法 /Assessment Method

講義の成績評価 (平常点 30% 学期末考査 70%)
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に臨むには予習は必須条件。予習していない場合は退出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に 1 回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第 1 回の授業には必ず出席すること。

授業には辞書必携です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とにかく楽しもう！

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

特になし。
 学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントを用いる。
 (Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分の好きな仕事
- 3回 やり抜く力
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい方(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【文法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【長文問題】
- 12回 読解力
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい方(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テストを含む）...70%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

Communicative English II (律政群 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Realise Japan イギリス人特派員が見た日本 金星堂 978-4-7647-4041-9 2052円
New Steps to Success in the TOEIC® Listening WORKBOOK 2 松柏社 978-4-88198-661-5 1188円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト・課題... 30% 日常の授業への取り組み... 15%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English II (律政群 1 - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 2 ISBN 9784255155951 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 2 ISBN 9784255155951 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Eating Out
- 2回 Travel
- 3回 Amusement
- 4回 Meetings
- 5回 Personnel
- 6回 Shopping
- 7回 Advertisement
- 8回 Daily Life
- 9回 Office Work
- 10回 Business
- 11回 Traffic
- 12回 Finance and Banking
- 13回 Media
- 14回 Health and Welfare
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急金のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN: 9784023315686
北尾泰幸・西田晴美・林姿穂・Brian Covert、一步上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3、朝日出版社、1836円、ISBN: 9784255155968

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急銀のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN:9784023316843
小石裕子、TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！、株式会社アルク、1,944円、ISBN: 9784757428430

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction
Week 2: Unit 1 Eating Out 文法：動詞(1) / 金のフレーズ音読
Week 3: Unit 2 Travel 文法：動詞(2) / 金のフレーズ語彙テスト pp. 10-31
Week 4: Unit 3 Amusement 文法：品詞 / 金のフレーズ語彙テスト pp. 32-53
Week 5: Unit 4 Meetings 文法：分詞 / 金のフレーズ語彙テスト pp. 54-75
Week 6: Unit 5 Personnel 文法：不定詞と動名詞(1) / 金のフレーズ語彙テスト pp. 76-97
Week 7: Unit 6 Shopping 文法：不定詞と動名詞(2) / 金のフレーズ語彙テスト pp. 98-119
Week 8: Unit 7 Advertisement 文法：仮定法 / 金のフレーズ語彙テスト pp. 120-141
Week 9: Unit 8 Daily Life 文法：受動態 / 金のフレーズ語彙テスト pp. 142-163
Week 10: Unit 9 Office Work 文法：代名詞 / 金のフレーズ語彙テスト pp. 164-185
Week 11: Unit 10 Business 文法：数量詞 / 金のフレーズ語彙テスト pp. 186-207
Week 12: Unit 11 Traffic 文法：接続詞 / 金のフレーズ語彙テスト pp. 208-229
Week 13: Unit 12 Finance and Banking 文法：前置詞 / 金のフレーズ語彙テスト pp. 230-251
Week 14: Unit 13 Media 文法：語彙 / 金のフレーズ語彙テスト pp. 252-271
Week 15: Unit 14 Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%）及び期末試験（50%）に基づいて行う。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、授業前に必ず解答してくる。この予習を行うことを前提として授業を進めることを了解した上で、授業に臨むこと。教科書の音声は無料でダウンロード・ストリーミングすることができますので、必ず予習・復習に活用してください。予習・復習の際、教科書に出てきた知らない単語・フレーズは、日本語の意味を辞書で調べて、単語・フレーズ・日本語の意味を語彙ノートに書き溜めていくこと。各授業の最初に語彙ノートを見せてもらいます。空き時間に語彙ノートを使って学習ができます。金のフレーズ語彙テストに際しては、計画的に学習すること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

必ず辞書を授業に持参すること。発音を確認するために電子辞書が望ましい。携帯電話を辞書として使用することはできません。

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書 (病院の領収書など) を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。30分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。公共交通機関が遅れて遅刻した場合は、必ず遅延証明書を貰ってきて見せてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC L&Rテストの公式問題集を演習として取り入れます。

教科書 /Textbooks

『Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test Level 1：一歩上を目指すTOEIC Listening and Reading Test ; Level 1』北尾泰幸、西田晴美、林姿穂、Brian Covert著 朝日出版社 ¥1700+税 ISBN 978-4-255-15614-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 2』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方、TOEIC 習熟度確認
- 2回 unit 1 Eating Out 動詞（1）（復習60分、予習60分）
- 3回 unit 2 Travel 動詞（2）（復習60分、予習60分）
- 4回 unit 3 Amusement 品詞（復習60分、予習60分）
- 5回 unit 4 Meetings 分詞（復習60分、予習60分）
- 6回 unit 5 Personnel 不定詞と動名詞（1）（復習60分、予習60分）
- 7回 unit 6 Shopping 不定詞と動名詞（2）（復習60分、予習60分）
- 8回 unit 7 Advertisement 名詞・冠詞・数量詞（復習60分、予習60分）
- 9回 復習 TOEIC習熟度確認（復習60分、予習60分）
- 10回 unit 8 Daily Life 名詞・冠詞・数量詞（復習60分、予習60分）
- 11回 unit 9 Office Work 仮定法（復習60分、予習60分）
- 12回 unit 10 Business 分詞（復習60分、予習60分）
- 13回 unit 11 Traffic 関係詞（復習60分、予習60分）
- 14回 unit 12 Finance and Banking 接続詞（復習60分、予習60分）
- 15回 復習（復習60分）

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、習熟テスト 20%、小テスト 20%、単語テスト 10%、授業への参加度 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習... (予習) 課題は必ず事前に学習して授業に臨んでください。
事後学習... (復習) 授業で指定された範囲は必ず学習してください。

Communicative English II (律政群 1-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力と聴く力の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Realise Japan (金星堂) 1900円 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方の説明と諸注意
- 第2回 日本でしか目にしなかった光景
- 第3回 日本に長く住みすぎたと思うとき
- 第4回 オリンピックを成功させるために
- 第5回 仕事熱心なのはいいけれども
- 第6回 日本とイギリスをつなぐもの
- 第7回 「トーキョー」ってどんなところ？
- 第8回 日英教育制度比較
- 第9回 日本語は愉快だ
- 第10回 それぞれの国の「当たり前」
- 第11回 カラオケに異議申す
- 第12回 日本式サッカーの魅力
- 第13回 どう伝えたらよいものか
- 第14回 日常に溢れるささやかな発明たち
- 第15回 日本のユーモア、イギリスのユーモア

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は受講の必須条件。特にreadingの箇所はtranslateするのではなく、interpretするように心がけること。

履修上の注意 /Remarks

授業中に辞書を使って「予習」するのはご法度

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

Enjoy and improve yourself

Communicative English II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

北尾泰幸 他著 「一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 1」朝日出版社 ¥1836 (朝)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション & 基礎力確認テスト
- 第2回 Unit 1 Eating Out / 文と文型 1
- 第3回 Unit 2 Travel / 文と文型 2
- 第4回 Unit 3 Amusement / 文と文型 3
- 第5回 Unit 4 Meetings / 時制 1
- 第6回 Unit 5 Personnel / 時制 2
- 第7回 Unit 6 Shopping / 時制 3
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 Unit 7 Advertisement / 能動態と受動態
- 第10回 Unit 8 Daily Life / 現在分詞と過去分詞
- 第11回 Unit 9 Office Work / 動名詞
- 第12回 Unit 10 Business / 不定詞
- 第13回 Unit 11 Traffic / 関係詞 1
- 第14回 Unit 12 Finance and Banking / 関係詞 2
- 第15回 Unit 13 Media / 関係詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Four Corners 1 by J.C Richards & D. Bohlke

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1
Week 3 Unit 2
Week 4 Unit 3
Week 5 Unit 4
Week 6 Unit 5
Week 7 Unit 6
Week 8 Review of Units 1-6
Week 9 Unit 7
Week 10 Unit 8
Week 11 Unit 9
Week 12 Unit 10
Week 13 Unit 11
Week 14 Unit 12
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Title: Four Corners 1
 Publisher: CUP
 ISBN: 9781108659611
 Price: 3,078 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: introduction/orientation
 Week 2: Meeting new friends
 Week 3: People and places
 Week 4: Clothing and possessions
 Week 5: Routines and daily life
 Week 6: Going online
 Week 7: Describing talents and abilities
 Week 8: Presentation 1
 Week 9: Meals and things we like
 Week 10: Things in my neighborhood
 Week 11: Describe what people are doing
 Week 12: past experiences
 Week 13: Vacations and getting away
 Week 14: Time to celebrate
 Week 15: Presentation 2 and exam outline

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework - 20%
 Presentation - 2 X 15%
 Final exam - 20%
 Participation - 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

None

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デール・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

PATHWAYS 2A

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

at present nothing from the library

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the class and class methodology
 Week 2: Begin chapter 1 in textbook
 Week 3: Continue with Chapter 1
 Week 4: Finish Chapter 1
 Week 5: Prepare first speech
 Week 6: Presentation of students' speeches
 Week 7: Begin Chapter 2 in Textbook
 Week 8: Continue with Chapter 2
 Week 9: Finish Chapter 2
 Week 10: Prepare second Speech
 Week 11: Presentation of students' speeches
 Week 12: Begin Chapter 3 in Textbook
 Week 13: Continue with Chapter 3
 Week 14: Finish Chapter 3
 Week 15: Conclude the class

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be based 50% on participation, 30% on speeches and 20% on a final exam.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be given assignments in the textbook and they will be expected to complete the assignments before the next class. Students will be given speech topics in week 4 and week 9.

履修上の注意 /Remarks

Attendance is mandatory because the majority of the work will be done in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will have an opportunity to improve your writing and speaking skills in English as well as to have the potential to have a good time.

キーワード /Keywords

textbook, speech, presentation, attendance, writing, speaking

Communicative English III (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Pathways 2A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56257-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 7回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 8回 Music Presentations
- 9回 Music Expansion
- 10回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 11回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 12回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 13回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 14回 Human Brain Presentation Preparation
- 15回 Human Brain Presentations and Final Exam Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 25%, Homework 10%, Presentations 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Four Corners Second Edition Level 1 Jack Richards 他著 ケンブリッジ大学出版 ￥2850

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 New friends
- 3回 Unit2 People and places
- 4回 Unit3 What's that?
- 5回 Unit4 Daily life
- 6回 Unit5 Free time
- 7回 Unit6 Work and play
- 8回 Unit7 Food
- 9回 Unit8 In the neighborhood
- 10回 Unit9 What are you doing?
- 11回 Unit10 Past experience
- 12回 Unit11 Getting away
- 13回 Unit12 Time to celebrate
- 14回 まとめ1
- 15回 まとめ2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(10%)と面接試験(20%)と筆記試験(70%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：前回の復習
事後学習：該当回の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

None. The instructor will distribute all materials in every class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Orientation
- 2 Asking for personal information.
- 3 Giving directions
- 4 Taking messages
- 5 Ordering in restaurants
- 6 Making recommendations
- 7 Asking about preferences
- 8 Offering alternatives
- 9 Talking about schedules
- 10 Complaining about problems
- 11 Solving problems
- 12 Travel itineraries
- 13 Changing reservations
- 14 Reacting to schedule changes
- 15 Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み = 50% プレゼンテーション = 30% 学期末試験 = 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review all content after the class.

履修上の注意 /Remarks

Pair work speaking and group presentations.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy communicating in English. Good luck!

キーワード /Keywords

トラベル英会話; プレゼンテーション能力

Communicative English III (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clear learning outcomes and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. The course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 1 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：New Friends
- 第3回：People & Places
- 第4回：Everyday Items
- 第5回：Presentation 1
- 第6回：Daily Life
- 第7回：Free Time
- 第8回：Work & Play
- 第9回：Presentation 2
- 第10回：Food & Drink
- 第11回：Neighborhoods
- 第12回：Activities
- 第13回：Presentation 3
- 第14回：Past Experiences
- 第15回：Getting Away

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation, homework assignments and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

Check the Moodle site for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday communication skills

Communicative English III (律政群 1 -C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Active learning式の英語プレゼンクラスです。英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力とピアレビュー能力、更に作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Theme 1 -Introductions (Solo work)
- 第3回 Theme 1 -Building Skills (Group work)
- 第4回 Theme 1 -Essay Composition (Group work)
- 第5回 Presentations and Peer Assessment
- 第6回 Upgraded Presentations and Peer Assessment
- 第7回 Theme 2 -Introduction
- 第8回 Theme 2 -Building Skills (Group work)
- 第9回 Theme 2 -Essay Composition (Group work)
- 第10回 Presentations and Peer Assessment
- 第11回 Upgraded Presentations and Peer Assessment
- 第12回 About “Active Learning” (Solo work)
- 第13回 About “Active Learning” (Group work)
- 第14回 Presentations and Peer Assessment
- 第15回 Discussion and test preparations

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Active Learning式で学ぶプレゼン作りとプレゼン発表の授業ため、授業外（教室外）でのGroup work又は一人での下準備がほぼ毎回必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しいクラスです。自分の語りたいことを英語でもっと語れるようになります。Group workを行いながら、お互いにアイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになります。勿論、文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

English Presentations, Active Learning, Group Work, Peer Assessment, Solo Assessment

Communicative English III (律政群 1 -D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Four Corners 1 by J.C Richards & D. Bohlke

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1
Week 3 Unit 2
Week 4 Unit 3
Week 5 Unit 4
Week 6 Unit 5
Week 7 Unit 6
Week 8 Review of Units 1-6
Week 9 Unit 7
Week 10 Unit 8
Week 11 Unit 9
Week 12 Unit 10
Week 13 Unit 11
Week 14 Unit 12
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 -E) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。This book teaches the four skills of language learning. Each unit has a different topic that covers a variety of interests. We will focus on speaking, vocabulary, and listening most weeks with the reading section given as homework. At the end of each unit there is a helpful speaking survey/task to conclude.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2B third edition, by Ken Wilson (published by Oxford)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A Japanese-English dictionary will be helpful

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, schedule, course requirements for the students, guidance for attendance, being late, absent, and end-of-term exam. Students will do a short self-introduction in pairs.
Week 2: Unit 7 - Things to buy and stores. 'There are too many stores.' Homework set.
Week 3: Check homework. Try the shopping game and complete the review on pages 39-43 at the back of the book.
Week 4: Unit 8- Appearance and personality. 'I like people who are smart' Homework set.
Week 5: Check homework. Try the fun task (p55), and complete the review at the back of the book (p44-48)
Week 6: Unit 9- Accidents and injuries. 'What were you doing?' Homework set.
Week 7: Check homework, interview task (p61). Review at the back of the book (p49-53)
Week 8: Review of units 7-9. (p62-63) Extra speaking tasks given. Also, pages 54-57
Week 9: Unit 10- extreme nature events. 'It must be an earthquake!' Homework set.
Week 10: Check homework. Quiz to complete. Review at the back of the book (p58-62)
Week 11: Unit 11 - School activities. 'I used to sing'. Homework set.
Week 12: Check homework. Complete the speaking activity p75. Review at the back of the book (p63-67)
Week 13: Unit 12- Places to live. 'If you live downtown...'. Homework set.
Week 14: Check homework. Location game and review at the back of the book. (p68-72)
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework: 50%, Final Exam: 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, reading the contents of the textbook before class will help with understanding and what you are being asked to do.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Education is the key to a brighter future.

Communicative English IV (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor デール・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

PATHWAYS 2B

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

at present nothing from the library

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction to the class and class methodology
- Week 2: Begin chapter 6 in textbook
- Week 3: Continue with Chapter 6
- Week 4: Finish Chapter 6
- Week 5: Prepare first speech
- Week 6: Presentation of students' speeches
- Week 7: Begin Chapter 7 in Textbook
- Week 8: Continue with Chapter 7
- Week 9: Finish Chapter 7
- Week 10: Prepare second Speech
- Week 11: Presentation of students' speeches
- Week 12: Begin Chapter 8 in Textbook
- Week 13: Continue with Chapter 8
- Week 14: Finish Chapter 8
- Week 15: Conclude the class

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be based 50% on participation, 30% on speeches and 20% on a final exam.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be given assignments in the textbook and they will be expected to complete the assignments before the next class. Students will be given speech topics in week 4 and week 9.

履修上の注意 /Remarks

Attendance is mandatory because the majority of the work will be done in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will have an opportunity to improve your writing and speaking skills in English as well as to have the potential to have a good time.

キーワード /Keywords

textbook, speech, presentation, attendance, writing, speaking

Communicative English IV (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Pathways 2B: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56258-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Food Truck Marketing Plan
- 5回 Food Truck Presentations
- 6回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 7回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 8回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 9回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 10回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 11回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 12回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 13回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 14回 Innovative Product Development
- 15回 Innovative Product Presentations and Test Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 25%, Homework 10%, Presentations 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.
 この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Title: Four Corners 2
 Publisher: CUP
 ISBN: 9781108560214
 Price: 3,078 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction/orientation
- Week 2: Telling stories
- Week 3: Giving and discussing tips
- Week 4: Describing how food is prepared
- Week 5: Discussing how to react in situations
- Week 6: Comparing and contrasting cities
- Week 7: Talking about character traits
- Week 8: Presentation 1
- Week 9: Describing inventions
- Week 10: Describing past events
- Week 11: Speculating about everyday situations
- Week 12: Reporting what others say
- Week 13: Talking about getting things done
- Week 14: Discussing environmental trends
- Week 15: Presentation 2 and exam outline.

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework - 20%
 Presentation - 2 X 15%
 Final exam - 20%
 Participation - 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

None

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

WorldEnglish 2B Cengage ￥2872

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション & 基礎力確認テスト
- 第2回 Unit 8 Nature
- 第3回 Unit 8 Nature
- 第4回 Unit 8 Nature
- 第5回 Conversation test
- 第6回 Unit 9 Life in the Past
- 第7回 Unit 9 Life in the Past
- 第8回 Unit 9 Life in the Past
- 第9回 Conversation test
- 第10回 Unit 10 Travel
- 第11回 Unit 10 Travel
- 第12回 Unit 10 Travel
- 第13回 Conversation test
- 第14回 Unit 11 Careers
- 第15回 Unit 11 Careers

成績評価の方法 /Assessment Method

Vocabulary test 20% + Writing test 40% + Conversation test 40%

※上記の3つのテストそれぞれが50%以上点数が取れていることが単位取得の最低条件になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業で翌週の小テストの箇所を告知するので、必ず復習しておくこと。また、予習に関しては、指定された学習箇所の意味を事前に調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎日の自己学習は、使用テキストの会話や英語表現を覚えることに重点を置いてください。繰り返し音読して覚え、覚えた表現を忘れないために、意識的に復習して記憶を定着させるように心がけてください。

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clear learning outcomes and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. The course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Interests
- 第3回：Descriptions
- 第4回：Weather
- 第5回：Presentation 1
- 第6回：Home Life
- 第7回：Health
- 第8回：Entertainment
- 第9回：Presentation 2
- 第10回：Shopping
- 第11回：Having Fun
- 第12回：Personalities
- 第13回：Presentation 3
- 第14回：Food & Drink
- 第15回：Personal Goals

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation, homework assignments and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by the teacher

履修上の注意 /Remarks

Check the Moodle site for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday communication skills

Communicative English IV (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor クリステイン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2 by J.C Richards & D. Bohlke ISBN 9781108560214

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1
Week 3 Unit 2
Week 4 Unit 3
Week 5 Unit 4
Week 6 Unit 5
Week 7 Unit 6
Week 8 Review of Units 1-6
Week 9 Unit 7
Week 10 Unit 8
Week 11 Unit 9
Week 12 Unit 10
Week 13 Unit 11
Week 14 Unit 12
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 -C) 【昼】

担当者名 /Instructor シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

This course is a speaking and listening course. Students will actively communicate with other students in the classroom. Students will work in pairs and groups. Students will give min-presentations weekly.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3rd Ed. 2B by K. Wilson & T. Healy
 ISBN: 9780194602785
 Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction to course
 Unit 1 Nice to meet you!
 Week 2 Unit 2 What do you do?
 Week 3 Unit 3 Do you like spicy food?
 Week 4 Unit 4 How often do you do yoga?
 Week 5 Unit 5 What are you watching?
 Week 6 Conversation test I
 Week 7 Unit 6 Where were you yesterday?
 Week 8 Unit 7 Which one is cheaper?
 Week 9 Unit 8 What's she like?
 Week 10 Unit 9 What can you do there?
 Week 11 Unit 10 Is there a bank near here?
 Week 12 Conversation test II
 Week 13 Unit 11 Did you have a good time?
 Week 14 Unit 12 I'm going to go by car.
 Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Listening Quizzes 20%
 Conversation tests 20%
 Mini-presentations 15%
 Homework 20%
 Final Exam 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should review material before coming to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 -D) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 2B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN: 978-1-33-756258-4 / 2,970 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction: Meeting People
Week 2: Unit 6: Let's Eat! – Food Culture
Week 3: Speaking Skills: Interrupting and Returning to a Topic
Week 4: Listening and Video Activities
Week 5: Group Discussion
Week 6: Presentation Preparation
Week 7: Presentation
Week 8: Unit 7: Our Active – Natural Disasters
Week 9: Speaking Skills: Using Transitions
Week 10: Listening and Video Activities
Week 11: Group Discussion
Week 12: Presentation Preparation
Week 13: Presentation
Week 14: Unit 8: Wonders from the Past – Ancient Cultures
Week 15: Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking and Quizzes: 60 percent / Final Examination 40 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくださいか【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円満園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor ホウ ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
 (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜淑 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらおうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社（2017年3月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか【願望・勧誘形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのが復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいからですか】【買い物】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해오체】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해오체】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오체」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해오체」のドリル、固有数字2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ペアの質問と応答練習】【【못~, ~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 会話テスト(韓国語でグループ発表)、民族遊び
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...40% 会話テスト...20% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。期末試験前に会話テストがあるので、履修者は全員受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM101F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅰ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻 / あいさつ(2) / 時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う / アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物 / メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie / 命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語 / 建物など 文法：名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持っている? 持っていない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物 / 値段 文法：名詞と冠詞の3格 / 複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

ドイツ語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
ただし、毎時間必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。
授業の中でもドイツ語圏の社会や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済管人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM111F		◎			
科目名	ドイツ語II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提に行われます。受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。ドイツ語IIの時間でも、必要に応じてドイツ語圏の生活や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM102F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM112F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN101F		◎			
科目名	フランス語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)

遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

フランス語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN111F		◎			
科目名	フランス語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつけて聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）

教科書は1回目の講義から用意しておくこと。

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済菅人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN102F		◎			
科目名	フランス語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、フランス文化に触れつつ、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音展・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度も鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ヴァジィ 一初級フランス語 会話・文法そして文化― 田辺保子 他著、駿河台出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本のアニメをフランス語で見てみる (1)
〈文法〉フランス語の子音と母音
- 2回 日本のアニメをフランス語で見てみる (2)
〈文法〉フランス語の読み方、数字 1～10
- 3回 フランスという国 (1)
〈文法〉名詞の性と数
- 4回 フランスという国 (2)
〈文法〉主語人称代名詞、動詞 être、否定形
- 5回 世界の中のフランス語 (1)
〈文法〉-er 動詞、不定冠詞と定冠詞
- 6回 世界の中のフランス語 (2)
〈文法〉形容詞 (1)
- 7回 日本の中のフランス語、フランスの中の日本語 (1)
〈文法〉動詞 avoir、疑問文
- 8回 日本の中のフランス語、フランスの中の日本語 (2)
〈文法〉人称代名詞の強勢形、疑問形容詞、数字 11～20
- 9回 ジャパン・エキスポ (1)
〈文法〉所有形容詞
- 10回 ジャパン・エキスポ (2)
〈文法〉不規則動詞 aller, venir, vouloir、国名につく前置詞
- 11回 フランスの地方の魅力 (1)
〈文法〉部分冠詞、近接未来と近接過去、指示形容詞
- 12回 フランスの地方の魅力 (2)
〈文法〉疑問代名詞
- 13回 フランスの朝ごはん (1)
〈文法〉疑問副詞、前置詞と定冠詞の縮約
- 14回 フランスの朝ごはん (2)
〈文法〉命令形、-ir 動詞
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題（50％）、学期末試験の結果（50％）を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN12F		◎			
科目名	フランス語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期と同じくフランス文化に触れつつ、基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ヴァジー初級フランス語 会話・文法そして文化ー 田辺保子 他著、駿河台出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランスのヴァカンス(1)
〈文法〉形容詞(2)
- 2回 フランスのヴァカンス(2)
〈文法〉数量表現、不規則動詞 savoir, voir, mettre
- 3回 フランスの世界遺産(1)
〈文法〉目的補語人称代名詞
- 4回 フランスの世界遺産(2)
〈文法〉非人称構文、数字 21~69
- 5回 フランスのホームパーティー(1)
〈文法〉代名動詞(I)
- 6回 フランスのホームパーティー(2)
〈文法〉代名動詞(II)
- 7回 フランスのスポーツ(1)
〈文法〉単純未来
- 8回 フランスのスポーツ(2)
〈文法〉形容詞・副詞の比較級と最上級
- 9回 フランス人の余暇(映画・音楽)(1)
〈文法〉複合過去(I)
- 10回 フランス人の余暇(映画・音楽)(2)
〈文法〉複合過去(II)、中性代名詞 en
- 11回 フランスの美術館(1)
〈文法〉半過去
- 12回 フランスの美術館(2)
〈文法〉大過去、中性代名詞 y と le
- 13回 フランスの教育制度
〈文法〉関係代名詞、強調構文
- 14回 フランスの大学生活
〈文法〉条件法現在と条件法過去
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

フランス語Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN101F		◎			
科目名	スペイン語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用（3つのタイプ）：直説法現在
- 5回 一般動詞の活用（1）と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用（2）と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用（3）と基本文例、目的語と前置詞
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞（1）
- 10回 ser動詞とestar動詞（2）およびhayについて
- 11回 疑問詞を使った疑問文（1）
- 12回 疑問詞を使った疑問文（2）
- 13回 不規則動詞の活用、指示詞
- 14回 短文を読む（プリント）
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

外国語の学習には辞書が必須です。毎回の授業前には単語の意味を調べておきましょう。また、テキストの各課には「練習問題」がありますが、回答を正しく表記できるか問題文（スペイン語）を含めて、自分で書いてください。強制ではありませんが、毎回提出すれば、教員が「赤」を入れて返却します。

履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

スペイン語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN111F		◎			
科目名	スペイン語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制です。一般動詞（規則動詞）に加えて、重要な不規則動詞の活用とその基本的文例を幅広く学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版）
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞の活用（1）
- 3回 指示代名詞と基本文例
- 4回 指示形容詞と基本文例
- 5回 不規則動詞の活用（2）
- 6回 所有形容詞と文例、人称代名詞目的格
- 7回 不規則動詞の活用（3）直接目的格
- 8回 不規則動詞の活用（4）間接目的格
- 9回 前置詞と基本文例
- 10回 前置詞と人称代名詞
- 11回 gustar型の動詞（1）
- 12回 gustar型の動詞（2）
- 13回 再帰動詞と基本表現
- 14回 無人称表現、曜日・日付の表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず授業の前に、辞書で単語の意味を調べてください。毎回授業には辞書を持参しましょう。また、教科書の各課には練習問題があります。授業で終わった段階で、練習問題文（スペイン語）を含めて、回答を正確に表記できるか確かめましょう。できれば、毎回提出すれば、「赤」を入れて返却します。

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペインもイスマノアメリカも「情熱の国です！」。熱意でスペイン語に挑戦！

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN102F		◎			
科目名	スペイン語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすくくから出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といいますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は何ですか？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> （スペイン国営放送 TVE）

<http://los40.com/> （スペイン語圏に広がるFMラジオ放送のサイト。音楽が中心。）

<http://www.cadena100.es/> （スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN112F		◎			
科目名	スペイン語Ⅳ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、会話表現の文法事項を学びながら、モデル会話を覚え、語彙を増やして行きましょう。会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。口に出して発音をすることでフレーズを覚えましょう。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：<http://www.rtve.es/>

<http://los40.com/>

<http://www.cadena100.es/>

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「読み」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。さらに、学期最後の1カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル - 改訂版 - 』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学に「適応」して、自分らしい大学生生活を送りましょう。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 伝言する【メモ】
- 5回 誘う【携帯メール】
- 6回 誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する【PCメール】
- 8回 依頼される【PCメール】
- 9回 謝る【PCメール】
- 10回 お礼を言う【PCメール】
- 11回 報告する【PCメール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 アドバイスを求める【PCメール】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をメールで送ること。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行い大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】 【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コソのワーク】 【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・40% 発表・課題・・・30% 自己評価...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の興味関心の方向を知っておくと、スピーチに取り組みやすいと思います。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、学校や社会で必要な論理的思考力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語口ジカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)アクティブラーニングをやってみよう	発想力(1)リストアップ
3回	スタディスキル(2)テーマからトピックを取り出そう	発想力(2)マッピング
4回	スタディスキル(3)インターネットで情報を探そう	読解力(1)イラストを見て考える
5回	スタディスキル(4)本を手にして読んでみよう	読解力(2)文章を読んで図や表にしてみる
6回	スタディスキル(5)図解で考えよう	読解力(3)表・グラフの内容を読み取る
7回	スタディスキル(6)表・グラフを使って考えよう	読解力(4)表・グラフ以外の内容を読み取る
8回	スタディスキル(7)議論の方法を知ろう	読解力(5)マッピングしながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの文章の特徴を知ろう	読解力(6)登場人物になったつもりで読む
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成してみよう	読解力(7)理由を考えながら読む
11回	スタディスキル(10)レポートの基本を知ろう	読解力(8)意味を考えながら読む
12回	スタディスキル(11)発表の資料を作ろう	表現力(1)理由を考えて書いてみる
13回	スタディスキル(12)発表をやってみよう	表現力(2)論理的に考えて書いてみる
14回	スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン発表	
15回	総括 1年間(半期)の学びをふりかえろう	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考力 読解力 発想力 表現力 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 吉嶺 加奈子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
課題評価...30%
自己評価...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
○細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメイトンレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする①
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする②
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 50%
日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。配布された読み物を読み、分からない語句については事前に調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。
「日本事情(社会)A」では、日本の社会を形作っている経済、政治、社会をめぐるさまざまな出来事を読み解き、理解する。また、そこから生まれる疑問や批判、さらには自分を取り巻く社会の未来について前向きに意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

教科書 /Textbooks

『大人のための社会科—未来を語るために』(井出英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作、有斐閣)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『財政から読み解く日本社会—君たちの未来のために』(井出英策、岩波書店)
『「決め方」の経済学—みんなの意見のまとめ方を科学する』(坂井豊貴、ダイヤモンド社)
『安心社会から信頼社会へ—日本型システムの行方』(山岸俊男、中央公論社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 私たちの生きる社会
- 3回 「GDP (社会の良さとはなんだろうか)」
- 4回 「勤労 (生きづらさを加速させる自己責任の社会)」
- 5回 「時代 (時代を分けることと捉えること)」
- 6回 「多数決 (私たちのことを私たちで決める)」
- 7回 「運動 (異議申し立てと正統性)」
- 8回 「私 (自分の声が社会に届かない)」
- 9回 「公正 (等しく扱われること)」
- 10回 「信頼 (社会を支えるベースライン)」
- 11回 「二重 (税を「取られるもの」から「みんなのたくわえ」に変える)」
- 12回 「歴史認識 (過去をひらき未来につなぐ)」
- 13回 「公 (「生活の場」「生産の場」「保障の場」を作りがえる)」
- 14回 「希望 (「まだ一ない」ものの力)」
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% 課題や提出物、発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。テキストを読み、わからない内容や語句については事前に調べておくようにしてください。また、日頃からニュースや新聞などに目を通しておいください。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

内容言語統合学習 日本社会 対話

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

現代法曹論I【昼】

担当者名 /Instructor 川上 修 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW200M		○		○	◎
科目名	現代法曹論 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

身近に起こりうる様々な法律問題の検討を通じて、法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）及び法律に携わる様々な職業（司法書士など）の役割と現代的意義を理解することを目的とします。
講義の他に、法律実務家による講演を予定しています。法律実務家の生の声を聞くことで、各職業の内容だけでなく、やりがいや苦労についても知ることができます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法曹三者についての基礎知識
- 2回 「裁判官の業務と現代的意義(1)」 「司法権」
- 3回 「裁判官の業務と現代的意義(2)」 「非訟、訴訟」
- 4回 「検察官の業務と現代的意義(1)」 「公益の代表者」 「捜査」 「起訴独占主義」 「起訴便宜主義」 「公判」
- 5回 「弁護士の業務と現代的意義(1)」 「弁護士自治」 「代理業務の独占」
- 6回 刑事裁判手続きにおける法曹三者の役割(1) 「捜査」 「逮捕」 「勾留」 「起訴」
- 7回 刑事裁判手続きにおける法曹三者の役割(2) 「公判」 「無罪推定」 「自白法則」 「補強法則」
- 8回 民事裁判手続きにおける法曹の役割(1) 「私的自治」 「処分権主義」 「弁論主義」
- 9回 民事裁判手続きにおける法曹の役割(2) 「訴訟」 「少額訴訟」 「民事調停」 「支払督促」
- 10回 家事手続きにおける法曹の役割 「調停」 「審判」
- 11回 ビジネス法務における法曹の役割 「会社法」 「株式」 「M&A」
- 12回 検察官・検察事務官講師による講演
- 13回 弁護士講師による講演
- 14回 周辺他種業講師による講演（司法書士を予定）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講演後のレポート・・・50%
定期試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テーマとなっている職業の特徴を事前に調べておくこと。
それぞれの職業の立場の違いを意識して、各種法律を学ぶこと。

履修上の注意 /Remarks

現代法曹論I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合によって、スケジュールが変更になることがあるので、注意してください。
また、遅刻・早退・私語は、講師に失礼となるので厳禁です。
第一線で活躍する法律実務家の生の声を聞くことができる貴重な機会になると思います。講演終了後に質疑応答の時間を設けますので、積極的に質問や意見をぶつけてみてください。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Ⅰの目標は、これから法学部で学ぶさまざまな法制度の現状と課題を学ぶために必要かつ有益な能力を身につけることです。

具体的には、

- (1) 日常・非日常を問わず、社会で生じている実際の事件や紛争、そして、それらを解決するための法システムに存在する問題点を発見する方法
- (2) 問題点を検討するにあたって資料・文献を検索・収集する方法
(図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む)
- (3) 集めた資料を精読・分析する方法
- (4) ゼミ内で検討結果としての自分の考えを発表する方法
- (5) 論点についてお互いに討論する方法

などを学びます。

教科書 /Textbooks

弥永真生著『法律学習マニュアル』第3版（有斐閣・2009年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにしますが、とりあえず例えば以下のもの。
池田 眞朗 ほか著『判例学習のAtoZ』（有斐閣・2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針を確認し、役割分担を決める。
授業の受け方・講義ノートの取り方・レポート作成上の注意を学ぶ。
- 第2回 パソコンを利用して情報を検索したり、図書館等を利用して実際の情報や資料を入手する方法を学ぶ。
- 第3回 各自、興味のある法律問題・事件について調べる。
そのうえで候補テーマに関して、文献資料や判例等がどの程度存在しているのか調査する。
- 第4回 各自、問題・テーマを決定して、それについての報告を行う準備をする。
- 第5回 文献の要約の仕方を学ぶ。
- 第6回 報告書(レジュメ)の作り方、口頭発表の仕方・討論の仕方について学習する。
報告者の順番を決める。
- 第7回 レポートの作成方法を学ぶ。
- 第8回～第15回 報告順番に従って、毎回、担当者が報告を行い、参加者全員で議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%・ディスカッションへの参加度50%
無断欠席、ならびに、ゼミを3分の1以上欠席した場合には、ゼミ放棄とみなします。

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。具体的には以下のとおりです。

- 1, 報告者にはレジユメの作成と参加者への配布を行うこと
- 2, 原則として報告一週間前までにレジユメを配布できるように事前の準備作業を行うこと
- 3, 報告者以外の受講者は、事前に報告予定者のレジユメを読み込みみんでおき、質問事項を準備すること
- 4, 事後的に論点についての議論を振り返ったうえで、自説をまとめておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1, ゼミへの積極的な参加を希望します。
- 2, 報告者は、翌週の講義回においては報告担当者のために「司会者」の役割を果たすことになります。
- 3, 2名以上のグループ学習・討論の機会が設けられることがあります。

キーワード /Keywords

文献検索、レジユメの作成、ディスカッション、文献引用法

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

法学学習は、それ自体が多くの知識と多彩なスキルを前提としている。この演習は、法学の学び方を学ぶためのものであり、法学学習に必要な基礎知識とスキルの習得を目的とする。

本演習は、次の手順で行われる。

- ①報告者を決めて、全員で基礎的な法学文献を読む、
- ②リーガルリサーチの仕方や文献引用の方法などを学ぶ、
- ③その実践として、履修者は一定のテーマについて<情報収集→分析→レジュメの作成→報告→討論>を行う、
- ④それを受けてレポートを作成する。

教科書 /Textbooks

早川吉尚『法学入門』（有斐閣、2016年）、斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）、木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』（講談社、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井田良ほか著『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣、2016年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法学の基礎知識
- 第3～6回 基礎的な法学文献の講読と検討
- 第7回 リーガルリサーチ① -法令・判例・文献の探し方
- 第8回 リーガルリサーチ② -文献の種類と文献引用の仕方
- 第9～14回 履修者の報告と討論
- 第15回 まとめ

※受講人数等によって、構成の変更がありうる

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメおよび報告（40%）、日常の授業への取り組み（40%）、レポート（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された授業外学習を行うこと。
情報収集、レジュメ作成、報告、討論への参加、レポート提出が求められる。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「法学基礎演習Ⅱ」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

法学の基本文献を輪読しながら、法律学の基本概念、基本的な考え方を知るとともに、主要な法律の基本的な仕組みや、制度、判例について理解を深めることを目的としています。

教科書 /Textbooks

佐藤幸治＝鈴木茂嗣＝田中成明＝前田達明著 法律学入門第3版補訂版 有斐閣 2008年 2,000円
その他必要に応じてレジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定
- 3回 財産と家族(1)【私的自治】
- 4回 財産と家族(2)【人】
- 5回 財産と家族(3)【所有権】
- 6回 財産と家族(4)【私的自治】
- 7回 財産と家族(5)【過失責任】
- 8回 財産と家族(6)【夫婦・親子】
- 9回 財産と家族(7)【相続】
- 10回 犯罪と刑罰(1)【犯罪と刑罰】
- 11回 犯罪と刑罰(2)【刑事手続】
- 12回 個人・社会・権力(1)【個人・国家・主権】
- 13回 個人・社会・権力(2)【個人・集団・共生】
- 14回 法の仕組みと運用(1)【法の特質・機能・構造・法源】
- 15回 法の仕組みと運用(2)【裁判・法の適用・法の解釈】・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(4,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、教科書や参考文献を参照しながら、内容を整理して参加してください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、主要項目ごとにノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
「民法入門」を並行して履修していると一層理解が深まると思います。
法学基礎演習Ⅱもあわせて履修するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

まず、法令、判例、文献など法律情報の調べ方を習得します。
次に、大学におけるレポートとはどのように構成すればよいか、その書き方を学習します。

本授業は、レポートの書き方に重点を置いたものです。

受講生との話し合いにより、テーマを選定します。
そのテーマに関し報告者がレポートを作成します。
このレポートを基にグループで議論しながら、受講生が授業中にこのレポートを添削します。
他の受講生の添削を参考に、改めてレポートを作成し、担当者に、後日、提出します。

自己でレポートを作成すること、他の受講生の作成したレポートを添削すること、添削に併せてグループで議論することにより、レポート作成方法、法律的思考方法を習得します。

テーマは、法律一般に関する時事的なもの、その他受講生の希望により決定します。

グループ学習を基本とします。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

はじめの授業で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業の進め方について、報告者決定
- 2回 判例、文献、法令の調べ方について
- 3回 以下、順次、個別テーマについてレポート提出
- 4回～14回 順次、個別テーマについてレポート提出
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告テーマについて、報告者が図書館の資料、データベースによる判例の検索、インターネットの活用等により、資料を収集する。
この資料を基に自分の見解をまとめ、レポートを作成する。(必要な学習時間の目安は、90分。)

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むこと。

法学基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的な発言、参加を希望します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習は、これから法学を学ぶ者にとって必要な知識と技能の習得を目的とします。演習前半では、法学の基礎知識と法令・判例・文献の調べ方をはじめとするリーガル・リサーチの方法を学習します。演習後半では、死刑制度や裁判員制度をめぐるディベート、および憲法の重要判例を題材にしたグループ報告を行ってまいります。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
 - 第2～8回 法学の基礎知識またはリーガル・リサーチ
 - 第9～14回 ディベートまたはグループ報告
 - 第15回 まとめ
- ※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、我が国の法体系、基本的な法律用語、判例や法律文献の探し方、文献の引用方法、討論の練習など、これから法学を学習するために必要な基本的な知識・技能を習得することに加え、民法の有名な判例を受講者全員で読むことを通して、法律文献を読む力を養成することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 我が国の法体系
- 第3回 基本的な法律用語の確認
- 第4回 判例・法律文献の探し方 (図書館ツアー)
- 第5回 文献の引用方法
- 第6回 討論の練習(1)【議題の設定】
- 第7回 討論の練習(2)【準備(前半)】
- 第8回 討論の練習(3)【準備(後半)】
- 第9回 討論の練習(4)【討論とまとめ】
- 第10回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(1)【事実の概要(前半)】
- 第11回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(2)【事実の概要(後半)】
- 第12回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(3)【判決理由(前半)】
- 第13回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(4)【判決理由(後半)】
- 第14回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(5)【補足説明】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習、復習その他の授業外学習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

導入科目(法学総論・日本国憲法原論・民法入門)をあわせて受講することが望ましい。
授業には必ず最新の六法(ポケット六法等の小型のもので良い)を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学を学習する上で必要な基本的な知識・技能を確実に身につけられるように、積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

法学 民法

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニングを行います。報告やディベート等を通じて、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることや、法学に必要な情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 法を学ぶ意義や法の役割を学ぶ。
- 4回～9回 ディベートをやってみよう
- 10回～14回 各担当者による報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

法学総論や民法入門と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。
 といっても、この科目は「演習」科目であるから、教員からの指示に従うという「受け身」の姿勢ではなく、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につけることが必要とされる。間違いを恐れず、積極的に発言・参加することを求める。
 具体的には、前半で、法学特有の言葉や言い回し、法の構造などについてレクチャーすると共に、大学での勉強に欠かせない図書館の使い方や文献検索の仕方などについて身につける。後半では、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的な適用・解釈の方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じて適切なものを指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 法律基礎講座①～法律の構造
- 第3回 法律基礎講座②～法律用語～
- 第4回 法律基礎講座③～法律のヒエラルキー～
- 第5回 判例・文献の調べ方①～「判例」とは何か～図書館に足繁く通おう！～
- 第6回 判例・文献の調べ方②～図書館を活用しよう～
- 第7回 判例・文献の調べ方③～法令・文献等の引用表記～
- 第8回 判決文を読み込む①～判決書の構造～
- 第9回 判決文を読み込む②～事案・当事者の主張の把握～
- 第10回 判決文を読み込む③～グループ報告～
- 第11回 判決文を読み込む④～裁判所の判断～
- 第12回 判決文を読み込む⑤～グループ報告～
- 第13回・第14回 各グループによる事案報告会
- 第15回 まとめ

* 具体的な実施スケジュール・方法などは、ゼミ生の人数・関心などを考慮し、開講後に決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の演習への貢献度に応じて総合的に判断する。以下の記述は、あくまでおおよその目安として考えてほしい。
 ゼミへの参加・受講態度・・・50% 課題等提出状況及び内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材について、あらかじめ目を通し、疑問点をまとめる。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことで知識の定着を図る。

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

単に出席しているだけでは何の能力も身に付きません。積極的に発言・参加してください。
何度が課題を出します。それまでの演習で学んだことをフルに活用してチャレンジしましょう。
無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうあれ、出席率が2/3に満たない場合は、単位認定しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習は、大学（法学部）で学ぶための基礎となる知識を身につけること、及び社会的問題に対する関心を高めることを目的とする。そのために、各回を前半と後半に分け、前半部では指定教科書の講読を中心として、法学的な基礎知識の習得を行う。後半部では、法学に関連する問題を扱ったドキュメンタリー等を視聴した上で議論を行い、社会的問題関心を涵養する。これらを通じて、以降の専門教育へのスムーズな導入を図るとともに、自ら学ぶ姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

吉田利宏『法学のお作法』（法律文化社、2015年）（1800円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

法学入門書各種

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明など）
- 第2回 グループディスカッション
- 第3回 法学とは何か（1）
- 第4回 法学とは何か（2）
- 第5～13回 前半：テキスト講読・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討
- 第14回 総合討論
- 第15回 まとめ

※参加者の人数等により内容は変更する可能性あり
 ※大学施設案内や図書館利用方法のガイダンス等も実施する予定

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の主体的参加状況：80%
 学期末レポート：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書講読に関しては、各回内容の予習・復習。
 取り上げる社会的課題について主体的に情報を収集して検討すること。

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「法学基礎演習Ⅱ」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代は、社会へ出て行くための「助走期間」に喩えられる。如何に助走したかによって、社会への飛び出し方が変わってくるはずである。本演習では、みなさんが「きちんと助走する」ことができるように手助けしていきたいと考えている。社会で生起するさまざまな問題への関心が高い学生の参加を希望する。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

学部を問わず、いわゆる演習（ゼミ）に求められる要素はいくつかありますが、とりわけ参加者の主体性・積極性という点においては（少なくとも他の講義に比べ）いささか強く求められると思います。誤解を恐れて言い換えれば、ゼミは参加者の「自由」の程度が高いということです。しかしながらその一方で、ゼミには「お作法」のようなものがあるのも事実です。例えば、「読む・調べる・まとめる・報告する・議論する・理解を深める」といった一連の流れは、残念ながら / 当然ながら「自由」ではなく、それなりの「読み方・調べ方・まとめ方・報告の仕方など」があります。このことを踏まえ、本ゼミは、参加者全員が、そうした最低限の「お作法」をゆっくりでも / じっくりと習得することを最大のねらいとします。とりわけ、①「まとめ」としてのレジユメの作成、およびそれを基にした②「報告」、③「議論」ができるようになることを暫定的なゴールとしておきたいと思います。なお、扱う内容（テーマ）は、広く社会問題です。法が関わらない社会問題はおそらく存在しないからです。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布する予定です。使用する場合は、参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミを進めていく中で適宜、参加者に提示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス (演習の目的、概要、進行方法などの説明)
- 第2～3回 「お作法」シミュレーション (1) 短い文章を素材にしてゼミの流れを掴む
- 第4～5回 「お作法」シミュレーション (2) 自分でテーマを見つけて分析してみる
- 第6～7回 「お作法」シミュレーション (3) テーマに関わる情報収集をしてみる
- 第8～9回 「お作法」シミュレーション (4) レジユメに基づいて報告してみる
- 第10回 振り返り、後半に向けた運営等の改善点の洗い出し
- 第11回～14回 担当ゼミ生による報告 / 全員による議論
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 報告の準備 (レジユメのできばえ) ……40%
- ② 報告の内容 (説明 / 質疑への応答) ……30%
- ③ 議論への貢献度 ……30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：
報告者は、前もってレジユメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。
- 【事後学習】：
ゼミ中に出た論点や問題点を整理して理解を深めてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたってください。

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 無断の欠席・遅刻は厳正に取り扱います（欠席・遅刻する際は、かならず担当者に連絡してください）。
- ・ 最低限やるべきことはやってください。やるべきことがわからない場合は遠慮なくその都度担当者に尋ねてください。
- ・ 上記にあるように、ゼミで取り扱うテーマは広く社会問題です。法概念や判例を直接取り扱うトレーニングを期待していると期待ハズレとなりますのでご注意ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 法解釈学のスキル習得へと駆け上がっていく前に、社会の中のアレコレを / キョロキョロしながら考えてみたい学生向けかなと思います。
- ・ 本ゼミの場合、「正解 / 不正解」の区別はさほど意味を持ちません。自分なりに一生懸命とりくみ、発話 / 傾聴することを重視します。
- ・ 積極性に自信のある学生の参加はもちろん歓迎しますが、（半歩でも）積極性を身に着けた方がいいカモ、と思っている（だけの）学生も大歓迎いたします。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習は法学を学ぶにあたり、基本的な文献を読解する能力を得るとともに、自身で表現するための練習を行います。まずは、テキストを精読しますが、あわせて、辞書を引く力、文献を調査する能力、レジュメを作成する能力、議論能力など、今後の大学での学習の基礎体力を身につけます。

教科書 /Textbooks

道垣内正人『自分で考えるちょっと違った法学入門 第3版』(有斐閣, 2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

戸田山和久『論文の教室』(NHK出版, 2002年)
※このほか、演習中に適宜紹介を行います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己紹介、ゼミのガイダンス
 - 第2回 文献調査について
 - 第3回 図書館ガイダンス(予定)
 - 第4回～9回 文献講読
 - 第10回 各参加者による報告・議論
 - 第11回 各参加者による報告・議論
 - 第12回 各参加者による報告・議論
 - 第13回 各参加者による報告・議論
 - 第14回 各参加者による報告・議論
 - 第15回 演習全体の総括討論
- 【参加者の状況を見て割合が変動することがあります】

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います。
1. 演習への参加状況(60%)
 2. 報告レジュメを基にしたペーパー(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は事前にレジュメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえで演習に臨んでください。
演習での解説や参加者による報告内容及び議論をメモやノートにまとめ、期末ペーパーに反映させてください。

履修上の注意 /Remarks

3回以上の正当な理由なき欠席を認めません。演習は、参加者たちによって作り上げていくものです。

法学基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学という空間において、アカデミック・スキルを一通り学ぶことは必須となる。
演習の前期では主として「読むこと」に重きを置く。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この演習（ゼミ）では、法学を学ぶうえで必須となる基礎的知識、思考、およびスキルなどを身につけることを最大の目的とします。具体的には、大学における学問（法学）に対する臨み方から始まり、法律（学）文献の調べ方、法学的な議論の仕方・方法（論）、パソコン（インターネット・データベース）を利用した（裁）判例などの検索（いわゆる「リーガル・リサーチ」）、判例の読み方（「法的三段論法」に基づく判決理由の論理構造の解析）の基礎を学びます。

なお、本演習は、3・4年次ゼミ（専門演習Ⅰ～Ⅳ）などにおいて、各自関心を持った法分野の研究をする際に、必須となるスキルを低学年次の段階で修得することを想定しています。

本演習では、上記各種の営みを通じて、「話す（ディスカッション）」、「（議論の相手方の話しをしっかりと理解しながら）聴く」、「自身の法的判断を（レポートや、文獻書評、および判例評釈等のかたちで）書く・表現する」、および「（法学文献や判決理由を精確に）読む」力を涵養します。しっかりとした法律学科での「学び」の基礎を本演習で固めてください。

教科書 /Textbooks

- ①松本 恒雄ほか（編）『日本法への招待 第3版』（有斐閣、2014年）；定価（2,900円＋税）
- ②いしかわまりこほか（指宿 信ほか監修）『リーガル・リサーチ 第4版』（日本評論社、2012年）；定価（1,700円＋税）
- ③最新版（年度）の小型六法
- ※上記「3点セット」を必ず購入・持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書については、演習の中で適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※以下の授業計画・内容等は、あくまで「めやす」です。受講人数等により変更される場合があります。
- 第1回 ガイダンス：自己紹介、グループ・報告順の決定、期末定期試験およびレポートについての説明。
- 第2回 議論の仕方を学び、実践する①：グループ討論（議論の素材は、教員が用意します。）
- 第3回 議論の仕方を学び、実践する②：グループ討論（紛争解決の種々のあり方を理解する。）
- 第4回 議論の仕方を学び、実践する③：グループ討論（身近な「もめごと＝紛争」の法的解決・まとめ）
- 第5回 リーガル・リサーチ①：図書館ツアー（5月GW連休明け頃を予定）
- 第6回 リーガル・リサーチ②：法学文献の調べ方、判例の検索方法（インターネット・データベースの活用）などを学ぶ。
- 第7回 リーガル・リサーチ③：より高度な法学文献・判例（評釈）等の検索方法を学ぶ。
- 第8回 「判例」とは何か？ 最高裁判決の読み方（「法的三段論法」に基づく判決理由の論理構造の解析）の基礎を学ぶ。
- 第9回 グループ報告（※さしあたり、3グループを想定）：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループA）。
- 第10回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループA）および教員による補論。
- 第11回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループB）。
- 第12回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループB）および教員による補論。
- 第13回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループC）。
- 第14回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループC）および教員による補論。
- 第15回 まとめ：ゲスト（当職の高校時代からの友人である弁護士）を招いての「特別ゼミ」（全学年合同）を実施予定。
- ※8月初旬にレポートを提出していただきます。内容は、「法（法学）」に関する【文獻書評】です。対象文献は、「法（法学）」を題材とするものであれば、学術論文、教科書、小説などジャンルは問いません（ただし、マンガおよび資格試験等問題集は不可とします。）。「読書感想文」ではなく、あくまで【書評】を執筆してください。

法学基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など.....50%
※レポート(文献書評)の内容.....30%
※期末定期試験の成績.....20%(※福本担当の法学基礎演習Iでは期末定期試験を実施するので必ず受験すること!)
【注意】(正当な理由のない)レポート未提出者や期末定期試験未受験者には、原則として単位を付与しません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】本演習では、研究報告の準備以外に、事前準備(予習)が多く課せられます。たとえば、次の週に報告するグループの扱う判決について、様々な視点から質問することができるように種々の文献等を読み、解らないところなどを調べてくることが要求されます。
【事後学習】グループで報告した判決につき、ゼミ生各個人でも復習を兼ねて、疑問点などを整理したミニ・レポートを作成していただく予定です。

履修上の注意 /Remarks

シラバスをご覧くださいお解かりの通り、「楽勝ゼミ」ではありません。ご注意ください。なお、事前連絡(無理な場合は事後遅滞なき連絡)のない「無断欠席」や「遅刻等」に対しては、退ゼミ処分も含めて厳しい態度で臨みます。「ほう(報告)・れん(連絡)・そう(相談)」がしっかりできるゼミ生になってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講ゼミ生には、受け身ではなく、能動的な学習姿勢を強く望みます。黙って座っているだけでは平常点は0点だと思っておいください。よって、「緊張感」を持ってゼミに臨んでくださいね。ですが、変な「緊張」はしなくて構いません。ゼミの雰囲気自体は至極アットホームです(これまでの経験上ね.....)。

キーワード /Keywords

法的思考の基礎を固める、法的三段論法、リーガルリサーチ、法学徒としての在り方

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。
 刑事法学以外にも、大学生活を送る際に必要となる法学以外の教養、一般常識等についても確認する。例えば、メールの書き方をはじめとする、ビジネスマナーに類することも学んで頂きます。
 また、図書館見学、資料収集の方法を学ぶ機会ももうける予定。刑務所見学等、施設見学を行う予定。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業形態等の決定、イントロダクション。
- 第2回 ゼミで扱うテーマの決定。
- 第3回～6回 大学生活を送る際に必要となるスキルについて（メールの書き方、ビジネスマナー等）。
- 第7回～10回 受講者の関心に応じて、具体的な社会的問題を素材として法を学ぶ。
- 第11回～14回 受講者の関心のあるテーマについて、グループごとに報告、ディスカッション。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として各回のテーマについて教科書等の該当箇所を確認すること。復習として講義中に配布したレジュメ等を確認し、わからない箇所をそのままにしないこと。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生活の4年間は、あっという間に過ぎていきます。この期間で、法学はもちろん、それ以外でも何でもいいので、何かこれに打ち込んだというのを見つけて卒業してください。いわゆるガクチカ（学生時代に頑張ったこと）の内容は、そのまま皆さんの卒業後の進路に影響します。学生時代を過ごした証を残したい！という気持ちを持った方の受講を希望します。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学の基礎を学び、法的思考力を養うことを目的とする。そのためには、まずは資料収集の方法を学び、様々な文献を読むことでその文献の論点を見出し、論点に対して自己の見解を述べられるようにする。また、法的思考力を養うために、刑事法関連のテーマを題材として、グループディスカッションを行う。議論のテーマに関しては、死刑制度、少年法の適用年齢の引き下げ、厳罰化、裁判員制度、被害者なき犯罪と非犯罪化等を予定しているが、受講生と相談しながら決めたいと思う。

教科書 /Textbooks

なし。
必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

末川博『法学入門(第6版補訂版)』有斐閣双書(2014年)。
松井茂記=松宮孝明=曾野裕夫『はじめての法律学(第4版)』有斐閣(2014年)。
○伊藤正己=加藤一郎共著『現代法学入門(第4版)』有斐閣双書(2005年)。
松元茂=河野哲也共著『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法(改訂第2版)』玉川大学出版(2015年)。
井下千子『思考を鍛えるレポート・論文作成法(第3版)』慶應義塾大学出版会(2019年)。
○川出敏裕=金光旭共著『刑事政策(第2版)』成文堂(2018年)。
○藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房(2011年)。
○守山正=安部哲夫共著『ヒギナーズ刑事政策(第3版)』成文堂(2017年)。
法務省法務総合研究所編『平成30年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社(2018年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 グループ報告におけるテーマの設定
- 第3回 資料収集の方法を学ぶ
- 第4回 レジュメ及びレポート作成の方法を学ぶ
- 第5回 討論の準備(1)
- 第6回 討論の準備(2)
- 第7回 グループによる報告(1) 死刑の是非
- 第8回 グループディスカッション(2) 死刑の是非
- 第9回 グループによる報告(1) 厳罰化の是非
- 第10回 グループディスカッション(2) 厳罰化の是非
- 第11回 グループによる報告(1) 少年法の適用年齢引き下げの是非
- 第12回 グループディスカッション(2) 少年法の適用年齢引き下げの是非
- 第13回 グループによる報告(1) 裁判員制度の是非
- 第14回 グループディスカッション(2) 裁判員制度の是非
- 第15回 まとめ

* 授業内容及び報告内容については、受講数によっては変更する可能性もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

3分の1以上欠席した場合は、単位認定はしない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は、通常の講義とは異なり、自主的に学ぶ場です。

仲間たちと大いに議論し、楽しく法学の基礎を学びましょう。

キーワード /Keywords

法学、刑事法

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM101M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学の学習に必要な調査、分析、報告を行うための基本的能力を養うことを目指します。まず日本の法制度の特徴について基本的な情報提供を行い、続けて法学におけるレポートの書き方と資料収集の方法を説明します。それを基に、主として日本の刑事司法に関する比較的身近なテーマ（裁判員制度、安楽死）を取り上げ、関連する判例を読んで要点を報告してもらいます。ここでは、判決文を「構造的に」読み解く訓練を行います。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 南野森編『ブリッジブック法学入門〔第2版〕』（信山社、2013年）
- 田高寛喜＝原田昌和＝秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』（有斐閣、2015年）
- 富永晃一＝丸橋昌太郎＝大江裕幸＝島村暁代『ケースで学ぶ 実践への法学入門』（中央経済社、2016年）
- 横田明美『カフェパウゼで法学を』（弘文堂、2018年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の進め方に関する説明など）、自己紹介
- 第2回 法令の基礎知識（法の種類と優劣関係、条文の構造と法律用語）
- 第3回 日本の法制度の概観（司法制度の全体像、裁判の種類、判決の種類）
- 第4回 レジュメ・レポートの書き方（文章の構成・章立て、文献の引用方法）
- 第5回 図書館の使い方
- 第6回 法律文献調査の方法と実践（法律学を勉強するための基本ツール、データベースの活用法）
- 第7回 判決文の読み方（判決文の基本的な構造）
- 第8回 「裁判員制度」についてのビデオ学習
- 第9回 「裁判員制度」に関する解説
- 第10回 「裁判員制度」の合憲性に関する判例の読解①【問題の所在と規範の定立：合憲性判断の基準】
- 第11回 「裁判員制度」の合憲性に関する判例の読解②【事案へのあてはめ】
- 第12回 「安楽死」に関する判例の読解①【判決文を構造的に読むための課題実施】
- 第13回 「安楽死」に関する判例の読解②【事実の概要】
- 第14回 「安楽死」に関する判例の読解③【判決理由】
- 第15回 総括

※受講者の人数と希望により、内容および進度を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（20%）、期末レポート（40%）、演習への参加態度ないし積極的貢献（40%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、Moodleを通じて資料を配布します。重要用語等を、参考書などで予め確認しておいて下さい。判決の読解に際しては、データベース等で判決文を予め印刷して、一読していただくことを推奨します。授業後は、レジュメと授業中にとったメモを読み返すようにして下さい。重要用語については、次回以降の授業で問われた際に口頭で説明できるようにしておいて下さい。

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

法学基礎演習IとIIは、継続して受講して下さい。
無断欠席は厳禁です。やむを得ずに欠席する場合は、予め連絡して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習科目ですから、参加者のみなさんによる主体的な取り組みが期待されます。見慣れない長文の判決を読むことに、最初は戸惑いを覚えることもあるかと思いますが、「まず読んでみる」ことに大きな意義があります。「習うより、慣れる」です。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Ⅱでは、①事件や紛争、法システムに含まれている法的問題を発見する方法、②問題を検討するために必要な資料文献等の検索・収集方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、③文献資料の分析方法など、法学基礎演習Ⅰにおいてすでに学修したことを前提に、裁判の役割と判例の読み方を学びます。

本演習では、第一段階として、裁判所の判例・下級審の裁判例が実際に果たしている重要な機能を理解する（判例とは何か、どのようにして作られ、実務をどのように拘束するかについて学ぶ）ために、教科書の輪読を予定しています。

第二段階として、受講生各自が、自身にとって一番興味のある法律問題を取り扱った実際の判例を自由に選択して、報告（当該判例の紹介と批評）を行い、報告後に受講者全員で当該判例の見解や報告者の批評のあり方等について議論します。

教科書 /Textbooks

池田 眞朗 ほか著『判例学習のAtoZ』（有斐閣・2010年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者自身が選択した判例（裁判例）につき、判例評釈の報告を行い、報告書を作成します。

第1回 ゼミの運営方針の説明、報告分担箇所・報告者の決定
第2回～第7回 教科書の輪読を通して、判例の意義・役割・読み方を学習する。

※以後、課外学習が非常に重要になっていくことに十分留意すること。

- 第2回 （判例を読む）判決文の形と判決の分析について
- 第3回 判例の機能と学び方（民事判例：基礎編）
- 第4回 判例の機能と学び方（民事判例：上級編）
- 第5回 判例の機能と学び方（刑事判例：基礎編）
- 第6回 判例の機能と学び方（刑事判例：上級編）
- 第7回 判例の機能と学び方（憲法判例の特殊性）
- 第8回 判例の機能と学び方（憲法判例：上級編）

第9回～第15回 受講者による判例評釈の発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%・ディスカッションへの参加度40%、レポート作成10%
無断欠席、3分の1以上の欠席は、ゼミ放棄とみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 教科書の担当部分の報告準備とは別に、
- ①自ら興味を抱く裁判例を選択しておくこと。
- ②第9回以降に各自が順次行う（あるいは期末に提出する）判例報告を準備しておくこと。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。

報告者には、以下の点が求められます。

- 1, 報告概要(レジюме)を作成したうえで、遅くとも、報告前日までは、レジюмеを印刷を済ませておくこと。
- 2, 遅くとも、報告時には、参加者全員にレジюмеのコピーを配布すること。
- 3, 報告に際しては判例の論旨を要約し、そこから論点を皆に提示すること。
- 4, 事案についての質疑に回答できるように、判決全文を手元に用意して報告に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミへの積極的な参加を希望します。

キーワード /Keywords

判例の機能、判例の読み方、判例評釈

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

法学学習は、それ自体が多くの知識と多彩なスキルを前提としている。この演習は、法学基礎演習Iに引き続き、法学の学び方を学ぶためのものであり、法学学習に必要な知識と発展的なスキルの習得を目的とする。

本演習は、次の手順で行われる。

- ①報告者を決めて、全員で法学文献を読む、
- ②報告者を決めて、全員で判例を読む、
- ③小論文執筆のための中間報告を行う、
- ④それを受けて小（規模な）論文を執筆する。

教科書 /Textbooks

青木人志著『判例の読み方』（有斐閣、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 上田健介ほか著『憲法判例50! (START UP)』（有斐閣、2016年）
- 斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）
- 井田良ほか著『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣、2016年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2～4回 基礎的な法学文献の講読と検討
- 第5～8回 基本的な憲法判例の講読と検討
- 第9～14回 履修者の中間報告と検討
- 第15回 まとめ

※受講人数等によって、構成の変更がありうる

成績評価の方法 /Assessment Method

小論文（40％）、中間報告（30％）、日常の授業への取り組み（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された授業外学習を行うこと。
情報収集、レジュメ作成、報告、討論への参加、小論文提出が求められる。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「法学基礎演習I」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

民法の判例を検討しながら、民法の仕組みや基本概念、基本的な考え方を知るとともに、判例の読み方、判例研究の仕方をあわせて身につけることを目的としていますが、この「法学基礎演習Ⅱ」では、「法学基礎演習Ⅰ」で身につけた知識や技法を主体的に実践、応用、展開し、さらに一層深く掘り下げて問題点を分析検討できるようになっていただこうと思っています。

教科書 /Textbooks

潮見佳男＝道垣内弘人編 別冊ジュリスト民法判例百選I総則・物権 [第8版] 有斐閣 2018年 2,200円＋税
その他必要に応じてレジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(6,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら、事案、判旨、論点を整理して参加してください。また、事後は、報告内容や教科書、参考書を参照しながら、判例、判旨、論点をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
「民法入門」、「法学基礎演習Ⅰ」を履修し、「民法総則」、「法への誘い」を並行して履修していると一層理解が深まると思います。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

受講生との話し合いによりテーマを決定します。
原則として、グループで作業してもらいます。
そのテーマについて、文献、判例等を調査し、ディベート形式で議論をします。

この授業は、文献調査の実地的訓練、法的思考力の養成、コミュニケーション力の養成を目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマ、グループの決定、
- 2回 以下、順次グループによるディベート
- 3回～14回 順次グループによるディベート
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各グループで、テーマについて、参考文献、関連判例を調査する。
調査資料に基づいて、事前にグループで議論し、判例の評価、学説の分析、グループの意見についてまとめる。
レジュメを作成して、授業に臨む。(必要な学習時間の目安は、90分です。)

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的な準備、発言を期待します。

キーワード /Keywords

文献調査能力 コミュニケーション力

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅱ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習は、法学基礎演習Ⅰで習得した知識と技能のさらなる向上を目的とします。演習前半では、前期に引き続き、法学の基礎知識とリーガル・リサーチの方法を学習したうえで、憲法の重要判例を題材にしたグループ報告を行ってまいります。演習後半では、受講者が関心のあるテーマについてレポートを執筆してまいります。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
 - 第 2～ 6回 法学の基礎知識またはリーガル・リサーチ
 - 第 7～10回 グループ報告
 - 第11～14回 レポートの執筆指導
 - 第15回 まとめ
- ※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告40%、日常の授業への取組み40%、レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に引き続き、民法の有名な判例を受講者全員で読むことを通じて、法律文献を読む力を養成することを目標とする。2学期は、非嫡出子の相続分規定の合憲性が争われた最高裁判例を中心に読んでいく予定である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 1学期の基本事項の確認
- 第3回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(1)【事実の概要】
- 第4回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(2)【多数意見(前半)】
- 第5回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(3)【多数意見(後半)】
- 第6回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(4)【補足意見(前半)】
- 第7回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(5)【補足意見(後半)】
- 第8回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(6)【反対意見(前半)】
- 第9回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(7)【反対意見(後半)】
- 第10回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(1)【事実の概要】
- 第11回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(2)【法廷意見(前半)】
- 第12回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(3)【法廷意見(後半)】
- 第13回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(4)【補足意見(前半)】
- 第14回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(5)【補足意見(後半)】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習、復習その他の授業外学習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

導入科目(法学総論・日本国憲法原論・民法入門)を1学期に受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法(ポケット六法等の小型のもので良い)を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期に引き続き、積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

法学 民法

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

1学期の法学基礎演習Ⅰに引き続き、主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニングを行います。また、後半には各自が選択したテーマについて報告をしてもらいます。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～8回 判例の分析
- 9回～14回 各自が選択したテーマについて個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。原則として、津田が担当する法学基礎演習Iの受講者を対象とする。引き続き、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につける。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じ、レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じ適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本演習では、図書館の使い方や文献の探し方などを一応身につけていることを前提に、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的適用・解釈の方法を学ぶ。取り上げる判例は、参加者の問題関心をも考慮したうえで決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 判例研究のための文献収集
- 第3回 データベース利用法
- 第4回 各グループによる判例研究
- 第5回 判例の選択及び後半報告グループ分け
- 第6回・第7回 報告グループ①による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第8回・第9回 報告グループ②による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第10回 中間反省会
- 第11回・第12回 報告グループ③による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第13回・第14回 報告グループ④による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（出席、報告内容、議論に対する姿勢など）、学期末レポートの内容などをもとに総合的に評価する。下記の記載はあくまでおおよその目安である。

ゼミへの参加・受講態度・・・50% 課題等提出状況及び内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

「演習」の成立は、皆さんの積極的な参加如何で決まると言っても過言ではありません。報告グループ以外の人でも、毎回、何らかの発言を求めます。予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうあれ、出席率が2/3に満たない場合、単位認定しません。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習は、大学（法学部）で学ぶための基礎となる知識を見つけること、及び社会的問題に対する関心を高めることを目的とする。そのために、各回を前半と後半に分け、前半部では実際の判決文や法学の専門文献（初歩的なもの）の読解を中心として、法学的な基礎知識の習得を行う。後半部では、法学に関連する問題を扱ったドキュメンタリー等を視聴した上で議論を行い、社会的問題関心を涵養する。これらを通じて、以降の専門教育へのスムーズな導入を図るとともに、自ら学ぶ姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

【「法学基礎演習I」と同じ】
吉田利宏『法学のお作法』（法律文化社、2015年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指導する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明など）
第2～9回 前半：判例読解・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討
第10～14回 前半：法学文献読解・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討
第15回 全体のまとめ

※参加者の人数等により内容は変更する可能性あり
※参加者の人数によっては、個別報告を科す可能性あり

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の議論への主体的参加状況：80%
学期末レポート：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

判例読解・法学文献読解に関しては、各回内容の予習・復習。
取り上げる社会的課題について主体的に情報を収集して検討すること。

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「法学基礎演習I」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代は、社会へ出て行くための「助走期間」に喩えられる。如何に助走したかによって、社会への飛び出し方が変わってくるはずである。本演習では、みなさんが「きちんと助走する」ことができるように手助けしていきたいと考えている。社会で生起するさまざまな問題への関心が高い学生の参加を希望する。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学基礎演習Ⅰでおおむね習得できた（ことになっている）ゼミでの「お作法」を再確認することから始まります（この意味で、法学基礎演習Ⅰのシラバスもご参照ください）。その上で、各自がテーマを決め、報告・議論を行うことを中心とします。なお、最終成果物として、各自が設定したテーマごとに、小レポートを作成することを予定しています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する予定です。使用する場合は、参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミを進めていく中で適宜、参加者に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス（演習の目的、概要、進行方法などの説明）
- 第2～4回 共通の文章をテーマに「お作法」を思い出す作業
- 第5～6回 レポート作成のポイント
- 第7～8回 共通の文章をテーマに作成したレポートをピアレビューする
- 第9～14回 担当ゼミ生による報告 / 全員による議論
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①レジュメの作成と報告（40%）
- ②議論への貢献度（40%）
- ③小レポート（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：
報告者は、前もってレジュメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。

【事後学習】：
ゼミ中に出た論点や問題点を整理して理解を深めてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたるなどして、小レポートの作成に備えてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・無断の欠席・遅刻は厳正に取り扱います（欠席・遅刻する際は、かならず担当者に連絡してください）。
- ・最低限やるべきことはやってください。やるべきことがわからない場合は遠慮なく担当者に尋ねてください。
- ・上記にあるように、ゼミで取り扱うテーマは広く社会問題です。法概念や判例を直接取り扱うトレーニングを期待していると期待ハズレとなりますのでご注意ください。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 法解釈学のスキル習得へと駆け上がっていく前に、社会の中のアレコレを / キョロキョロしながら考えてみたい学生向けかなと思います。
- ・ 本ゼミの場合、「正解 / 不正解」の区別はさほど重要ではありません。自分なりに一生懸命とりくみ、発話 / 傾聴することを重視します。
- ・ 積極性に自信のある学生の参加はもちろん歓迎しますが、（半歩でも）積極性を身に着けた方がいいカモ、と思っている（だけの）学生も大歓迎いたします。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

後期は、表現することを中心とします。
 法学部における学習の基本となる、判例を用いた学習についての基本を学びます。
 判例の検討にあたっては、いかなる条文による制度が問題になっており、当該事案で特に争点となる文言を裁判所がどのように解釈したのか、その事案では事実をどのように評価したかを検討してください。
 そのうえで、自身の選択した判例を素材に報告・レポートを行います。

教科書 /Textbooks

横田明美『カフェパウゼで法学を』（弘文堂，2018）——4月に購入しておくのが望ましい。
 池田真朗ほか『判例学習のA to Z』（有斐閣，2010）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。
 野矢茂樹『増補版 大人のための国語ゼミ』（筑摩書房，2018）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
 第2回～第3回 文献講読
 第4回 判例学習の方法
 第5回～第7回 判例講読
 第8回～第14回 判例報告、ディベート
 第15回 まとめ
 【参加者の状況、人数に応じて変動することがあります】

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の点を考慮して、評価を行います。
 授業への取り組み状況 20%
 判例報告 30%
 期末ペーパー 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】
 文献講読にあたっては、事前に当該文献を精読し、それぞれのパラグラフについて「こういうことが書いてある」というのを自分の言葉で説明できるようになっておくこと。報告にあたっては、事前にレジユメを配布しておくこと。
 【事後学習】
 判例報告後、ディベートなどで問題となった事項を反映させておくこと。

履修上の注意 /Remarks

三回以上の正当な理由なき欠席を認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業を通じて、法学部生としての文章の型を身につけましょう。

法学基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ 【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Ⅰの内容を承(う)けて、より高度な法的思考(特に、最高裁の判決理由を読む際の【法的三段論法】の駆使・錬磨)、法学文献・判例評釈等の批判的・分析的な読み方、判例(判決理由)の精確な読み方・扱い方(判例(判決理由)において定立された規範)の抽出方法・その射程範囲の測定・分析手法、および判例評釈執筆手法などを修得することが本演習の最大の目的です。
 法学基礎演習Ⅰとは異なり、本演習では、報告の内容面(質の高さ)やレポートの完成度をより厳しく評価します。また、本格的な民事判例研究報告(債権法分野)を課すなど、その内容は、3・4年次に履修することとなる「専門演習Ⅰ～Ⅳ」に近いものとなります。法的思考をフル回転させて、活発な議論に受講ゼミ生全員が参加されることを切に望みます。

教科書 /Textbooks

- ①陶久利彦『法的思考のすすめ(第2版)』(法律文化社、2011年);定価(1,800円+税)
 - ②窪田充見=森田宏樹(編)『民法判例百選II 債権[第8版](別冊ジュリスト238号)』(有斐閣、2018年);定価(2,300円+税)
 - ③最新版(年度)の小型六法
- ※上記「3点セット」を必ず購入・持参してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

※演習のなかで適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※以下の授業計画・内容等はあくまで「めやす」です。受講人数等により変更される場合があります。
- 第1回 ガイダンス: 報告グループ&報告順の決定。期末レポート(判例評釈)についての説明。
- 第2回 最高裁判決の読み方の復習①(法的三段論法の錬磨)-最(二小)判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として-
- 第3回 最高裁判決の読み方の復習②(最高裁がその判決理由の中で示した規範(判例)の「射程」の分析、大前提たる法的ルール自体を最高裁が規範定立する場合の分析。)-最大判 昭和40年11月24日 民集19巻8号2019頁を素材として-
- 第4回 教科書①のグループ報告(輪読形式・教科書①1~17頁)(グループA)。
- 第5回 教科書①のグループ報告(輪読形式・教科書①17~47頁)(グループB)。
- 第6回 教科書①のグループ報告(輪読形式・教科書①48~90頁)(グループC)。
- 第7回 教科書①のグループ報告(輪読形式・教科書①91~140頁)(グループD)。
- 第8回 キャリアセンター・ツアー(予定。受講生諸君には是非とも自身のキャリア・プランについてもしっかりと考えてもらいたいと想っています。)
- 第9回 民事判例研究報告(グループAの1回目; 事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】)。
 ※採り上げる判決は、教科書②掲載の「最高裁判決」とします(大審院判決の報告希望を妨げるものではありませんが、事実関係の読み取りが難解です。)。民法学の基本書・体系書、各種判例評釈、および調査官解説等を熟読し、質の高い民事判例研究報告を行ってください。また、報告担当でないグループも、報告グループの採り上げた判決について質問や意見を発表することができるように、準備を入念にしておいてください。
- 第10回 民事判例研究報告(グループAの2回目; 規範の抽出・射程についての議論、教員による補論)。
- 第11回 民事判例研究報告(グループBの1回目; 事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】)。
- 第12回 民事判例研究報告(グループBの2回目; 規範の抽出・射程についての議論、教員による補論)。
- 第13回 民事判例研究報告(グループCの1回目; 事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】)。
- 第14回 民事判例研究報告(グループCの2回目; 規範の抽出・射程についての議論、教員による補論)。
- 第15回 まとめ(実務家〔当職の高校時代からの友人である弁護士〕を招いての「最終回特別ゼミ」を実施予定〔全学年ゼミ合同〕。内容は「要件事実(論)入門」などを予定。)

※2020年2月初旬に、レポートを提出していただきます。内容は、各グループで報告した最高裁(ないし大審院)判決についての【判例評釈】です。

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い.....40%
 - ※民事判例研究報告の内容（レジユメの構成・報告の質・議論の内容など）.....30%
 - ※レポート（判例評釈）の内容.....30%（レポート未提出者には、原則として単位を付与しません。）
- 【注意】正当な理由なき無断遅刻・無断欠席は、ゼミの受講を放棄したものと「推定」します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】本演習では、報告準備以外の事前学習（予習）が「法学基礎演習I」以上に多く課せられます（つまり、負担はより大きくなります）。たとえば、報告担当でないグループも、報告グループが採り上げた判決について、種々の観点から質問・指摘などができるように、各種判例評釈、「調査官解説」、および民法学の基本書・体系書等を熟読の上、ゼミに臨むことが求められます。その他、毎回適宜、事前に熟読しておくべき資料等を指示しますので、きちんとそれらを熟読していただくことも求められます。
- 【事後学習】各ゼミ生は、民事判例研究報告で扱われた最高裁（ないし大審院）判決（自身が所属する報告グループ以外のグループが報告した判決）の判決理由の読み方（判例の射程など）に関する独自の見解をまとめて、ミニ・レポートとして提出しなければなりません。

履修上の注意 /Remarks

「法学基礎演習I」の負担程度でキツイと思っている受講生にとっては、過酷な演習になるものと思われます。覚悟を持って臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は「学問」をやる場所です。遊びに来る場所ではありません。真剣に学問・研究に取り組んでくださいね.....と少しプレッシャーをかけてみました。

キーワード /Keywords

最高裁（ないし大審院）判決の読み方、法的三段論法、規範の射程、民事判決研究、自分のキャリア・プランを考える

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。
具体的な社会的問題を取り上げ、法的な問題点を解説することを通じて、法を学ぶということの具体的なイメージを持てるようにする。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～15回 選択されたテーマについて、担当者が報告する。それに基づいて議論を行う。
※ゼミの具体的な内容は、受講者の関心に応じて、適宜調整していく予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として各回の報告者が行うテーマについて教科書等の該当箇所を確認すること。復習として報告者が配布したレジュメを確認し、わからない箇所は教科書等を使って知識の確認をすること。

履修上の注意 /Remarks

報告テーマについての予習、復習が求められる。無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生活の4年間は、あっという間に過ぎていきます。この期間で、法学はもちろん、それ以外でも何でもいいので、何かこれに打ち込んだというものを見つけて卒業してください。いわゆるガクチカ(学生時代に頑張ったこと)の内容は、そのまま皆さんの卒業後の進路に影響します。学生時代を過ごした証を残したい！という気持ちを持った方の受講を希望します。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 藤田 尚 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、「法学基礎演習Ⅰ」で掲げた到達目標である法的思考をさらに深めることを目的とする。
「法学基礎演習Ⅰ」では、グループディスカッションを中心に授業を行うが、本演習では、「法学基礎演習Ⅰ」で身に付けた能力を用いて、各自で刑事法に関するテーマ設定を行い、個別報告を通して、法的思考力を高める。

教科書 /Textbooks

なし。
必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

末川博『法学入門(第6版補訂版)』有斐閣双書(2014年)。
 松井茂記=松宮孝明=曾野裕夫『はじめての法律学(第4版)』有斐閣(2014年)。
 ○伊藤正己=加藤一郎共著『現代法学入門(第4版)』有斐閣双書(2005年)。
 松元茂=河野哲也共著『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法(改訂第2版)』玉川大学出版(2015年)。
 井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法(第3版)』慶應義塾大学出版会(2019年)。
 ○川出敏裕=金光旭共著『刑事政策(第2版)』成文堂(2018年)。
 ○藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房(2011年)。
 ○守山正=安部哲夫共著『ピギナーズ刑事政策(第3版)』成文堂(2017年)。
 法務省法務総合研究所編『平成30年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社(2018年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 個別テーマの設定(1)マップの作成
- 第3回 個別テーマの設定(2)報告
- 第4回 個別報告(1)
- 第5回 個別報告(2)
- 第6回 個別報告(3)
- 第7回 個別報告(4)
- 第8回 個別報告(5)
- 第9回 個別報告(6)
- 第10回 個別報告(7)
- 第11回 個別報告(8)
- 第12回 個別報告(9)
- 第13回 個別報告(10)
- 第14回 個別報告(11)
- 第15回 まとめ

* 授業内容及び報告内容については、受講数によっては変更する可能性もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加70%、レポート30%の総合評価とする。

法学基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】 各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】 授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

3分の1以上欠席した場合は、単位認定はしない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前に「法学基礎演習I」を受講することが望ましい。

キーワード /Keywords

法学、刑事法

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM102M		○		◎	○
科目名	法学基礎演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、自由や尊厳、公平などの基本的価値に関係する法政策的なテーマを取り上げて、ディベートを行います。その過程を通じて、①法情報検索技術を習得し、②プレゼンテーション能力および③討論能力を向上させることが、この授業の目的です。つまり、本演習の中心的課題は、「調べる」→「話す」→「書く」ことです。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 龍川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年）
- 西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）
- 田高寛貴 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』（有斐閣、2015年）
- 横田明美『カフェバウゼで法学を』（弘文堂、2018年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ディベートの意義と方法、グループ分け
- 第3回 テーマ①：予備的調査と立論シートの作成
- 第4回 テーマ①：相手側立論シートに基づく反駁準備と想定質問に対する回答準備
- 第5回 テーマ①：ディベート
- 第6回 テーマ①：解説とディベートの講評
- 第7回 テーマ②：予備的調査と立論シートの作成
- 第8回 テーマ②：相手側立論シートに基づく反駁準備と想定質問に対する回答準備
- 第9回 テーマ②：ディベート
- 第10回 テーマ②：解説とディベートの講評
- 第11回 テーマ③：予備的調査と立論シートの作成
- 第12回 テーマ③：相手側立論シートに基づく反駁準備と想定質問に対する回答準備
- 第13回 テーマ③：ディベート
- 第14回 テーマ③：解説とディベートの講評
- 第15回 まとめ

※受講者の人数により内容および進度は変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容および演習中の積極的な発言（50%）、授業後の課題およびレポート（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に臨む前に、インターネットの検索エンジン等を利用して、各テーマに関連するニュース記事などを探してみてください。立論シートの作成後は、当日グループ内での議論が可能のように、自分の疑問や意見を予めまとめるようにして下さい。
授業後は、演習中に共有された参考文献を各自で読んで、次回の議論に備えて下さい。ディベート終了後は、レポートの作成を開始して、解説および講評の内容も反映させるようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

法学基礎演習IとIIは、継続して受講して下さい。
無断欠席は厳禁です。やむを得ずに欠席する場合は、予め連絡するようにして下さい。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習科目ですから、参加者のみなさんによる主体的な取り組みが期待されます。ここでは、自由な議論の空間が大前提です。講義科目で学び始めたことを、積極的に言葉にしてみましょう。

キーワード /Keywords

現代法曹論 0 【昼】

担当者名 高橋 衛他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW101M		○		○	◎
科目名	現代法曹論 0		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

価値観が多様化した現代社会においては、そこに生じるとさまざまな利益の衝突を調整して問題を解決するために、法学の知識と能力、とりわけ論理的思考力と説得力が要求される。この要求は、実務法曹（裁判官、検察官、弁護士）だけでなく、広く社会で活躍しようとするすべての人材に向けられる。

そこで、本講義においては、法学の基本的な知識と思考方法を学ぶとともに、国の行政機関・司法機関・地方公共団体等の現場で働く実務家、弁護士・行政書士などの実務法曹さらには法科大学院の教員が各1回分の講義を担当しつつ、各現場における法実務（あるいは法科大学院教員の場合には、その専門法分野）が、現代社会における問題解決にどのようなあり方で貢献しているかについて、具体的な事例を用いて解説していく。

本講義の究極のねらいは、初年次教育科目・導入科目としての本講義を通じて、法学部学生に卒業進路を意識しながら法律学を学習する動機づけを与え、法学部卒業生にとってのキャリアモデルを提供することにある。その具体的な目標は、以下の通りである。

- ①法学において共通して要求される基本的な知識や法的思考力の基礎を学ぶ。
- ②法学の知識を用いて、実際の具体的な事案を解決するための方法論を学ぶ。
- ③実務法曹・法律隣接職・企業法務の仕事を知る。
- ④法科大学院における学習や司法試験に対する具体的なイメージを形成する。

教科書 /Textbooks

レジュメその他の資料を配布して講義を進める。
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法（2019年版・平成31年版）を必携のこと（種類・出版社を問わない。）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、必要と思われる資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：この講義の狙い、公務員の職種と業務、国家資格の取得、そのキャリアパス
- 2回 憲法を学ぶ社会的意義（具体的事案を通して考える）
- 3回 裁判所の仕事
- 4回 警察官の仕事
- 5回 刑法を学ぶ社会的意義（具体的事案を通して考える）
- 6回 矯正施設（刑務官等）の仕事
- 7回 実務法曹と法律隣接職、そのキャリアパス～弁護士の場合
- 8回 民法を学ぶ社会的意義（具体的事案を通して考える）
- 9回 法律関連資格とそのキャリアパス
- 10回 国家公務員の仕事～税務と法律～
- 11回 行政法を学ぶ社会的意義（具体的事案を通して考える）
- 12回 裁判官の仕事
- 13回 地方公務員の仕事と法律（県）
- 14回 地方公務員の仕事と法律（市）
- 15回 「総まとめ」と「レポート提出」

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート... 100%

ただし、5回以上欠席した場合、レポートの提出資格を認めない。また、受講態度が著しく悪いときは、欠席として扱われることがあります。

現代法曹論 0 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【予習】 指定された範囲の資料等に目を通して講義に臨むこと。
- 【復習】 講義終了後は、講義内容をノートに要約して復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義を履修後に「現代法曹論I」や「現代法曹論II」、「法律実務論I」や「法律実務論II」を履修することで、この講義をさらに発展させることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、法科大学院をはじめ、政府諸機関や地方公共団体と連携して開講する講座です。現場の第一線で働く実務家を招聘して、現実社会と法学とを結びつけることで、受講者のキャリア形成を促進するものとなることを期待しています。

キーワード /Keywords

法学 法学入門 法律関連職 法律関連資格 国家公務員 地方公務員 特別職公務員 キャリア・デザイン

憲法人権論【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW220M	◎	○	○		
科目名	憲法人権論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本国憲法は、基本的人権を保障している。人権は、原則として、市民が国家に対して自由や平等、社会的給付を要求できることを保障している。人権の内容は、歴史的にも、各国の憲法によっても様々である。

この講義のねらいは、次の3つである。

- ①人権の思想史的沿革や体系、
- ②各人権条項の意義や構成、法的判断の仕方、
- ③判例における実際の適用のあり方を学ぶこと。

また、海外の憲法における基本的人権のあり方との違いにもふれる。

教科書 /Textbooks

斎藤 一久・堀口 悟郎編著『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法（第7版）』（新世社、2018年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論① -イントロダクション
- 第2回 総論② -人権の分類と人権享有主体
- 第3回 人権の制約原理 -公共の福祉
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 表現の自由①
- 第6回 表現の自由② -知る権利と報道の自由
- 第7回 思想・良心の自由
- 第8回 信教の自由と政教分離
- 第9回 学問の自由
- 第10回 職業の自由
- 第11回 財産権
- 第12回 社会権① -労働基本権
- 第13回 社会権② -生存権
- 第14回 平等権
- 第15回 適正手続

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（70%）、日常の授業への取り組み（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レジユメの予習・復習、教科書等の該当箇所を読む。

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。
事前に「学習支援フォルダ」にレジユメをアップすることがあるので、各自印刷して持参すること。

憲法人権論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

刑法総論【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW230M	◎	○	○		
科目名	刑法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「刑法総論の体系的展開」(Criminal Law, General Theory)
 この講義が対象とする「刑法総論」は、すべての犯罪に共通する法理論と犯罪の一般的な成立要件の体系(犯罪論体系)を考察する領域です。この意味で、刑事法(犯罪と刑罰に関する法)の起点となる科目です。これに対して、「刑法各論」(刑法各論I・II)は、殺人罪や窃盗罪といった個別の具体的な犯罪の成立要件を考察する領域です。
 刑法の基本原則や基本概念、犯罪の成否に関する一般的な法理論を体系的に考察するとともに、具体的な事例をもとに講義を展開して論理的思考力を習得することを目的としています。刑法における基本的な思考方法を理解して、刑法の基本的な事項や問題点についての考え方を学んでください。
 この講義では、刑法学の学習を通じて、社会科学で要求される問題発見能力、体系的思考力、論理的思考力を身につけていきます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。「学習支援システム UKK Moodle」から各自がダウンロードしてください。
 初回の講義において、テキストや参考書について説明します。
 ①六法(2019年版・平成31年版)
 『ポケット六法』(有斐閣)や『デイリー六法』(三省堂)、『法学六法』(信山社出版)といった「最新の」六法を必携してください(種類・出版社を問わない)。
 ②刑法総論のテキスト(基本書)
 講義の予習・復習、および自習のため、テキスト(基本書)を必携してください。
 只木誠『コンパクト刑法総論』(新世社・2018.06)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』6版(有斐閣・2017.03)。
- 井田良『入門刑法学・総論(法学教室Library)』2版(有斐閣・2018.11)。
- 井田良『講義刑法学・総論』2版(有斐閣・2018.10)。
- 高橋則夫『刑法総論』4版(成文堂・2018.10)。
- 山中敬一『刑法概説I総論』(成文堂・2008.10)。
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』(有斐閣・2013.04)。
- 只木誠(編著)『刑法演習ノート(刑法を楽しむ21問)』2版(弘文堂・2017.03)。
- 大塚裕史/十河太郎/塩谷毅/豊田兼彦『基本刑法I総論』2版(日本評論社・2016.03)。
- 十河太郎/豊田兼彦/松尾誠紀/森永真綱『刑法総論判例50!(START UP)』(有斐閣・2016.12)。
- 山口厚/佐伯仁志(編)『刑法判例百選I総論』7版(有斐閣・2014.07)。

刑法総論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1) 偶数回に解説講義を行い、それに続く奇数回ではケース・スタディを行います。
 (2) ケース・スタディでは、解説講義の範囲から重要な論点を取り上げて、この論点を争点とする事例問題に検討を加えます。事例を検討していくなかで、前回の講義で学んだ知識を事案の解決にどのように活用していくのかを学んで、理解を実践的に発展・深化させていきましょう。

※諸事情により進捗状況が前後することがあります。

- 1回 ガイダンス・犯罪論の基本構造
- 2回 刑法の基本原理
- 3回 ケース・スタディ(1)【設例1/2】
- 4回 罪刑法定主義
- 5回 ケース・スタディ(2)【設例3/4】
- 6回 行為論と構成要件該当性、不作為犯
- 7回 ケース・スタディ(3)【設例5/6】
- 8回 因果関係(条件関係と法的因果関係)
- 9回 ケース・スタディ(4)【設例7/8】
- 10回 故意論と過失犯論
- 11回 ケース・スタディ(5)【設例9/10】
- 12回 事実の錯誤(具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤)
- 13回 ケース・スタディ(6)【設例11/12】
- 14回 正当化事由と正当防衛
- 15回 ケース・スタディ(7)【設例13/14】
- 16回 緊急避難・正当行為・被害者の承諾
- 17回 ケース・スタディ(8)【設例15/16】
- 18回 責任論の基礎・原因において自由な行為
- 19回 ケース・スタディ(9)【設例17/18】
- 20回 違法性の意識と違法性の錯誤・正当化事情の錯誤(誤想防衛)
- 21回 ケース・スタディ(10)【設例19/20】
- 22回 未遂罪と予備罪(実行の着手)、実行行為と不能犯・中止犯
- 23回 ケース・スタディ(11)【設例21/22】
- 24回 共犯論の基礎(正犯と共犯の区別)・間接正犯
- 25回 ケース・スタディ(12)【設例23/24】
- 26回 共同正犯の意義と処罰根拠・共謀共同正犯・承継的共同正犯
- 27回 ケース・スタディ(13)【設例25/26】
- 28回 共犯の従属性と処罰根拠、教唆犯と幫助犯
- 29回 ケース・スタディ(14)【設例27/28】
- 30回 罪数論・科刑論(犯罪の個数と犯罪の競合)

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30%、期末試験...70%

この他に課題レポートや随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合があります。

※詳細については、初回の講義で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、分からない言葉を調べ、疑問点やよく解らない箇所にマーキングをしてください。できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨みましょう。疑問を持って講義に臨むことが重要です。積極的に質問して、それらの疑問を講義の中で解消していきましょう。

講義ではしっかりノートを取りましょう。知らなかった事項や不足していた事項をメモしておいて、講義後にノートを整理して基本書・参考書・判例集等で不足事項を補いましょう。

ケース・スタディでは、提示された事例問題について1,000字から1,500字程度の解答をあらかじめ作成して講義に参加することを勧めます。講義では、自分の解答を批判的に検討して、解説と自分の解答との論理展開の違いを考えてみましょう。不足していた知識を補足するだけでなく、自分の考え方を修正することを狙いとしています。講義後に、解説を元にもう一度解答を作成しなおすと一層効果的です。 ※「論理」: 思考や議論の順序や関連性、物事の法則的な結び付き。

履修上の注意 /Remarks

この科目を受講した後に、「刑法各論I」および「刑法各論II」を受講することを強く推奨します。さらに、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧めます。

また、「法学検定試験」の受験を勧めます(毎年11月下旬から12月初頭実施、出願は9月から10月)。この試験は法学に関する学力を客観的に評価する試験です。夏季休業期間を活用して問題集に取り組むことで、憲法・民法・刑法といった基本法科目について、基本的な知識や能力を身に付けることができるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、さまざまな考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明して解決していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法、刑法、刑法総論、刑法各論、犯罪論、刑罰論

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW140M	○	◎	○		
科目名	社会法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

【学習目標】

社会権的人権を実現する目的を持つ社会法について、その理念、目的と規律内容についての知識を習得し、社会生活に活用する能力を修得するとともに、社会を担う一因として社会法の在り方について考察を深める態度を涵養することを目標とする。

【講義内容】

社会法の歴史、理念、資本主義の秩序および市民法との関係、現実的目的と立法体系、法的性格といった基本的法理内容を講義する。そのうえで、労働法による労働生活の保護と支援、社会保障法による生活者の生活保障、衛生法による地域保健推進の具体的内容を講義する。あわせて、近年における社会法改革動向とその課題を考える。

教科書 /Textbooks

柴田滋著「社会法総論」大学教育出版 ISBN978-4-86429-346-4. 2800円
(テキストを平易に解説したパワーポイント資料を配布します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浜村 彰他著「ベーシック労働法 第6版補訂版」有斐閣アルマ 2052円
荒木誠之著「社会保障法読本」有斐閣 2100円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回講義案内 現代社会と社会法

【福祉国家と社会法の確立】

第2回社会法の形成

第3回戦後社会法の発展

第4回社会法の体系

【社会法の法理】

第5回社会法の理念

第6回社会法の現実的前提(1) - 資本主義

第7回社会法の現実的前提(2) - 市民法

第8回社会法の目的と人権

第9回社会権と社会法の本質

第10回社会法の法的性格

【労働生活の保護と生活保障】

第11回労働法による労働生活の保護と支援

第12回社会保険法による生活保障

第13回社会福祉諸法による生活保障

第14回衛生法による地域保健の推進

第15回経済社会的背景の変化と近年の社会法改革

社会法総論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度（比重30%）、定期試験（比重70%）によって評価します、定期試験は、学習目標に関する事項について、記述式の試験（すべて持ち込み可）を行う予定です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回ごとの主要なテーマについて、明確に理解するように、テキストおよび配布資料によって事前・事後の学習に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

質問や疑問については、講義の際に直接質問するか質問用紙を活用するなどして、疑問を残さないように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会法は、雇用不安、過重労働、格差と貧困など、今日の生活問題に直接かかわる法分野です。社会法と現実の生活問題との関係に留意して学習を進めてください。

キーワード /Keywords

エリザベス救貧法、ビスマルク社会保険、工場法、自然法、自由権と社会権、市民法と社会法、残余的福祉モデル、制度的再配分モデル
従属労働と独立労働、雇用契約と労働契約、不文の労働関係規範、資本主義の生産様式、貧困の社会的リスク、人格的所有論
労働者保護法、労働条件の最低基準、団結権保護法、労働協約、雇用保障法、社会保険、公的扶助、社会手当、社会福祉サービス、保健衛生法、予防衛生法、ソーシャル・キャピタル、小さな政府、自立と連帯、社会的排除

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW161M	◎	○	○		
科目名	民法総則		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

民法の第一篇総則が講義の内容です。民法は、私達が日常営んでいる経済生活や家族生活における人と人との関係を規律する法律ですが、そのうちの、主として経済生活を規律する部分（財産法）の通則にあたるのが、この総則です。各種の取引活動を円滑にすすめるための具体的な規定や制度に共通する内容がその対象となっていますから、やや抽象的で、難解な部分もありますが、民法の世界の細部に分け入る前に、民法全体を俯瞰し、制度の枠組みを知るとともに、個々の規定や制度に共通する内容や考え方を知り、日常生活における人と人との関係のあるべき姿を考えていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

山田卓生他著『民法I-総則第4版』有斐閣Sシリーズ 有斐閣 2018年 1,944円+税
 潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選①総則・物権[第8版]』有斐閣 2018年 2,200円+税
 *レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 内田 貴『民法I[第4版]総則・物権総論』東京大学出版会 2008年 3,300円
- 川井 健『民法概論1民法総則第3版』有斐閣 2005年 3,800円
- 川島武宜『民法総則』有斐閣 1965年
- 四宮和夫=能見善久『民法総則 第8版』弘文堂 2010年 3,300円
- 我妻 栄『新訂民法総則(民法講義I)』岩波書店1965年 3,900円
- 佐久間 毅著『民法の基礎I総則(第3版)』有斐閣 2018年 3,100円

民法総則【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 民法の学び方、民法の仕組み、民法の世界観
- 2回 民法上の権利義務、権利の相対性
- 3回 権利の主体 - 「人」、権利能力と行為能力
- 4回 制限行為能力者制度①【未成年】
- 5回 制限行為能力者制度②【成年後見】【保佐】
- 6回 制限行為能力者制度③【補助】【任意成年後見】、住所について
- 7回 法人の必要と役割、法人の種類
- 8回 法人の設立、組織
- 9回 権利の客体 - 「物」
- 10回 法律行為 - 種類と解釈
- 11回 法律行為の有効要件
- 12回 法律行為の自由とその限界① - 【法律行為の自由】【取締規定違反】【脱法行為】
- 13回 法律行為の自由とその限界② - 【公序良俗違反】
- 14回 法律行為の構成要素 - 意思表示
- 15回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示①【心裡留保】
- 16回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示②【通謀虚偽表示】【錯誤】
- 17回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示③【詐欺】【強迫】【誤認・困惑】
- 18回 代理制度、表見代理と無権代理
- 19回 表見代理①代理権授与の表示による表見代理
- 20回 表見代理②権限超越の表見代理
- 21回 表見代理③代理権消滅後の表見代理、表見代理規定の競合
- 22回 無権代理
- 23回 無権代理と相続
- 24回 無効と取り消し
- 25回 条件と期限
- 26回 時効制度①【存在理由】【消滅時効と除斥期間】
- 27回 時効制度②【時効の援用・放棄】
- 28回 時効制度③【時効の中断・停止】
- 29回 取得時効
- 30回 消滅時効

成績評価の方法 /Assessment Method

課題……40% 定期試験……60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当箇所や関連判例を読んで講義に参加してください、事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

レジュメに添って講義を行います。教科書の該当箇所、参照判例は適宜指示します。教科書の他に毎回必ず六法、判例百選も持参してください。

「民法入門」を履修し、「親族法」と併せて履修すると理解が一層深まると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

親族法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自立的行動力」
LAW265M	◎	○	○		
科目名	親族法		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思い込みがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講読親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社 2007年 3,000円+税
水野紀子他編著『民法判例百選III親族・相続[第2版]』有斐閣 2018年 2,200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 泉久雄『親族法』有斐閣 1997年 3,500円
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
- 中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円
- 有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円
- 二宮周平『家族法(第3版)』新世社 2009年 3,200円
- 窪田充見『家族法第2版』有斐閣 2013年 4,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
- 3回 婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
- 4回 婚姻制度③【婚姻の効果】
- 5回 離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
- 6回 離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
- 7回 離婚制度③【離婚の一般的效果】【親権者決定】【面会交流】
- 8回 離婚制度④【離婚の財産的效果】【財産分与】
- 9回 親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
- 10回 親子制度②【養子】
- 11回 親子制度③【親権】【後見】
- 12回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 13回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【相続財産】
- 14回 法定相続制度②【単純承認】【相続放棄】【遺産分割】
- 15回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 定期試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当部分、参考判例を読んでおいてください。事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

親族法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「民法入門」を履修し、「民法総則」と併せて履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。
講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「親族法」を基礎に家族の財産関係を規律する法である「相続法」も履修するよう心掛けてください。

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 秦 正樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS100M	◎	○	△		
科目名	政治学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義では、①「政治」が必要であること理由、②戦後日本における政治過程、③政治家・官僚や有権者などの様々なアクターの意思決定や行動様式など、政治学の基盤となる理論や概念について概説します。また本講義では、現在日本が抱える諸問題の原因がどこに（何に）あるのかを自ら発見し、その解決策を模索するための基礎的能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジユメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹(2017)『政治学』有斐閣。
 砂原庸介(2015)『民主主義の条件』東洋経済新報社。
 伊藤光利編(2009)『ポリティカル・サイエンス事始め(第3版)』有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション 【政治と政治学】【規範】【実証】
2. 政治と権力(1) 【直接民主制】【間接民主制】【国民主権】
3. 日本の政治(1) 【保守と革新】【自社対立】【55年体制】
4. 日本の政治(2) 【政治改革】【民主党】【小泉自民党】【無党派層】
5. 日本の政治(3) 【政権交代】【改革勢力】【安倍政権と自民党】【維新の会】
6. 政治制度 【二大政党制】【選挙制度】【アメリカ政治】
7. 政党制度 【社会的亀裂】【多党制】【ヨーロッパ政治】
8. 議員と官僚 【官僚主導】【政治主導】【本人—代理人理論】
9. 地方政治(1) 【二元代表制】【地方分権】【団体自治】
10. 地方政治(2) 【足による投票】【都市の限界】【住民自治】
11. 市民と政治(1) 【政治参加】【若者の低投票率】【投票行動】
12. 市民と政治(2) 【市民参加】【新しい公共】【NPO/NGO】
13. メディアと政治(1) 【限定効果論】【新しい強力効果論】【皮下注射モデル】
14. メディアと政治(2) 【選択的接触】【SNS】【世論調査政治】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：90%
- ・ 講義への参加の積極性(リアクションペーパー・授業中の質問など)：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておいてください。また、各授業内容のレジユメには毎回参考文献を示しているため、それら文献を読むなどの復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義の性質上、授業の中で時事的なトピックに触れることがありますので、積極的に新聞やテレビなどで政治のニュースに触れるようにしておきましょう。

政治学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校までの公民や現代社会・政治経済などでは知識を習得することがメインだったかと思いますが、本講義では、むしろ皆さん自身が考えて答えを出すための材料を提供することが重要だと考えています。政治学の知見の習得を通じて、さまざまな社会問題に対する処方箋を考えてみましょう！

キーワード /Keywords

政治理論・実証政治学・行政学

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC111M	◎	○	△		
科目名	都市環境論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。当時を知る患者さんたちや支援者たちがなくなっている現在、後世に伝えていくためにも、水俣に関する学習は行う必要があるでしょう。

また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当に「うまい」と感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」、加工食品にどのような添加物がどれくらい入っているのか食品表示の見方といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

これらを知るために、グループ・ディスカッションを行うこともあります。また、私のゼミ生から取り組んでいるアクティビティを通した環境の話を発表してもらいます（藍島、食品ロス削減学生プロジェクト）。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチェル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成26年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】
- 第2回 環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育）
：：簡単な環境意識度チェック 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告・藍島プロジェクト・食品ロス削減プロジェクト 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 日本の環境政策の歴史と課題 【環境政策】
- 第6回 廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R 【廃棄物管理】
- 第7回 フードバンク ～フードバンク北九州ライフアゲインの事例から 【フードバンク】
- 第8回 食と農～健康の源＝自らの食を見直そう 【食農】
- 第9回 上水道 : : (アクティビティ＝きき水比べ) 【おいしい水】
- 第10回 下水処理をめぐって～下水処理の原理 【水質汚濁】
- 第11回 大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは？ 【大気汚染】
- 第12回 北九州市の環境の現状 【北九州市】
- 第13回 途上国の都市環境問題 【途上国】
- 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々＝エコツーリズムに関わろう！ 【エコツーリズム】
- 第15回 まとめ

都市環境論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、自らの身の回りの生活状況の各項目の把握と教科書の該当箇所の熟読、事後学習は、授業で学習したことの実生活への適用とその実践活動を記録化。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境都市としての北九州」の同時受講も勧めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全是楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

E S D (持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ、エコライフ・チェック

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 秦 正樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110M	○	△	◎		
科目名	政治文化論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政学 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD100M	◎	○	△		
科目名	行政学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

講義の時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政の歴史③【行政改革】【新自由主義】
- 5回 行政学史①【官僚制の理論】
- 6回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】【機械的行政学】
- 7回 行政学史③【機能的行政学】【人間関係論】
- 8回 行政学史④【現代組織論】【バーナード】【サイモン】
- 9回 行政統制①【行政の責任】【FF論争】
- 10回 行政統制②【議院内閣制】【大統領制】
- 11回 行政統制③【鉄の三角形】【影響力】
- 12回 行政統制④【政治的任命職】
- 13回 行政統制⑤【公務員制度】【公務員改革】
- 14回 「官から民へ」の意味①【住民と行政の関係変化】
- 15回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC114M	○	△	◎		
科目名	NPO論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 『北九州NPOハンドブック（第6版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』（2010年）。
坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』（法律文化社、2017年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 15回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。

NPO論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

政策規範論 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC110M	◎	○	△		
科目名	政策規範論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

政策の作成と実施によって、社会の諸問題に適切に対処する際には、様々な価値観に基づいて「あるべき未来の社会」が構想されます。このような価値観の理論を、政策規範理論と呼びます。そもそも政策にできること・できないことを了解した上で、政策を支える価値観の理論を理解することが、最終的な授業の目的です。

授業では、まず、政策に期待できることの可能性と限界を学びます。その上で、現代の政策の規範理論として最も参照されることの多い、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムの基礎理論を学びます。そして、現代日本の具体的な問題について、これらの立場からどのような政策の提案が可能かを考えていきます。

なお、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムなどの価値観の理論は一括して「正義論」と呼ばれる分野ですが、それらの展開のされ方は政治学的なもの、哲学的なもの、法学的なものまで含めてさまざまです。この授業では、机上の空論は避け、あくまで政策上の実践の観点から、これらの理論を使いこなせるようになることを目指します。

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政策規範論へのイントロダクション
- 第2回 政策の構造と価値
- 第3回 社会設計と政策
- 第4回 デモクラシーと政策
- 第5回 功利主義と政策
- 第6回 功利主義への批判
- 第7回 リベラルな平等の基礎理論I 【不平等の意味】
- 第8回 リベラルな平等の基礎理論II 【正義の二原理】
- 第9回 リベラルな平等の展開 【財産所有のデモクラシー】
- 第10回 リバタリアニズムの基礎理論I 【最小国家論】
- 第11回 リバタリアニズムの基礎理論II 【自己所有権】
- 第12回 コミュニタリアニズムの基礎理論 【負荷なき自己と共同体】
- 第13回 日本の格差：正規・非正規雇用
- 第14回 格差問題への政策構想
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、該当回パワーポイントを通読しておくこと。また授業後には書き込みを行ったパワーポイントをもとに復習すること。

履修上の注意 /Remarks

政策規範論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政策には様々な価値観が織り込まれています。その仕組みや内容を学び取り、現代の日本において、実りある政策論議がどのように可能か、考えてみてください。

キーワード /Keywords

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 秦 正樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210M	◎	○	△		
科目名	政治過程論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

政治家が政党に所属したり、あるいは離党したりするのはなぜなのか。有権者はなぜ、投票に行く（行かない）のか。マス・メディアが特定の政治家を批評するのはなぜなのか。本講義では、こうした諸アクターが「政治」を動かす際の意思決定のメカニズムについて説明します。具体的には、①「scienceとしての政治学」の視点から政治文化や政治制度の重要性について説明した上で、②諸アクターの政治的な意思決定のメカニズムについて検討します。また本講義を通じて、民主主義が成立するための条件に関する理解を深めることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂原庸介・稗田健志・多湖淳(2015)『政治学の第一歩』有斐閣ストウディア。
 久米郁男(2013)『原因を推論する：政治学方法論のすゝめ』有斐閣。
 砂原庸介(2015)『民主主義の条件』東洋経済新報社。
 坂本治也編(2017)『市民社会論：理論と実証の最前線』法律文化社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【民主主義】【規範理論】【実証】
- 2回 Scienceとしての政治学(1) 【因果関係】【相関関係】【変数】【反証可能性】
- 3回 Scienceとしての政治学(2) 【3つのI】【文化】【合理的選択】
- 4回 政治制度(1) 【選挙制度】【デュベルジェの法則】
- 5回 政治制度(2) 【大統領制】【議院内閣制】【議会の類型】
- 6回 政治家と政党(1) 【再選・昇進・政策】【議員行動】【集合行為問題】
- 7回 政治家と政党(2) 【ダウンズモデル】【政党システム】【離党と新党】
- 8回 政官関係【政治主導】【官僚主導】【本人—代理人理論】【エージェント—スラック】
- 9回 政治文化【政治的社会化】【政治意識】【ソーシャルキャピタル】
- 10回 政治参加と選挙(1) 【投票参加】【投票外参加】【投票義務感】
- 11回 政治参加と選挙(2) 【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 12回 政治参加と選挙(3) 【圧力団体】【コーポラティズム】【NPO / NGO】
- 13回 マス・メディア(1) 【強力効果論】【限定効果論】【プライミング理論】
- 14回 マス・メディア(2) 【ソフトニュース】【SNS】【テレポリティクス】
- 15回 まとめ 【選挙制度改革】【18歳投票権】【シルバーデモクラシー】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：90%
- ・ 日常授業への取り組み：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておくこと。また、政治過程論は連続しているテーマを扱うため、各授業内容についてはレジュメに示した参考文献を読むなどの復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「政治過程論」は、政治学におけるモデルやメカニズムの紹介を重点的に取り扱います。「政治学」をすでに履修している場合、本講義の理解がより深いものになります。また、予習や復習、授業時間以外でも各自が主体的に学習に取り組むようにしてください。とくに新聞やテレビなどで政治のニュースに積極的に触れるように心がけましょう。

政治過程論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政治学は「いろんな意見をうまくまとめる方法」を教えてくれる学問分野です。シラバスを見て難しそうと感じる人もいるかもしれませんが、授業計画の「政治」の部分をあなたが所属する集団（たとえばクラブやサークルなど）に置き換えてみると、授業で扱う内容もずっと身近に感じるのではないでしょうか。「政治」と聞いて食わず嫌いにならず、ぜひ一緒に勉強してみましょう！

キーワード /Keywords

民主主義の条件・政治制度・政治文化・実証政治学

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC112M	◎	○	△		
科目名	福祉国家論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第9回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%
原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から3点程度減点します。

遅刻は授業開始後20分まで認められます。ただし減点対象となる場合があります。
授業開始後20分以降は入室禁止とします。指示に従わず着席した場合は、単位を認定しない場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

福祉国家論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

西洋政治史【昼】

担当者名 /Instructor 西 貴倫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111M	◎	○	△		
科目名	西洋政治史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この講義では、近現代の西洋諸国、イギリス・アメリカ・フランス・ドイツの政治的経験を概観する。
具体的には、市民が政治の主体となる自由民主主義体制の形成と変容について、政治学の基本的な理解枠組みを用いながら検討していく。

教科書 /Textbooks

杉本稔編『西洋政治史』弘文堂、2014年02月刊(2,000円+税)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

岡義武『国際政治史』岩波現代文庫、2009年9月刊(1,480円+税)。
 ○R・A・ダール著、高島通敏・前田脩訳『ポリアーキー』岩波文庫、2014年10月刊(1,080円+税)。
 ○篠原一『ヨーロッパの政治—歴史政治学試論』東京大学出版会、1986年9月刊(3,200円+税)。
 その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに—政治学と政治史
- 第2回 分析視角—社会的亀裂、異議申立、参加、政治変動
- 第3回 議会制の成立①—イギリスの場合
- 第4回 議会制の成立②—アメリカの場合
- 第5回 議会制の成立③—フランスの場合
- 第6回 議会制の成立④—ドイツの場合
- 第7回 政治参加の拡大①—イギリスの場合
- 第8回 政治参加の拡大②—アメリカの場合
- 第9回 政治参加の拡大③—フランスの場合
- 第10回 政治参加の拡大④—ドイツの場合
- 第11回 福祉国家の盛衰①—イギリスの場合
- 第12回 福祉国家の盛衰②—アメリカの場合
- 第13回 福祉国家の盛衰③—フランスの場合
- 第14回 福祉国家の盛衰④—ドイツの場合
- 第15回 おわりに—現代西洋政治の歴史的展望

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験(100%)でおこなう。
期末筆記試験は自筆のノートやメモの持ち込みを許可する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の受講にあたっては教科書の該当部分を一読しておくこと。
受講後は、各回ごとに、その回の内容をまとめたメモを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

初回に講義の進め方や成績評価方法などについて詳しく説明するので、履修予定者は特に留意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC113M	○	△	◎		
科目名	都市経済論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。本講義は、都市の経済的問題を基軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。
 講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとどういふことが、域内産業の特性との関連で見えていきます。
 さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。
 本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
- 川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論
- 佐藤泰裕(2014)『都市・地域経済学への招待状』有斐閣
- 山崎朗他(2016)『地域政策』中央経済社
- 小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか？
6. 都市空間の形成
7. 都市の成長と衰退① - 都市の構造、郊外化
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化のしくみ① - 域外マネーの獲得
10. 地域経済活性化のしくみ② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・出席レポート50%、期末試験50%
- ・一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
- ・授業終了後は反復学習を行ってください。

都市経済論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室いただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁とします。
- ・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。近年、打ち出されている「地方創生」の理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略性の洞察は不可欠です。

キーワード /Keywords

法学総論 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW100M	○	○	◎		
科目名	法学総論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それらを貫く背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義のねらいとします。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジュメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、六法は各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中山竜一、『ヒューマニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。(¥1,620)
長谷部恭男、『増補新版 法とは何か』、河出書房新社、2015年。(¥1,512)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる(べき)か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら?…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は?…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしボデイガードが殴ってきたら?…【国家=権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公/私の区別】
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法/私法】、【実体法/手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですか/反対ですか、それはなぜですか?…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします?…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 日常の授業への取り組み…30%
- (進行状況により、コメントカードの提出を求めることがあります)
- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験…70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
- 【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。

法学総論【昼】

履修上の注意 /Remarks

法(学)には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまずそれを着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、例外的な考えや細かな考えに繋げていってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

民法入門【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW160M	○	○	◎		
科目名	民法入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

民法とは、私たち私人（＝一般市民）間のさまざまな法律関係（財産関係や家族関係）に適用される最も基本的なルール（規律）を定めているものです。たとえば、コンビニでお菓子を買う（売買）、独り暮らしを始めるのでマンションの部屋を借りる（賃貸借）、結婚や離婚をする、親が亡くなったので財産を相続する、交通事故に遭ったので、加害者に対して損害賠償を請求する（不法行為）など、私たちの日常生活は、民法と無関係ではられません。この授業では、これらの法律問題を扱う法分野である「民法」の基礎・基本を学びます。

わが国の民法典という法律には、民法全体に共通するルールを定めた総則（第1編）を頂点に、物権（第2編）、債権（第3編）、親族（第4編）、および相続（第5編）と全部で5つの編が設けられています。

2019年度入学生の皆さんは、1年次2学期以降、北九大学部の新しいカリキュラムに沿って、「民法総則（上記民法典 第1編・総則について学ぶ講義）」および「親族法（第4編・親族について学ぶ講義）」という、財産法分野および家族法分野のスタートとして位置づけられる民法科目を1年次2学期に学びます（なお、これらの科目を履修しないことも可能ですが、民法学は、積上げ式かつ体系的で範囲の非常に広い法分野ですので、カリキュラムの配置に沿って各科目を履修されることを推奨します。）。そして、2年次以降は、1学期に「債権総論（上記第3編・債権の前半部分を扱う講義）」および「物権法（上記第2編・物権の前半部分を扱う講義）」を、2学期には、「債権各論I（上記第3編・債権の後半部分のなかでも、売買や賃貸借といった皆さんでもその名を聞いたことのある契約を主に扱う講義）」、「担保物権法（上記第2編・物権の後半部分を扱う講義）」、および「相続法（上記第5編・相続を学ぶ講義）」といった科目を履修することになるでしょう。最後に、3年次1学期に、「債権各論II（上記第3編・債権の後半部分中、売買や賃貸借以外の契約や不法行為（交通事故などが具体例）について学ぶ講義）」という科目を学んで、民法のすべての範囲をカバーすることになります。現行民法典は、上記5つの編で1,044条もの規定があり、これらをできる限り解りやすい順序で学修していく必要があります。

ところが、民法典は、「私法の一般法」という非常に重要かつ基本的な法律でありながら、最初の「総則（第1編）」の条文内容がどれも大変抽象的で解りにくく、そのため、最初に「民法総則」から学び始めると、その抽象的な内容に驚いて、たいいていの学生諸君は、あっという間に「民法アレルギー」に罹（かか）ってしまいます。

そこで、北九大学部では、今年度から、上記「民法典全5編」の内容について、具体例をできる限り多く交えながら、各編で最低限理解してほしいポイントを講義することで、1年次2学期以降履修していくことになる各民法科目のそれぞれの特徴や位置づけを明確にする言わば、「羅針盤・地図」に当たる科目を民法学の導入科目として新たに設けました。それがこの「民法入門」という科目です。皆さんが民法学の学習スタート段階でいきなり躓（つまづ）かないようにするために、すべての民法科目のダイジェスト版をこの授業では解りやすく講義します。

民法初学者である皆さんにとって、できるだけ解りやすく、かつ、具体的な場面・ケースを挙げて、民法上のさまざまな制度や概念、条文の解釈（論）等について、平易な解説を加えます。この講義を通じて、現代社会における民法の役割や目的を一緒に考えていきましょう。

ところで、2017（平成29）年5月、「民法の一部を改正する法律案」が国会で可決・成立し、同年6月に民法典は、実に約120年ぶりの大改正がなされました（改正民法公布）。そして、新しい改正民法の施行日は、来年（2020〔新元号2〕年）4月1日となります。まさに、民法は、改正法施行直前の状態にあります。このような状況を踏まえて、この講義では、現行法である「改正前の民法」の解説を基本線としながらも、皆さんが2年次になるときには改正民法が施行されることに考慮して、教科書は改正民法に対応したものを指定しました。また、講義の中でも、現行民法の各制度が改正民法ではどのように変わるのかについて、指定教科書をもとに、解りやすく解説します。

教科書 /Textbooks

- ① 生田敏康＝畑中久彌＝道山治延＝蓑輪靖博＝柳泉子『民法入門』（法律文化社、2017年）；定価（2,000円＋税）
※上記「授業の概要」で説明した通り、指定教科書は、「改正民法」に対応した内容となっています。講義内容は、「現行民法（改正前の民法）」を基本としますが、改正民法についても、この教科書で適宜説明します。改正民法対応なので、4年間使える教科書です。
- ② 最新年度の小型六法（出版社は特に問いません。）
※上記2点を購入し、毎回必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※さしあたり、○池田 真朗『スタートライン民法総論（第3版）』（日本評論社、2018年）；定価（2,200円＋税）を挙げておきます。その他の参考書については、講義の中で、適宜（レジュメにて）紹介します。

民法入門【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード・単元の小項目を示します。)
 ※レジュメ(プリント)を適宜配布しますが、上記指定教科書および六法は、毎回持参してください。
- 第1回：ガイダンス；民法入門【民法とは何を規律する法か？】、【民法の世界を図示する！？】、【私法の一般法】、【財産法と家族法】、【民法の3大原則(基本原理)】
- 第2回：民法を学ぶ上での基礎概念(条文の読み方も含む。)の修得とパンデクテン・システム入門【物権と債権】、【民法典の歴史と債権法改正など】、【法律要件・法律効果・法律事実・要件事実】、【パンデクテン・システム】
- 第3回：「民法総則」の世界①【民法総則という巨大な「共通因数？」】、【自然人と法人】、【権利能力・意思能力・行為能力】
- 第4回：「民法総則」の世界②【法律行為(民法総則の最難関?)】、【意思表示；意思の不存在と瑕疵ある意思表示?】、【代理】、【取得時効と消滅時効】
- 第5回：「物権法」の世界①【物権と債権の違い・物権の種類】、【私権の客体である「物」】、【所有権とその内容】
- 第6回：「物権法」の世界②【物権変動論】、【「公示の原則」と「公信の原則」とは?】、【即時取得】
- 第7回：「担保物権法」の世界と「債権総論」の世界①【担保物権の女王である「抵当権」】、【その他の担保物権】、【債権とは?再論】、【債権の目的と効力】
- 第8回：「債権総論」の世界②【責任財産の保全】、【多数当事者の債権関係】
- 第9回：「債権総論」の世界③と「債権各論」の世界①【債権譲渡・債務引受け・債権の消滅】、【債権各論とは何か?】、【契約とは何か?】、【契約の種類・分類】、【契約の成立・効力】
- 第10回：「債権各論」の世界②【契約の解除】、【典型契約とは?】、【贈与・売買】、【賃貸借・消費貸借】、【請負・委任】、【その他の契約?】
- 第11回：「債権各論」の世界③(最高裁判決を実際に読んでみよう!も予定。)
 【法定債権関係とは?】、【不法行為とは?】、【一般不法行為の要件と効果】、【特殊の不法行為】、【事務管理・不当利得】
- 第12回：「親族法」の世界①【婚姻(夫婦関係の成立とその効果)】、【婚姻の終了(離婚の要件と効果)】
- 第13回：「親族法」の世界②【親子法とは?】、【実親子関係】、【養親子関係】、【親権・後見・扶養】
- 第14回：「相続法」の世界【法定相続】、【遺産分割】、【遺言】、【遺留分とは何か?】
- 第15回：まとめ(債権法改正と相続法改正)【債権法改正の本質(契約法における「過失責任主義の放逐?」)】、【相続法改正がもたらすもの】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※中間レポートの成績(2,000字程度の予定).....20%
 ※期末定期試験の成績(60分間).....80%
 以上の合算(合計100%)で評価します。なお、期末定期試験は、「六法のみ持込み可」とする予定です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】上記指定教科書①の重要部分(レジュメに指定頁を記載予定)を次回授業時まで必ず「通読」してきてください。解からない部分にマーカーなどを付しておく、講義を聴く際に理解すべき点が明確になります。
- 【事後学習】レジュメ末尾に簡単な「理由を付す〇×問題」を掲載予定です。これを必ず解いて、理解度の把握・復習に務めてください。たまに抜打ち「小テスト」や「ミニ・レポート」作成をするかもしれません。

履修上の注意 /Remarks

- この科目は、「法学総論」および「日本国憲法原論」とともに、「導入科目群」として位置づけられています。法学を学ぶ上で、基礎・基本となる重要科目ですから、これらすべてをできる限り並行して受講し、学んだ内容を相互に関連付けられるようにしていただいね。
- また、六法は毎回必ず持参してください。法学を学ぶ者は、「スマホを忘れても、六法は忘れるな!」です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1年次2学期以降学んでいく、さまざまな民法科目で解からない点が出てきたとき、この授業の内容を思い出してもらえれば幸いです。そのような授業とするためにも、皆さんは、上記【事前学習】および【事後学習】にもしっかりと取り組んで、民法学習の良いスタートを切ってください。
- 講義内容で解からない点が出てきたときは、遠慮なくオフィス・アワーなどを使って質問をしてください。

キーワード /Keywords

- 民法とは?、現行民法と改正民法、民法(典)の歴史、私法の一般法、法律要件・法律効果・法律事実・要件事実、物権、債権、親族、相続、民法の解釈(論)

日本国憲法原論【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW120M	○	○	◎		
科目名	日本国憲法原論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法の基礎を学ぶ。
 憲法分野に関しては、この講義以降、「憲法人権論」「憲法機構論」「憲法訴訟論」とより専門的な講義が用意されているが、それらに共通する基本的な内容を概観することが本講義の目的である。
 また、本講義は、憲法のみならず行政法など公法科目の導入科目という位置づけである。
 本講義で日本国憲法の全体像を把握した上で、上記各専門科目へ進んでいってほしい。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法 第6版』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法 第7版』（新世社、2018年）
- 駒村圭吾編『プレステップ憲法 第2版』（弘文堂、2018年）
- 安藤高行編『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-近代国家の成立と憲法
- 第3回 憲法とは何か③-日本国憲法の基本原理と立憲主義
- 第4回 日本国憲法制定史①-大日本帝国憲法から新憲法制定へ
- 第5回 日本国憲法制定史②-マッカーサー草案から新憲法公布まで
- 第6回 平和主義①-その歴史性
- 第7回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第8回 平和主義③-日本の安全保障と平和主義
- 第9回 人権総論①-人権の歴史
- 第10回 人権総論②-人権の分類と制約
- 第11回 人権総論③-違憲審査の方法と私人間効力
- 第12回 統治機構総論①-国会
- 第13回 統治機構総論②-内閣
- 第14回 統治機構総論③-裁判所
- 第15回 地方自治制度

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。
 また、各回内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業の概要にも書いたように、憲法関連科目（および公法関係科目）の基礎となる講義なので、まずは本講義を受講してから他の憲法科目を受講することが望ましい。

日本国憲法原論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 平和主義 基本的人権 統治機構

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1回 ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・高校で生物を履修していない者は教科書または参考書入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容：50%
レポート試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、夜間授業のため少人数授業となる可能性が高い。そのため、一方的な講義型の授業形態ではなく、双方向の対話型授業にて実施する。授業中に発言を求める機会が多く存在することを理解して臨んでください。

環境問題概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

安全保障論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

安全保障論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献）
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて特講（テロリズム論）を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL003F	◎		○		○
科目名	現代の国際情勢				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野 日中台関係：ボーダーエリア
- 第3回 下野 日中台関係：国家の枠組みと社会
- 第4回 ウェイン The Rle of Public Spaces in Cities
- 第5回 大平 変容するアジア情勢（1）中国とインドの台頭
- 第6回 大平 変容するアジア情勢（2）日本の防衛力強化
- 第7回 大平 変容するアジア情勢（3）開発協力における熾烈な争い
- 第8回 金 日本の「戦後」の終わり
- 第9回 金 日本の対外関係の諸問題
- 第10回 金 戦後の国体、永続敗戦
- 第11回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第12回 寺田 インターネットを巡る国際情勢
- 第13回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト【世銀保証、IFC、Bローン、商社】
- 第14回 下野 台湾：歴史
- 第15回 下野 台湾：社会

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（7～14回）100% ※小テストは原則として各回実施しますが、詳細は各担当者が指示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。
授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

近代史入門【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』（中央公論新社）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）の基礎は、国連が定めた「SDGs」（持続可能な開発目標）のうち、「4. 質の高い教育をみんなに」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「10. 人や国の不平等をなくそう」「17. パートナリシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に随時提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

情報社会への招待【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。その他、ICTに関するニュースなどの世の中の動きを注視して情報収集することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

コンピューターリテラシー 【夜】

担当者名 古川 洋章 / 情報総合センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、コンピュータやネットワークを正しく操作するための知識と技術を習得することである。この授業は、初心者を対象としている。このため、実際にコンピュータを操作しながら、文書作成、表計算、グラフ作成などの基礎について学習する。また、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法についても学習する。具体的には、以下のような知識や技術の習得を目指す。

- ・ 文書作成の基礎
- ・ 表計算、グラフ作成の基礎
- ・ 電子メールの利用方法の基礎
- ・ 情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

土岐順子、山崎紅、阿部香織、川上恭子（株式会社イーミントラーニング）著『情報利活用 基本演習 Office 2016対応』日経BP社（2016年）、1,728円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 正確な文字入力【タイピング】
- 3回 電子メールの送受信方法【電子メール】
- 4回 ネットワークの光と影1【情報検索】【情報倫理】【セキュリティ】
- 5回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 6回 文書作成の基本操作【フォント】【中央揃え】【箇条書き】【段落番号】
- 7回 見やすい文書の作成【余白】【ページ設定】【ヘッダー】【フッター】
- 8回 図形の挿入、画像の貼り付け【図形】【画像の貼り付け】
- 9回 文書作成演習
- 10回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 11回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 12回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 13回 グラフ作成の基本操作【グラフ】
- 14回 表・グラフ作成演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題・・・60%
積極的な授業参加（電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習しておくこと。（必要な学習時間の目安は、10分。）授業終了後には、パソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、50分。）

コンピューターリテラシー 【夜】

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、初心者を対象としている。実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

タイピング、文書作成、表計算、グラフ、電子メール、情報倫理、セキュリティ

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを目の中ではなく外にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。その上で、「こころ」の問題で苦しさを抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から見た「こころ」がこんなにも違って見えるのかについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

印刷物は配布しません。学習支援フォルダにアップしますので、講義前にダウンロードしておいてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2.知覚1：目の前に見えることも「こころ」の一部である
- 3.知覚2：色はなぜ見える？
- 4.知覚3：形はなぜ見える？
- 5.知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6.目の動きから「こころ」を探る。
- 7.まばたきから「こころ」を探る。
- 8.注意1：どうしてわれわれは騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9.注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10.記憶1：数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11.記憶2：昔の記憶は忘れることはない
- 12.発達1：「こころ」はどのようにして芽生えてくる？
- 13.発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14.発達3：発達の問題に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15.まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：25点 レポート：25点 期末試験：50点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示します。

履修上の注意 /Remarks

授業中に近くの人と話し合ったり、近くの人同士で観察し合ったり、ということを行います。
授業中にコメント（認識を新たにした点、疑問点、コメント）を書いてもらいます。
指定した図書についての要約をレポートとして提出してもらいます。

現代人のこころ【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようにいろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

心理学，色知覚，奥行き知覚，形の知覚，眼球運動，瞳孔運動，まばたき，選択的注意，注意の見落とし，ワーキングメモリ，長期記憶，微笑，指さし，共同注意，心の理論，発達障害

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2268円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本的経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理想的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高畠・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 基礎的概念整理【民主制】【独裁制】【共和制】【君主制】
3. 近代的分類法【防禦民主主義】【均衡民主主義】【人民民主主義】
4. 民主主義の暴走【立憲主義】【司法独立】【指揮権】
5. 実証的民主体制論【ポリアーキー】【ダール】
6. デモクラシーの指標化【PolityIV】【Freedom House】
7. 民主制の多様性とその生存・品質 1: 制度【議会制】【大統領制】
8. 民主制の多様性とその生存・品質 2: 選挙【SMD】【PR】
9. 民主制の多様性とその生存・品質 3: 運用【ウエストミンスター型】【コンセンサス型】
10. 民主制の多様性とその生存・品質 4: 社会【コンソリドレーション型】【民族問題】
11. 公正な意思決定の不可能性【社会的選択】【選挙制度】【サイクル】
12. 民主制と独裁制の間で【経済成長】【社会厚生】
13. 権威主義体制とその分類【軍事独裁】【政党独裁】【個人・君主独裁】
14. 権威主義体制と選挙・政党【選挙の独裁強化機能】
15. 民主制⇔独裁制の体制変動【民主化】【独裁化】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

民主主義とは何か【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が変わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にして下さい。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません（それがない人を想定して授業を行います）。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

社会哲学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 近代とは何か【概説】
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【工場労働】
- 6回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 9回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 10回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 11回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 12回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 13回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教と近代化

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 中間テストの解説

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜身に課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

○○人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時にちょっとお金を払えば入手できます。この授業では、そのような小手先の異文化理解でなく、文化が異なるとはそもそもどういうことについて、もっと根本に戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなたの考えを知りたいと思う人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

市民活動論 【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルス【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達の視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）にも触れる。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理……青年期のこころの病
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

メンタル・ヘルス【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自立的行動力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

憲法人権論【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW220M	◎	○	○		
科目名	憲法人権論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本国憲法は、基本的人権を保障している。人権は、原則として、市民が国家に対して自由や平等、社会的給付を要求できることを保障している。人権の内容は、歴史的にも、各国の憲法によっても様々である。

この講義のねらいは、次の3つである。

- ①人権の思想史的沿革や体系、
- ②各人権条項の意義や構成、法的判断の仕方、
- ③判例における実際の適用のあり方を学ぶこと。

また、海外の憲法における基本的人権のあり方との違いにもふれる。

教科書 /Textbooks

斎藤 一久・堀口 悟郎編著『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法（第7版）』（新世社、2018年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論① -イントロダクション
- 第2回 総論② -人権の分類と人権享有主体
- 第3回 人権の制約原理 -公共の福祉
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 表現の自由①
- 第6回 表現の自由② -知る権利と報道の自由
- 第7回 思想・良心の自由
- 第8回 信教の自由と政教分離
- 第9回 学問の自由
- 第10回 職業の自由
- 第11回 財産権
- 第12回 社会権① -労働基本権
- 第13回 社会権② -生存権
- 第14回 平等権
- 第15回 適正手続

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（70%）、日常の授業への取り組み（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レジユメの予習・復習、教科書等の該当箇所を読む。

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。
事前に「学習支援フォルダ」にレジユメをアップすることがあるので、各自印刷して持参すること。

憲法人権論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

社会法総論【夜】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW140M	○	◎	○		
科目名	社会法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

私たちが生きていくためには、「社会」との関係は切り離すことはできない。「社会」という概念は広範にわたるものであるため、「社会法」というと、法と呼ばれるもの全部が社会法ということもできるかもしれない。しかし、法学分野で「社会法」と捉えられているものは、主として労働法及び社会保障法である。本講義では、2年次生から専門的に学ぶことになるこれら2領域の基本的な問題について理解を深める。一般に「社会人」と呼ばれる人々はどういう人々だろうか？皆さんは「学生」で「社会人」とは呼ばれない（もちろん、中には「社会人」学生の方々もおられるが）。つまり、一般には、「社会人」とは、働いている＝労働している人々を指していると考えられる。この講義では、雇用労働に就いた労働者の職業活動をめぐる様々な問題（労働法領域）や、我々が生活を送っていく上で遭遇する諸問題（社会保障法領域）に対し、法がどのように関わっていくのかについて、できる限り具体的な例を提示しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布し、これに従って進行する。
ただし、法律科目であるので、講義中（試験も含め）関係する法律の条文を引くことになるため、関係諸法律が掲載されている六法を用意してもらうことになる。詳細は、初回講義時に説明するので、受講者は必ず出席すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法、社会保障法領域における基礎的な知識の修得を目的とする。具体的には、雇用労働の場において労働者と使用者との間を規律するルールにはどのようなものがあるのか、それはどのような考え方に基づくものであるのか、労働と緊密な関係にある各種社会保険制度（特に労働保険領域）では、労働者の生活を守るためにどのような仕組みが作られているのか、そこではどのような個別具体的な問題が生じているのか、などについて講義する。
おおよその予定は以下の通りであるが、受講生の反応・希望により変更する可能性もある。

- 第1回 インタロダクション～「社会法」とは？
- 第2回 労働法の世界①～労働法の主要アクターと労働条件の決定
- 第3回 労働法の世界②～採用プロセスの規制と平等原則【採用内定】【試用】
- 第4回 労働法の世界③～賃金・労働時間の規制
- 第5回 労働法の世界④～休憩・休日等の規制【時間外労働】【三六協定】
- 第6回 労働法の世界⑤～休業等の規制【年次有給休暇】
- 第7回 労働法の世界⑥～解雇に関する規制【解雇権濫用法理】
- 第8回 社会保障法の世界①～労災保険って？
- 第9回 社会保障法の世界②～業務災害【業務起因性】、通勤災害
- 第10回 社会保障法の世界③～労災を起こした使用者の責任【労災民訴】
- 第11回 社会保障法の世界④～雇用保険って？
- 第12回 社会保障法の世界⑤～基本手当①【受給要件】
- 第13回 社会保障法の世界⑥～基本手当②【給付内容】
- 第14回 労働法・社会保障法領域における近年の動向
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験により評価する。
* 期末試験...100%

社会法総論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 配布されたレジюмеに目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講した後、「雇用関係法」「労使関係法」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講すると、社会法領域の知識をまんべんなく修得できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
休講, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC114M	○	△	◎		
科目名	NPO論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 本年から『北九州NPOハンドブック(第6版)』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○榎原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。
坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』(法律文化社、2017年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 15回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。

NPO論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN113M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (戴下史郎ほか訳) 『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：【余剰】
- 6回 市場と厚生(2)：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2)：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN114M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその運動のメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム (1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム (2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム (3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム (4) 【資産価格バブル】 【投機的取引】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム (5) 【バブルと資源配分】
- 7回 GDPとマクロ経済循環 (1) 【GDP】 【付加価値】 【最終財】
- 8回 GDPとマクロ経済循環 (2) 【三面等価】 【貯蓄投資バランス】
- 9回 GDPとマクロ経済循環 (3) 【GDPデフレーター】
- 10回 GDP決定理論 (1) 【完全雇用GDP】 【有効需要原理】 【ベビーシッター組合の寓話】
- 11回 GDP決定理論 (2) 【消費関数】 【45度線分析】
- 12回 GDP決定理論 (3) 【比較静学】 【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論 (4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論 (5) 【外国貿易乗数】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%， 期末試験：75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法入門【夜】

担当者名 /Instructor 畑中 久彌 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW160M	○	○	◎		
科目名	民法入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

民法とは、私たち私人（＝一般市民）間のさまざまな法律関係（財産関係や家族関係）に適用される最も基本的なルール（規律）を定めているものです。たとえば、コンビニでお菓子を買う（売買）、独り暮らしを始めるのでマンションの部屋を借りる（賃貸借）、結婚や離婚をする、親が亡くなったので財産を相続する、交通事故に遭ったので、加害者に対して損害賠償を請求する（不法行為）など、私たちの日常生活は、民法と無関係ではられません。この授業では、これらの法律問題を扱う法分野である「民法」の基礎・基本を学びます。

わが国の民法典という法律には、民法全体に共通するルールを定めた総則（第1編）を頂点に、物権（第2編）、債権（第3編）、親族（第4編）、および相続（第5編）と全部で5つの編が設けられています。

2019年度入学生の皆さんは、1年次2学期以降、北九大学部の新しいカリキュラムに沿って、「民法総則（上記民法典 第1編・総則について学ぶ講義）」および「親族法（第4編・親族について学ぶ講義）」という、財産法分野および家族法分野のスタートとして位置づけられる民法科目を1年次2学期に学びます（なお、これらの科目を履修しないことも可能ですが、民法学は、積上げ式かつ体系的で範囲の非常に広い法分野ですので、カリキュラムの配置に沿って各科目を履修されることを推奨します。）。そして、2年次以降は、1学期に「債権総論（上記第3編・債権の前半部分を扱う講義）」および「物権法（上記第2編・物権の前半部分を扱う講義）」を、2学期には、「債権各論I（上記第3編・債権の後半部分のなかでも、売買や賃貸借といった皆さんでもその名を聞いたことのある契約を主に扱う講義）」、「担保物権法（上記第2編・物権の後半部分を扱う講義）」、および「相続法（上記第5編・相続を学ぶ講義）」といった科目を履修することになるでしょう。最後に、3年次1学期に、「債権各論II（上記第3編・債権の後半部分中、売買や賃貸借以外の契約や不法行為（交通事故などが具体例）について学ぶ講義）」という科目を学んで、民法のすべての範囲をカバーすることになります。現行民法典は、上記5つの編で1,044条もの規定があり、これらをできる限り解りやすい順序で学修していく必要があります。

ところが、民法典は、「私法の一般法」という非常に重要かつ基本的な法律でありながら、最初の「総則（第1編）」の条文内容がどれも大変抽象的で解りにくく、そのため、最初に「民法総則」から学び始めると、その抽象的な内容に驚いて、たいいていの学生諸君は、あっという間に「民法アレルギー」に罹（かか）ってしまいます。

そこで、北九大学部では、今年度から、上記「民法典全5編」の内容について、具体例をできる限り多く交えながら、各編で最低限理解してほしいポイントを講義することで、1年次2学期以降履修していくことになる各民法科目のそれぞれの特徴や位置づけを明確にする言わば、「羅針盤・地図」に当たる科目を民法学の導入科目として新たに設けました。それがこの「民法入門」という科目です。皆さんが民法学の学習スタート段階でいきなり躓（つまづ）かないようにするために、すべての民法科目のダイジェスト版をこの授業では解りやすく講義します。

民法初学者である皆さんにとって、できるだけ解りやすく、かつ、具体的な場面・ケースを挙げて、民法上のさまざまな制度や概念、条文の解釈（論）等について、平易な解説を加えます。この講義を通じて、現代社会における民法の役割や目的を一緒に考えていきましょう。

ところで、2017（平成29）年5月、「民法の一部を改正する法律案」が国会で可決・成立し、同年6月に民法典は、実に約120年ぶりの大改正がなされました（改正民法公布）。そして、新しい改正民法の施行日は、来年（2020〔新元号2〕年）4月1日となります。まさに、民法は、改正法施行直前の状態にあります。このような状況を踏まえて、この講義では、現行法である「改正前の民法」の解説を基本線としながらも、皆さんが2年次になるときには改正民法が施行されることに考慮して、教科書は改正民法に対応したものを指定しました。また、講義の中でも、現行民法の各制度が改正民法ではどのように変わるのかについて、指定教科書をもとに、解りやすく解説します。

教科書 /Textbooks

- ① 生田敏康＝畑中久彌＝道山治延＝菱輪靖博＝柳泉子『民法入門』（法律文化社、2017年）；定価（2,000円＋税）
※上記「授業の概要」で説明した通り、指定教科書は、「改正民法」に対応した内容となっています。講義内容は、「現行民法（改正前の民法）」を基本としますが、改正民法についても、この教科書で適宜説明します。改正民法対応なので、4年間使える教科書です。
- ② 最新年度の小型六法（出版社は特に問いません。）
※上記2点を購入し、毎回必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※さしあたり、○池田 真朗『スタートライン民法総論（第3版）』（日本評論社、2018年）；定価（2,200円＋税）を挙げておきます。その他の参考書については、講義の中で、適宜（レジュメにて）紹介します。

民法入門【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード・単元の小項目を示します。)
 ※レジュメ(プリント)を適宜配布しますが、上記指定教科書および六法は、毎回持参してください。
- 第1回：ガイダンス；民法入門【民法とは何を規律する法か？】、【民法の世界を図示する！？】、【私法の一般法】、【財産法と家族法】、【民法の3大原則(基本原理)】
- 第2回：民法を学ぶ上での基礎概念(条文の読み方も含む。)の修得とパンデクテン・システム入門【物権と債権】、【民法典の歴史と債権法改正など】、【法律要件・法律効果・法律事実・要件事実】、【パンデクテン・システム】
- 第3回：「民法総則」の世界①【民法総則という巨大な「共通因数？」】、【自然人と法人】、【権利能力・意思能力・行為能力】
- 第4回：「民法総則」の世界②【法律行為(民法総則の最難関?)】、【意思表示；意思の不存在と瑕疵ある意思表示?】、【代理】、【取得時効と消滅時効】
- 第5回：「物権法」の世界①【物権と債権の違い・物権の種類】、【私権の客体である「物」】、【所有権とその内容】
- 第6回：「物権法」の世界②【物権変動論】、【「公示の原則」と「公信の原則」とは?】、【即時取得】
- 第7回：「担保物権法」の世界と「債権総論」の世界①【担保物権の女王である「抵当権」】、【その他の担保物権】、【債権とは?再論】、【債権の目的と効力】
- 第8回：「債権総論」の世界②【責任財産の保全】、【多数当事者の債権関係】
- 第9回：「債権総論」の世界③と「債権各論」の世界①【債権譲渡・債務引受け・債権の消滅】、【債権各論とは何か?】、【契約とは何か?】、【契約の種類・分類】、【契約の成立・効力】
- 第10回：「債権各論」の世界②【契約の解除】、【典型契約とは?】、【贈与・売買】、【賃貸借・消費貸借】、【請負・委任】、【その他の契約?】
- 第11回：「債権各論」の世界③(最高裁判決を実際に読んでみよう!も予定。)
 【法定債権関係とは?】、【不法行為とは?】、【一般不法行為の要件と効果】、【特殊の不法行為】、【事務管理・不当利得】
- 第12回：「親族法」の世界①【婚姻(夫婦関係の成立とその効果)】、【婚姻の終了(離婚の要件と効果)】
- 第13回：「親族法」の世界②【親子法とは?】、【実親子関係】、【養親子関係】、【親権・後見・扶養】
- 第14回：「相続法」の世界【法定相続】、【遺産分割】、【遺言】、【遺留分とは何か?】
- 第15回：まとめ(債権法改正と相続法改正)【債権法改正の本質(契約法における「過失責任主義の放逐?」)】、【相続法改正がもたらすもの】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※中間レポートの成績(2,000字程度の予定).....20%
 ※期末定期試験の成績(60分間).....80%
 以上の合算(合計100%)で評価します。なお、期末定期試験は、「六法のみ持込み可」とする予定です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】上記指定教科書①の重要部分(レジュメに指定頁を記載予定)を次回授業時まで必ず「通読」してきてください。解からない部分にマーカーなどを付しておく、講義を聴く際に理解すべき点が明確になります。
- 【事後学習】レジュメ末尾に簡単な「理由を付す〇×問題」を掲載予定です。これを必ず解いて、理解度の把握・復習に務めてください。たまに抜打ち「小テスト」や「ミニ・レポート」作成をするかもしれません。

履修上の注意 /Remarks

- この科目は、「法学総論」および「日本国憲法原論」とともに、「導入科目群」として位置づけられています。法学を学ぶ上で、基礎・基本となる重要科目ですから、これらすべてをできる限り並行して受講し、学んだ内容を相互に関連付けられるようにして行ってください。また、六法は毎回必ず持参してください。法学を学ぶ者は、「スマホを忘れても、六法は忘れるな!」です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1年次2学期以降学んでいく、さまざまな民法科目で解からない点が出てきたとき、この授業の内容を思い出してもらえれば幸いです。そのような授業とするためにも、皆さんは、上記【事前学習】および【事後学習】にもしっかりと取り組んで、民法学習の良いスタートを切ってください。
- 講義内容で解からない点が出てきたときは、遠慮なく質問をしてください。

キーワード /Keywords

- 民法とは?、現行民法と改正民法、民法(典)の歴史、私法の一般法、法律要件・法律効果・法律事実・要件事実、物権、債権、親族、相続、民法の解釈(論)